し得るからだ。西哲は『復讐する人の損害は復讐を受くる損害に數倍する』といつたが此れは至言だ。徳川家康は私の蟲の好かぬ人間だが近世の偉傑である。その家康がよく大事業を成し遂げた祕訣を晩年人に語つて『俺は復讐の念に打ち克つた。忍び得た。俺が一生涯肝に銘じて守り實行した一言は老子の怨に報ゆるに徳を以てすの一言だ』といつたさうであるが、『報怨以徳』といふ老子の一言は實に妙味がある。只それを躬に體して如何なる程度まで實行し得るかで其人の値段がわかるのであらう。

同志諸君は各自に自己の所見を是として居られるのであるから他の同志に對して或ひは齒がゆくもどかしく感じて居られる人もあらうが、山上修法のやうな場合には特に一切の我見を打棄てて天行居精神の一枚になり切つて頂きたい。政友會の人は民政黨の人を國賊のやうに云ひ、民政黨の人は政友會の人を亂臣のやうに言ふ。それは多くは或る政策なり事件なりに對する見解の相違と先入主的感情から然らしむるので、雙方ともに忠誠を以て君國を念として居らるゝ人達の集りであらう。天行居同志の中にも誠意專純に天行居のためと思ひながら甲乙相容れないといふ感情を抱いて居らるゝ人が居られるやうである。神様が御覽になれば何れも立派な同志であらう。どうぞ修法の時は一心一念に凝り固つて頂きたい。

天行居の同志間の一部に言ひごとの絶えないのは實は石城山の或る靈的關係もあるので或る程度まではあきらめてよい。それが却て天行居の清涼劑となり防腐劑ともなるのである。みんなムキになつてやつてるけれど實は靈界から働かされて居るのだ。又た『天行居は天下至變の中心なり』といふ以上折にふれては世相と相影響することもある。これは善きにつけ惡しきにつけ神ながらのムスビであつてやむを得ぬ。そのために犧牲になられる御方には私情に於ては實に氣の毒でならぬが、どうすることも出來ぬ。或人は『吾れを試みに逢はし給ふな』と神に祈り、山中鹿之助は『我れに七難八苦を與へよ』と祈つたと傳へられるが、相反する如くにして其の實は同じ心であらう。何も彼も修養の道場たる此の世界に生れた限り、必ずしも天行居ばかりのことではない。

× × ×

ゆるせよ、忍べよ、……と云つたところで是非を明らかにし、破邪顯正のために努力せねばならぬ場合も稀れには無いではない。大きく云へば今回の國體明徴のための朝野各機關の努力も破邪顯正のためである。大小公私みな破邪顯正の必要はある。

しかし事が濟めば其れでよい。感情の尾鰭をつけて何時までも憎愛の念に燃ゆるのは自ら苦し

むだけのものだ。風去て竹聲をとゞめずといふ風に男の子はサツパリとしなければならぬ。その點になると政治界の連中などは面の皮が厚くなつてるおかげかも知れんが割合に修行が出來て居て議場でいがみ合つた先生が旅館に歸ると『やあ』『よう』といつた風で笊碁に夢中になつたりする。神道人たるものは糞切れよく男らしくやらなければ面白くない。愛といひ憎といふも本來『ますみのむすび』で掴みどころはない。他人にも念の本體は無く自己にも念の本體は無い。それは其のときの『むすび』によつて現はれるだけのもので、そのむすびも實は『ますみのむすび』なのだ。自他の念なるものが『ますみのむすび』である。それは自己の本體でもなく、自己の本體に非ざるものでもない、だからこそ神通も感應も出來るのだ。然らば自己の本體とは何だ。言語道斷。天照大御神は只だ『此れの鏡は專ら我が御魂として吾前を拜くが如く拜きまつれ』と詔りしたまへり。神さびたりとも神さびたり。古事記序文に『本教に因て』と明記してあるが、本教とは何であるか。太古より神ながらの教が存在したのを語りつがれたのである。記紀の如きは只の不完全なる國史であるとか、我國の上古に何の教無しとか、宗教的な思想は海外から渡來したものだとか、我國の上古は一種の低級な呪物崇拜の如き原始的信仰があつたのみだとか、そとはかとなき俗學の紛々たる學說に迷ひ、天上將來の神教のあつたことを疑ひ、古神道の存在を

否定する滔々たる天下の俗論の中に、孤節卓立、石城山に眞正なる古神道の學壘を築き、敢然として戰はんとする我等天行居同志の雙肩の荷物も亦た相當の重量があるやうだ。天上將來の神ながらの教は卽ち神ながら言擧げせざる道である。老子の謂ふ所の不言之教である。不言なるが故に教無しとは云へぬ。神道は教中の教王なるが故に不言之教である。その不言之教の雲中の片鱗を我が古典は傳へて居り、而かも其れが神界の實相と合符して居るのである。念のために言つておくが古事記卷頭の序文は後世の僞作とする說は德川時代からあるが其の然らざることは先年來屢說の如し。佛教の如きも千言萬語だが結局は維摩の一默に歸するのだ。しかも我が古神道は決して維摩の一默の亞流ではない。理事一如を以て神ながらの道が明示してあるのだ。

× × ×

自己の本體でもなく自己の本體に非ざるものでもない……そんな理窟は封をしておいて言擧げせぬ神ながらの道の祕奧に參せんとならば、石城山道場へ來て馬鹿になつて修行し、十言神咒を熱唱せらるゝがよい。いつかは只だ神光の中に熔け込んで神光の外にも神光の內にも自己無きところに自己の本體を見るの大歡喜の時節があるであらう。百丈山の大將は『靈光獨耀迴絕根塵』といつたが或ひは同じやうな境地であらうか。根と塵とは物質界と精神界とみても

よからう。それがむすぶところ只だ靈光のみである。靈光の外に根も塵もない。靈光獨り耀きて迥かに根塵を絶す。熱心な眞の求道者が小成に安んぜず人を相手にせず自己を相手にせず馬鹿になつて何回でも重ねて石城山道場の修齋會に參加せられるのは實に嬉しい。

『むすび』は相續すれども實體無きものである。すなはち『ますみのむすび』である。形而上なると形而下なるとを問はず何も彼も鏡に影の現ずるが如きものである。

明治天皇御製

うちむかふたびに心をみがけとや
鏡は神のつくりそめけむ

× × ×

去る大正十三年秋、神界へ執奏方を私へ申込んで來られて本年八月二十六日を以て三千善の修行を滿了せられた同志がある。春風秋雨十一年、輝く同志の足跡を見て嬉し涙が出た、理窟抜きで修善積德の實踐實行をやつて行かれる同志が次第に增加して來た。

× × ×

明年（昭和十一丙子年）から十二年間（昭和二十二丁亥年迄）が大機中の正念場であるにもせよ追てることは少しもない。天行居も大概の見當は明後年（昭和十二年）の秋頃でないと明瞭にならぬかも知れず其れ迄はまだ萬事見透しのつきかねることもあるだらうが、それは吾々凡俗の人間が云ふことだ。神界の方では何も彼も殆ど大綱は決定されてゐるに相違ない。又た天行居としても極めて重要な或る準備だけは勿論用意がある。いかに想像力の鋭い同志諸君でも夢にも考へ及ばれないだけな用意が出來て居らいで大きなことが言へるものではない。

けれども第二次的な準備用意がまだ殆ど出來て居らぬと云つてもよい。それが今後研究工夫努力を要する點で、特に全國同志諸君の深い理解と强い協力を要するところである。そこまで神様にすがるわけには行かぬ。人間の道をつくさなければならぬ、併しやれない場合はやれるだけのことをするまでだ。突如として局面が急迫した時は六十日もあれば拙速の準備は出來る。

× × ×

政府は去る八月三日聲明書を發して『政府ハ愈々國體ノ明徵ニ力ヲ效シ其ノ精華ヲ發揚センコトヲ期ス、乃チ玆ニ意ノ在ル所ヲ述ベテ廣ク各方面ノ協力ヲ希望ス』と云つて居るから政府の努力は將來にあるものと思ふが實際いかなる方法を以て如何に努力せんとするのか、吾々としてはどうも不安心な點がないでもない。政府の右の聲明書の初頭には『我ガ國體ハ天孫降臨ノ際下シ

賜ヘル御神勅ニ依リ昭示セラル、所』とあるが、天孫が何處から何處に降臨したまへるかに就て政府は明確なる說示の用意を有する乎。又た御神勅の意義に就ても明確な說示の用意を有するのであらう乎。

しかし吾々は政府を責めるやうな立場に居るものでなく、靈的立場から吾々の使命に努力するの外はない。天地八百萬神靈に禱り奉る。われら天行居同志の大願をあはれみたまへ。

× × ×

明治天皇御製

いそのかみふることふみをひもときて
聖の御代のあとをみるかな

「ふることふみ」

畏れながら『ふることふみ』とは何を指し給へるやらむ。德川期以來の語釋例によれば古事記を指し給へるものと拜してよからうと思ふ。更らに廣く謹解して記紀風土記等を併せて指し給へるものと拜することもよろしいかも知れぬ。『聖の御代』とは上古神聖の御代を指し給へるならむ。わが皇典に對する近ごろの學者の態度に想ひ到るとき、畏れながら此の御製を拜して嚴肅なる感慨に打たれざる人があらう乎。

（昭和十年十月一日）

神道一家言（七）

天關打開の意義

天行居では以前から『天關打開』といふことを言ひつゞけて來て居るが其れはどういふ意味か。從來の古道紙上の記事等で分明なやうでもあるが併し何となく種々の意味に解せられるやうでもある。それに就て改めて一言して貰ひたいといふ註文が來た。同じことを何度もくり返して申上げるのはどうかと思ふが、それでは改めて一言することにする。

× × ×

われ〳〵が多年唱道して居るところの天關打開といふ意味は要するに岩戸びらきといふ意味なのである。『天關』とは『天之磐門』といふ意味である。『打開』とは『押し開く』または『押し開かれる』といふ意味である。字義に就ての議論でなく、吾々の考へは左うなのである。用語の妥當なるや否やは有閑君子におまかせしておく。

我國の古傳によれば、太古に於て岩戸びらきといふことがあつた。それによつて暗い世界が明るい世界になつた。しかし其れは天上に於てのことである。そのことが今や地上に於て顯現する

ものと吾々は信じて居る。それは天定天子たる大日本天皇の威德が地上に完全に光徹することを中心條件として行はれるものと信ぜられる。それは日本が世界を征服するといふ意味ではない。世界の諸民族は其の國土の歴史や國家組織に格別な壓迫や不快を感ずることなくして行はれ、それによつて世界諸民族は正しい安心の出來る平和と幸福とが得られるやうになるのである。

或者は云ふであらう。『それは井の内の蛙の見解だ。アフリカあたりへ行つて見ろ。日本人などは土人扱ひだ。白人が有色人種に對して抱く優越感は消すに消せない根強いものだ。天行居で云つてることは識者の前では一笑の價値すらなき舊式の世間知らずの御國自慢の妄想だ。』と。

その世界の人たちの誤つた考へが是正されるのが天關打開である。それには必ず世界諸民族を心服せしめ悅服せしめるに足るところの神異現象も發現するが、人間的な努力も必要である。それは色々の事件と方法とによつて行はるべきもので、そのプランは大體に於て神界に於て決定されて居るので、今は其れが急速力で加速度的に展開されんとして居る有史以來無前の驚くべき一大時機に際して居るので、それを吾々天行居同志は簡略に『大機』と稱して居るのである。

× × ×

日本人でありながら斯かる一大自覺を嘲笑することが識者の體面であるかの如く考へて居る人

の多い間に、却て外國人の中に段々と此の神界大經綸の氣線と地上人類の歸着點とに就て朧ろげながら靈感的に發悟し正しい見解を抱く人たちが出てくるのは面白い。たとへばアインスタイン博士の如きは次ぎの如く言つて居る。

近ごろ日本の發展ほど世界を驚かしたるものの無し。その神祕的なる發展力の底には何か他國と異るものなからざる可らずと思ひしに日本の歴史は其れなりき。その三千歳の歴史が一系の天子を戴くといふ絶類の國體こそは日本を今日あらしめたるものなりき。余は此の地上に於て何處か一國だけは斯かる尊き國體を有するもの無かる可らずと思惟し居たりき。世界は進み且つ進み、戰ひ且つ戰ひ、最後は疲勞の時期に到達すべし。然る時に於て地上人類は必然眞實の正しき平和を要求して地上の盟主を仰ぎ求むるならむ。その地上の盟主たる資格は武力にあらず金力にあらず萬國の歴史を超越したる最も古くして最も尊嚴なるものたるを要す。

× × ×

アインスタイン博士に類した意見を發表した外國の名士は他にもあるが、世界の進路に就て其の正しい結論の一面を髣髴せしめるものである。我國の國民は近ごろ所謂日本精神に自覺して來たと云はれるけれど、明治初年以來白人文化に心醉して來た毒素といふものは殆ど全身に滲み渡

つて居るので、なか〳〵容易に『神國日本』に目ざめることは困難である。實に奇怪極まる驚くべき日前の事實だ。

しかし幕末以來今日まで特に白人文化を輸入し消化し利用する必要はあつた。それも神ながらの必然の數である。何事にも利弊は相伴ふものであるから其れが爲めに勢ひ外尊内卑の思想を培養したことも或る程度までやむを得ないことであつたと云へる。併し飲食には必ず排泄が必要である。日本國の文字ある階級の大部分は今尚ほ便祕患者だから厄介だ。

白人勢力の危機

× × ×

近ごろ世界の思想家、經世家、政治家の中には白人勢力の危機を論ずる傾向の人が各方面に於て意見を發表しつゝあるやうである。その所見の角度は同一ではないが結論は白人勢力の危機を説いて居るやうである。神慮による世界の狀態は惡平等主義が理想でなく、天理に契つた等差が必要で惡平等主義は一時的には一知半解の哲理的滿足感に人間性の弱點を心醉せしめる力があるが必ず行きつまりを生ずるもので、ロシヤ政府の如きも兩三月前赤軍の大改革を實行し階級を制定して殆ど帝政時代の昔に歸つたとのことであるが其れも必然の數なのである。併し天理に反した不平等も亦た當然行きつまりを生ずるものである。白人が世界を白人だけの世界のやうに考

へ白人に非ざる生類は白人の生活を補助するために存在するやうに考へた長い期間の習性は遂に今日の白人勢力の危機を將來するに至つたのである。露骨に一例を云へば英米の如き特に米國の如きはどうである乎。天然の資源も豐富に過ぎるほど占有し生活の場面たる土地も廣大に過ぎるほど持つて居りながら生活を求めて他より來るものを拒み、更らに遠く他の領域に手を差し延べて種々の面白からぬ問題を孕ませながら今日までやつて來たのである。日本や伊太利や獨逸とは全く事情が異るのである。英國の如きも未だに夢が醒めず時折勝手な策動をして天理に反した不平等な權益を手放すまいとし、或ひは更らに新たに摑まんとして老獪な手段を恥ぢないやうであるが、天理に反したことは一時成功することはあつても早晩必然的にやつてくる其の反動が恐ろしいぞ。……天關打開には色々の國際的葛藤が想像されるのも當然のことであらう。

大機は何時くる乎

× × ×

そんなら其の大機は何時やつてくる乎。これが天行居同志が三人集れば話題になるものらしいが、毎度いふ通り既に世界は大機の中を行進中である。そんならば大機中の正念場ともいふべき時期は昭和何年から何年まで乎……といふやうな質問をしたがる人もあるが、それに正しい答へをするには『わからない』と答へるの外はない。現界に於て或る一國が他の國に對して或る決意

を實行せんと計畫して居ても、其の年月日は種々の情勢の變化によつて多少の修正を生ずるのが十に九までである。群魔雲霞の中に於て正神界の經綸が動くことも亦た同樣の意味のもので、大機の正念場は昭和何年から何年迄だといふことは本來考へられないことで、そんなことを强ひて彼れ此れ評議するのは神人兩界の微妙な交渉を知らぬ人が言擧げするので、敢てそれを言擧げするのは神慮を冒瀆するものである。

しかし調子を一段と低くして種々の誰の眼にも映ずる事情を綜合して一つの天行居的常識觀を編成し、今後十年內外の間が極めて重大な時機だといふ位ゐなことは申しても差支はあるまいと思ふ。つまり今後十年內外の間に天關打開の神業の荒ごなしだけは出來るのではないかと見るのが天行居的常識觀として妥當に近いものであらうかと思はれるのである。天關打開の神業が完成するのは神異的な現象や或國と或國との國交の破綻に伴ふ葛藤だけで濟むといふやうな單純なものではない。それには多くの科學者や政治家や教育家の靈感的發見を應用した研究と努力とが集積されなければならぬから相當に長期の年月を必要とするかも知れない。

しかし其の大概の荒ごなしだけは今後十年內外の間に出來るものと覺悟して用意するのが吾々の穩健な態度であると信ずる。

必然的な世界大動亂

我れに待つあるを恃む

× × ×

兩三月前に行はれた國勢調査によると我國の全版圖における人口總て九千九百餘萬、昭和五年に比して五年間に七百萬人增加して居るが、さて〳〵日本婦人の底力の强さには敬服の至りで、この增加率はまだ〳〵當分停止するやうなことはあるまいと思ふ。まことに芽出たいことであるが、併し何とかせねば實際やりきれないのだ。この旺盛な人口膨脹率と殆ど其れに比例する我國の工業生產力や土地利用能力を天は如何にして調整せんとするのであるか。今や所謂世界再分割論の研究時代となりつゝあるが、——日本ばかりの問題にあらず——其の不可抗力的な衝動から必然的に湧起せんとする世界大動亂は如何に天才的な大政治家の一和的解決策でも其の成功は覺束ありとは考へられぬ。

國際的な不安ばかりではない。今日地上の人類の大部分は實際に於て思想的にも信仰的にも生活樣式的にも貨幣制度的にも何にも彼にも行きつまツて居るのだ。舊世界を一夜の間に吹き飛ばさんとする突風は何時起らぬともわからぬ時代となつて來た。

× × ×

今度横鎭から軍事參議官に轉ぜられた末次大將が先達てまで聯合艦隊司令長官だつた時、古兵

家の言を引いて、敵の來らざるを恃むことなく我れに待つあるを恃むといふことを言はれたが、ひとり海軍のみならず、全日本人が此の覺悟を一日半夜も忘れてはならぬ時代だ。殊に天行居同志としては此の覺悟に一層の切實感があらねばならぬのだ。大機が何時爆發するか、如何なる意味の敵が何時襲來するか、それは聲だけで敵は來ないだらう、イヤ更らに努力して敵が來ないやうにしなければならぬ……と考へてる人もあらうが、それは少しもタノミにはならぬ。いつ敵が突然にやつて來ても其れに對應する確實な準備、すなはち我れに待つあるこそタノミである。

泥坊といふものは滅多に侵入するものではないが、各戸に泥坊を防ぐだけの或る程度の用意と方法とが必要である如く、敵の來らざるを恃まず我れに待つあるを恃むでなければならぬ。しかも種々の意味に於ける敵が虎視眈々として四周に待機して居るのみならず、必ず我れに飛びかゝつてくる態勢が刻々として危險性を增加しつゝあるのであるから、並大抵な泥坊よけの用心位ゐでは駄目だ。充分なる準備が必要だ。天行居の大使命の一つは此の大機に際して靈的國防の任に當るといふことであるが、天行居同志は其の覺悟と準備とに就て此際あらためて自己檢討をやる必要はないか。

× × ×

何といつても天の時である。日本といふ國に如何なる使命があるか、果して天意が特別の交渉を日本國民に結びつけて居るか。それは日本の歷史をみても分明だが、日本國土の地形をみてもわかることだ。世界地圖をひろげ、又た東洋地圖をひろげて一夜靜かに考へてみて貰ひたい。文化交渉關係や國防關係等を歷史的に地圖面で考へてみれば思ひ半ばに過ぐるものがあらねばならぬ。何も彼も好都合に出來て居るのだ。それは多少の專門的知識を參照するにつれて一層明確となるべき筈のものだ。

いよ〳〵の場合に日本は資源に窮する……といふやうな囁きは、多年日本人を憂鬱ならしめたが、とれも天の時で、そろ〳〵光明は靜かに、つゝましく、しのびやかに照らし始めた。種々の原料と技術とは全く近年は奇蹟的に發見されつゝあつて、實驗室から直ちに工場へ移りつつあるのだ。近く又た或種の重要なものが物を言ひかけてくるらしく其の局に當られる二三の人人の中の或る人（天行居樞要の地位に在る人）から最近に聞いたところによつても、最近數ヶ月の間に驚くべき發見と經營方法とが續出したらしいが、御關係の方々に御迷惑をかけてはならぬからまだ披露は出來ぬ。

とにかく各方面眼前の事實が『何も彼も天の時』といふことを語らざるものはない。雲を摑む

やうな話ではない。眼前の事實を正視するだけのことだ。

× × ×

くどいやうであるが、又た昭和八年七月三十日夜の白頭山天池神事について少し申上げておきたい。

天池に鎭齋し奉つた神儀については皇軍の多大なる援助によつたことは當時の記錄が公表されて居るから周知のことであるが、その神事の直前には羅南第十九師團司令部大玄關前に於て牛島師團長、中村參謀長及び幕僚諸官侍立の中に大神璽御樋代の記念撮影を爲し愈々七月三十日夜天池に於て鎭祀の嚴儀執行の時には茂山守備隊の細野大尉が玉串を捧げて參列兵士は着劍整列、喇叭『國の鎭め』吹奏裡に玉串奉奠が行はれ、三長守備隊永野中尉指揮の下に十一名の兵士によつて百十發の祝砲が發射されたのである。民間の一神道團體の行事に現役陸軍の將士が統制ある命令のもとに斯くの如く協力せられたといふことは實に空前のことであらう。人間は皆な其時々々その立場々々によつて動かされて居るだけで、何も彼も御神慮の發動なればこそである。

ところが此處に聊さか申上げておきたいと思ふのは其の神儀は如何なる神々を奉齋したものであるかといふことに就てである。詳しいことは言擧げし得られないけれども差支なからうと思ふ

ことだけを二年四ヶ月を經過した今日に於て同志諸君に報告することは私の義務であらう。

神儀は第一殿と第二殿とから出來て居り、第二殿は御主神天照大御神を始め奉り皇典に明記してある文武の大神十幾柱の神々が齋き奉つてある。然るに第一殿は豐受姫神一柱が齋き奉つてあるのである。第二殿の神儀は畏れながら終始私が奉仕したのであるが、第一殿の神儀は四十年前に於て堀天龍齋先生が殆ど諸儀謹修奉仕を完了しておかれたもので、その一二の最後の御儀だけを堀先生の命令通りに私が奉仕したものである。

天行居に於ては須佐之男神と豐受姫神と密接不離の靈的交渉あることを多年信仰して居るが、須佐之男神と滿鮮方面との關係に就ては歷史的にも大概の人が若干の認識を持合して居られるが其の陸つゞきの遠いところにまで關係がある。

豐受姫神は愛の女神であり仁慈の女神であり平和の女神である。この大神を天行居で地上靈的氣線の要點の一たる白頭山天池に奉齋したのは天行居の大理想が皇道の大義に基く世界恆久平和にあるからである。天行居は決して非平和的な靈的團體ではないのである。天關打開の目標も美はしい平和的のものであること勿論である。

× × ×

七月三十日に神事執行

明治七年一月十六日の西刻に神界では或る事件があつた。神名木車では十二星座の日である。（『日乃御綱』參照。）それから神名木車が三百周の當日が昭和八年三月八日であるが其日は本縣下始めての防空演習が行はれ石城山附近の民心も大いに緊張した。無方齋の所在地も同樣であつた。それから神名木車二周後の同年七月三十日（十二星座日）に天池神事が執行されたのは必然の數である。實は吾々も七月三十日に是非執行したいといふ考へをもつて居たが或る事情と或る遠慮から其の前日すなはち七月二十九日に執行するといふプランを立てたのであつた。ところが風雨のために阻止されて行軍が一日休止された爲めに七月三十日夜の執行となつたのである。

此處が實に面白いのである。若しも初めから七月三十日を目標にしたならば行軍一日休止の爲め七月三十一日でなければ神事を行ふことは出來なかつたのである。然るに二十九日を目標にした爲めに三十日に執行することが出來たのである。

斯ういふことは他にも色々の實例があるのであるが、輕人は其邊の玄妙の神機がわからずに、天行居の幹部が立てたプランも狂ふことがあるかと疑つたりする。その邊のところに實に言へない妙味があると思ふ。

× × ×

白頭山天池の神府と石城山の神府

白頭山上にコンパスの柱を立て、一脚を臺灣とフイリツピンとの間のバシ海峽の中心に下してぐるりと圓を描いた範圍が靈的國防の第一線となつて居り、其の中心の白頭山天池の神府を咫尺に動かすスイツチのやうなものが石城山の神府に藏されてあるものと考へられゝば先づ天池神事の意味の概念の一面は得られるわけで（六十一字略）の靈氣波動の關係のやうなものである。

× × ×

實は天池神事の當時及び其の前後に於て此の大神事に何等かの關係ある任に當られた方々も此の神事の意義を明確に承知して居られた人は無かつた。それは其の當時神軍總司令の任にあつて此の神事の全責任を負ひ又た其の神儀の虔修に單獨奉仕した私が餘りにも祕密主義を嚴守した爲めで、そのため大分不平不滿を感ぜられた方々もあつたやうであるが、どうも私としては已むを得なかつたので、少しも油斷が出來ず、右の手の爲すところを左の手にも知らせない位ゐにしたので、所謂最高幹部の方々にも或る程度以上のことは一切御相談致さなかつたのである。

× × ×

人間世界に於て極めて尊いものの一つに愛といふものがある。その愛の中でも母の愛ほど純眞で崇高なものはあるまい。母の愛は全く犧牲的の愛であり無條件の愛である。それを詳しく語れ

慈受姫神の愛の御神德

ば一大冊子を成すであらうが實に母の愛といふものは底の知れないものである。

私は其の母の愛を考へる毎に、必ず畏れながら豐受姫神様の犧牲的な、無條件な大きな神愛を思はざるを得ぬ。豐受姫神様の愛が、地上の人々の母の愛としてあらはれて居るのではないかと考へる。

畏れながら天祖天照大御神の思召しによつて豐受姫神の御宮を皇大神宮に並べて造營せしめられ、祭儀の如きも殆ど皇大神宮同様に奉仕せしめるやう神勅を下し給へる神慮は吾々如きものが彼れ此れ評議すべきことではないが、天祖の大神德の愛の方面の御表現が豐受姫神の愛の御神德で地上の生類みな其の洪大なる恩賴を蒙らざるものはない。

内宮と外宮との或る靈的交渉が太古神法の根幹をなせるものであるが、そのことは其のことの輪廓だけでも到底語るわけには行かない。

× × ×

靈的國防といふやうなことが果して實際に如何なる程度まで效果的意義を有するものであるか。名社大社でも火災で炎上したり風水害の難に遭つたり鳥獸の不淨行爲を避けられなかつたり大前で神憑り式を行つて邪靈に感合したり神祕の御守りや神符を戴かせても狐憑きなどが却て神

靈的國防の效果的意義

祇を嘲罵したりすることもあるではないか。神は敬すべきものではあるが賴むべきものではない。現界のことは萬事現界的にのみ考慮し用意すべきであるといふやうな俗論が、モノシリらしい顏をしたい人々の間に行はれるのは昔も今も同様である。

靈的國防といふことは何も天行居で始めて唱へることではない。敷田年治翁の『神能伊吹』などをよく讀んで頂きたい。

視るとか聽くとか觸れるとか人間の五官によつて或るものの存在を認知することは——器械的方法によるも同様——限られたる範圍の波動數を有するものだけである。宇宙間の一切の存在物は皆な其れ〴〵の波動を有する結靈の現象なのであるが、人間が普通の五官の能力で其れを認知する範圍は九牛の一毛といひたいほど限られた波動數の一部分に過ぎない。その波長が異れば同時同所の存在物をも認知することが出來ないのである。神仙界や種々の靈界と此の人間世界とは其の波長が異るのである。

一例を云へば、少し話が極端かも知れんが一個の或る礫が私の掌の上にありとする。その中には方百里もある或種の靈界が存在することもある。私が其の礫を投げ飛ばしても其の靈界には微風だに起らず山河草木殿閣依然として何の交渉もない。それは靈的波動の波長が異るからである。

神界と現界との交渉

そんなら其の礫の中の靈界は只の一場のイリユージョンで何の存在の確實性もないものだらうと思ふ人もあらうが、それは見地の相違で人間世界も同じことである。自惚れても仕方はない。佛道には一見四水といふ言葉がある。人間には水に感じ餓鬼には火に感じ天人には瑠璃に感じ魚には家に感ずる。同じ水でも所感の相違で千變萬化の物となるのである。

× × ×

波長の異る神界と現界とが如何にして交渉するか。第一には神慮による。第二には人間の至誠により又は神法道術によるのである。俗に云へば其れが波長合格の方法なのである。

天行居で相傳して居る神法道術に靈驗のないものはない。しかし試みに一二度修行してみて思はしい應驗が無かつたといつてやめて了ふやうでは無論駄目である。藥品の如きでも其の目的の效能をあらはすには一定の量があつて、その量に達せざるものは無效量といつて如何なる名藥でも利かぬ。又た一定の量を超過すると中毒量といつて害がある。神法道術の濫用も中毒量となつてよろしくあるまいが、無效量では駄目である。

水位先生も鷄卵に時を告ぐることを求むるなと誡めて居られる。物には時節といふものもある。時節を待たず直ちに靈驗のあることもあるが、節操ある不動の信力を堅持して時節の到來ま

靈界の靈氣波動の振動數

で根氣よく修行をづゞけるべきである。或る禁壓法の如き一度やつて何の驗もなく、二度三度と重ねてやつて奇驗ある場合は多いことである。

私は或る神法を修して、應驗は認めては居たものの併しモツト何とか明確に顯現しさうなものだと考へ、此の神法は人によつて其の靈驗の程度に甚しき相違があるのではあるまいか、先師は立派な御方だつたから驚くべき神驗をあらはされたが自分のやうな人間では或る程度以上のことは期待し得られないことであらうかとも考へた。しかし先づ根氣よく先師の言を疑はずにやつて居た。ところが殆ど滿八年にして或日より實に驚くべき靈驗が出現し、恐懼して今日に及んで居るが、どうも恐れ入つたものである。

私のやうな怠慢で且つ天分に乏しい人間の體驗をもつて他人を律することは不都合であらうけれども、とんきよく修行して頂きたいものである。

× × ×

神祇界にも一般靈界にも高下正閏種々の境界あることは多年屢說の如くであるが、その境界の差別によつて靈氣波動の振動數が皆な異るので、一切の存在が別個のものとなつて高級の界の意志によらざれば氣線を通ずることは出來ないのである。たとへば某山の如きには正神界もあれば

或種の天狗界もあれば邪鬼妖靈ともいふべきものの界もあり、しかも人間的な認識からいふと其等の諸界が殆ど同一の地點に存在するのであるが斷然別個の存在である。だから或種の修行者が正神界に感合するつもりで其處で修行しても、其の人の精神狀態や因緣等によつて邪靈に感合したりすることもあるのである。

× × ×

宇宙現象の一切が天神の神律たる數靈の活動なること十數年前來公刊物で力說して來たところである。靈氣波動の振動數の形而上的または形而下的顯現のムスビである。最近物理學の指頭は其の形而下的方面の極妙の祕域にまで到達して居るやうである。

× × ×

假定して一問題に就て考へる。此處に二千年以上の古劒ありとする。それは如何に保存法がよくても風化鏽化して吾々人間の俗眼からでは辛うじて原形を推想し得るに過ぎないものである。けれども其の古劒の幽體（眞體）は明煌々として其の原形を存して居るのである。もしも其れが由々しき神劒である場合には其の神威は申すも畏きことである。靈氣波動の波長が異る爲めに俗人には其の幽體（眞體）をみることが出來ないまでのものである。

信仰は純眞なるべし

マスミノムスビの千差萬別は靈的波動の振動數の多少の差別のみである。その根本攝理は神祇の幽玄の玄機に發するものである。

× × ×

神祇の直言命令を其のまゝ純眞な心で信仰することが出來ず、とかく人間の俗智を以て彼れ此れと細工をして判斷したがる癖は容易に根治されないもので、後日になつて驚いて恐懼するが、そんなことを私は今日に至るも折々くり返して居る。なさけないことである。

先達て——十一月の——或日の朝、或る家の主婦は洗濯でもするつもりかラヂオの天氣豫報を聞くことを女中さんに賴んで裏の畑へ出て行つた。女中さんは時計をみると七時四十分を過ぎて居たのでモウ駄目だと思つてラヂオをかけなかつた。主婦は畑から歸つて天氣見込はどうだつたと訊いたが女中さんは時間を過ぎて居たからラヂオはかけなかつたと答へた。十一月の或日から朝のラヂオの天氣豫報は七時四十分が七時五十分に變更されてることを主婦は知つて居たが女中さんは知らなかつたのである。私どもは此の女中さんのやうな失敗をやらかすことがあるのである。

× × ×

大機は何時來るか……そんなことは本當の信念のある人々には實は餘り問題にならないのである。人間は所謂老少不定で、どんな元氣な人でも今日に於て明日を期し難いのである。いつ誰が歸幽するかも知れぬ。今日只今より外にたのむべき時はない。自分の使命なり立場なり能力なりを考へて今日只今に於て爲すべきことを爲すまでのことである。大機が愈々やつて來たならば自分は如何やうにもして働くといふやうな人は本當の信念のある人とは申されまい。

荒井大人の如きは其の點に於て實に見上げた信念をもつて居られた。只その『今日只今』に最善の奉仕を盡すといふ流儀であつた。山上神殿御造營の頃も其の工事監督の責任があつた爲めではあるが、雨の日も風の日も痼疾の神經痛をこらへて登山して居られた。荒井大人は御自身でもマダ十年やそこらは現世に居られる御考へであつたらしいが併し何時急患で神變を示されても以て悔い無き心境であつたことは尊敬すべきである。

× × ×

天關打開、磐門びらきといふことは、天行居で唱道するやうな信念が地上に普及されて人々の心が淸淨になることを意味するに外ならないといふやうなことを考へてる少數の同志もあるやに仄聞するが、それも惡い考へ方ではあるまい。或る程度までは私も同意することを躊躇しな

い。しかし山上の天啓に於て『ふるひにかけてよをきよめる』とか『よのかはりめ』とか明言してあることは實質的內容を有するものたるを私は疑はない。此の地上の國際關係も諸制度も非常な大變革が行はれるに相違ない。所謂天災地變とか種々の神異的事象も顯現するに相違ないのである。只その程度が如何なるものたるやはわからないと申す外はない。恐らくは吾々が想像し得る以上のものであらうと思ふ。

× × ×

『周防國式內神社考』の中に石城山の石城神社のことを書いて『前略、例祭九月九日、神輿の先を大行司、將行司とて數多の人を率ゐて供奉す、御社の東五丁山神の森あり、神幸の時、一人祕事使とて束帶して此森の前を拜み、麻太豆古佐兒といふ、神輿この森の前を過ぎ給ふ時、輿にかゝりし鈴の音もやみ、人音も靜まりたり、還御の時に當りて、かの祕事使、於奴加禮固曾牟と云て歸れり、後略』このことは近藤淸石翁の著には後妻神の森としてあるから現今の宇波奈利社の前を神輿渡御の時の古式の行事であつたであらう。(以上のことは明治四十五年刊行の『明治神社誌料』下卷にも抄出してある。)

この古式の神事は甚だ面白い天啓を傳へて今日の天行居同志に訓へて居るものと私は考へて居

る。『マダで御座る』『おぬかり御損』といふ言葉が頗る意味があるのである。大機は何時來るか……なぞと机上の空論で日を送つてる人たちは少し反省せられるがよろしからうと思ふ。

バテレンの聖書にも盗人の來るが如くに來ると示してある。突如としてやつてくるのである。

× × ×

今から半年前、伊太利とエチオピアの關係が迫つた頃のこと、トロツキー君は豫言者になつたと見えて『伊エ紛爭は世界動亂の前奏曲の一つだ。世界は此處三年内外の間に無前の大動亂となり、日本とロシアとも戰ふ。その場合最初は日本が勝つが、やがて日本は國内的に或る動亂が持ち上つて參つて了ふ。』といふ意味のことを發表したのを新聞のモスクワ電報で見た。

こんな人たちの豫言じみたことに何も耳をかさねばならぬ因縁はないけれども、草木の音でも參考にはなる。靈的國防といふことを念とする人たちは眞劍に考へて頂きたい。

× × ×

西から來るか東から來るか、表門から來るか裏の犬くぐりから來るか。

神仙界の或る立制から四千九百三十四年、すなはち昭和十一年を迎ふると共に、天行居同志は新しいふんどしを用意されなければならぬのだ。

× × ×

嚴正なる正神界の經綸の發展につれて、時節到來して段々と怪しげなものが正體をあらはしてくるのは當然のことである。天行居で國體明徴徹底祈願の大神事を執行した昭和十年十一月十一日から二十七日（後二十七の數は『日乃御綱』參照）の十二月八日に妖教大本教が參つて了つたのも蓋し天の數であらう。

大本教の思想に許す可らざる重大なる不都合あることを發見し、攻擊の第一聲を擧げたのは吾吾であつた。天は吾々を其の爲めに巧妙の方法によつて驅使されたものたることは後日に分明した。即ち大本教の不逞思想を攻擊した文書『乾坤一擲』は大正八年九月十二日一萬部發行、東京大阪其他全國の代表的新聞百餘に『大本教大征伐』の廣告をして頒布した。これが實に大本教征伐の第一聲であつた。引つゞき『事實第一』『眞木柱』等の文書を公刊して大本教の不敬思想を實證して朝野の注意を喚起することに努力した。吾々の第一陣につゞいて某々氏等が各方面それぞれの立場から第二陣第三陣を承つて破邪顯正の爲めに起ち、毛色の變つた方面では『變態心理』の中村古峽氏等も其れにつゞかれた。さうして遂に大正十年二月司法權の發動となり大本教の第一次檢擧となつたのである。

然るに其後またも運動を起し、近年は更らに重大な不都合の言動があるやうに聞いて居たが、今度の大檢擧となつた次第で、今度は司法省も內務省も徹底的にやッつけるだけの用意と方法を考慮して居るであらう。大本教に限らず皇道とか神道とかのマスクをつけて怪しい內容を有する團體は今後續々洗濯をして貰はねばならぬ。宗教團體法案の如きも部分的には修正意見もあるかも知れないが大局からみて至極結構だ。

（昭和十一年一月一日）

散る櫻殘る櫻も散る櫻

神道一家言（八）

『田畑齋務部長が昨年秋の大祭頃は元氣に奉仕して居られたのに今春落花時節歸幽せられたことは少なからず私共の胸を打ちました。今更らの如く人間生活の無常迅速と死といふものに就て深く考へさせられます。改めて此の機會に此の問題に就て充分に認識を切實にしておきたいと思ひます。』

『至極同感です。「散る櫻殘る櫻も散る櫻」といふ誰やらの句がありますが斯ういふ問題に就ては古人も云つてるやうに頭燃を拂ふやうにしなければなりません。頭へ火がついて燃えるときには何を捨ておいても先づ其の火を拂ひのけます。家庭の都合がどうとか職務がどうとか云つて猶豫しては居られません。如何なる人も神變といふ問題、すなはち生死といふ問題を先づ根本的に見究めて、大安心をしておいて、然る上に活動すれば其の分相應に職務に忠實なることが出來ますが、この問題の見方がアヤフヤであつては一旦眼光落地といふ時にまごつくばかりでなく平日の左右の上にも實頭實地なることが出來ないものであります。』

『實は其れに就て改めて既成宗教といふものに就てのあなたの考へを明白に承はつておきたいと思ひます。既成宗教と申しましては茫漠としたことになりますが、先づ吾々日本人の大多數者に關係のある佛教とキリスト教とについて、あなたのお考へを承はりたいのです。從來いつもあなたは佛教も結構だキリスト教も結構だと申されますけれど今日は一つ此の問題についてあなたの腹の底を簡明に拜承したいのです。實際佛教もキリスト教も結構ならば何も天行居で古神道を宣傳せられる必要もあるまいとさへも極端に云へば云ひ得られませう。つまり今日は佛教やキリスト教にも結構でない點があるか、どういふ點にあなたは不滿足であるか、そこを一つ脱白に簡明直截に話して頂きたいのです。さすればおのづから天行居の主張の輪廓も側面的にハツキリしてくるだらうと思ひます。』

『厄介なことを云ひますね。どうもさういふ問題は困りますね。よそのことを彼れ此れ言はず、佛教やキリスト教または道儒にせよ何にせよ其の結構な點だけをみて參考にすればよいではありませんか。』

『兎に角今日は一つ此の問題についてあなたの腹の底を拜承したいのです。』

『それは申上げてもよろしいです。別に世間の人と變つた見方もしては居りませんが、それでは

佛教やキリスト教に就て餘り感服して居ない方面のことを今日は申上げませう。』

『先づ第一に全國に多數の信徒を有する淨土眞宗をどう思ひますか、あなたはなぜ其れを信仰することが出來ないのですか。』

『私は現に神道教師の席末を汚して居るものでありますし佛教のことを彼れ是れ私の意見で申すことは氣が進まず餅屋が酒屋の評判をするやうに見られても面白くありませんから成るべく佛教のことは佛教の畑の人たちの意見を取次ぐだけにしておきたいと思ひますが、先年天行居で頒布した「眞宗滅却論」は私の友人島田自照居士が書いたものです。著術兼發行者が江田天眞と署名してありますが其れは自照居士の親族の人の名を借りただけで實際の著者は自照居士です。其の緒言に

余は故ありて眞宗學を研究すること玆に十數年、七祖の聖教を讀み、親鸞蓮如の著書を閲し、此教の非眞理にして支離滅裂全く非佛教なるを發見せり、此宗が我國に存在すれば國家の治安を害し人心を毒すること少々にあらざるなり、是故に余は自己の研究せし結果を天下に公表し、護國愛理の人に訴へ以て根本的に眞宗を滅却せんとす、而も余の滅却論は一々眞宗の聖典に據りて立論せしものなれば一個の私論に非ず、云々

と書いて居りまして本文に於て其の主張を明らかに詳述してあり、天行居の同志中には共れを讀まれた方は澤山に居られます。此の書は大正十三年刊行のものですが、それに二年後れて大正十五年に河口慧海師が一書を公けにして佛教各宗を論評せられた中に淨土宗にも眞宗にも痛棒が見舞うてあります。慧海師は御承知の如く梵語學者で印度の原典から嚴正な學問的高等批評を下して居られるので堂々たる論文であります。慧海師の研究の要旨を申しますと、阿彌陀佛の原語を調べて阿彌陀佛は無量光佛無量壽佛に非ざること、無量壽佛は他方國土の佛で此土の本尊とならざること、南無阿彌陀佛といふ語は原語文法上全く無意義の片言であること、康僧鎧譯無量壽經にある第十八願文は原書及び西藏譯及び他の譯本にも存せず支那譯當時支那の墮落した世間の慾求に投ずる爲めに僞譯加筆したものである證據、その願文にある十念の念を稱名念佛の稱と解釋して淨土宗が出で、至心信樂の信念と解釋して眞宗が生れたこと、さうして行德廻向の願文を故意に別立せしめて稱名念佛のみで或ひは他力の信念獲得のみで極樂往生が出來るかの如く妄想するものを多く生ぜしめたこと、南條博士あたりが梵文からの譯經も實は康僧鎧と菩提流志の譯を踏襲して居られること、親鸞は原語を研究する便を得なかつたこと、釋迦教でなくても親鸞教として眞宗は結構だとの議論は親鸞を裏切るものたるは歎異抄の明文によつて論證し得らる

ること等を詳述して居られます。序でだから申しておきますが東京帝國大學文學部慧海文庫の中には西藏語原典の珍らしいものが保存されてあります。』

『本願寺へゼニをあげて少し念佛でも唱へればどんな惡人でも極樂往生が出來るといふことが嘘だとしますと、どんなにすれば西方極樂國土に往生が出來るのでせうか。』

『それは觀無量壽經に

かの國に生れんと欲するものは三福を修すべし、一には父母に孝養し師長に奉仕し、慈心にして殺さず、十善業を修するなり、二には三歸（佛法僧の三寶に歸す）を受持し衆戒を具足し威儀を犯さゞるなり、三には菩提心を發して深く因果を信じ大乘を讀誦し行者に勸め進むるなり

云々

とあります。』

『そんな六かしいことが觀無量壽經に明記してありますならば淨土宗や眞宗の信者は殆ど萬人中九千九百九十九人までは落第でせうが大部分は地獄へ行くのですか。』

『そんなわけのものではありません。品性德行の立派な人は相當の佛仙界なり又は共れに屬する靈界へ往生します。餘り感心しない思想言行の人は稍や低い靈界へ行き甚だしき惡人は地獄のや

うな靈界へ墮ちて行く人もあります。又た人間界へ轉生せしめられる人もありますが其の境界苦樂等も所謂因果應報でありまして、如何なる信仰の人であれ根本神界の嚴然たるむすびの神律を昧ますことは絶對に出來ません。天台でも眞言でも禪でも日蓮でも律でも何でも同樣です。』

『死後數時間または一兩日を經て復活した人が折々ありまして其れが地獄や極樂を見て來たと云つて其の光景を詳細に語ることがありますが、其人は從來寺參りもせず佛典も讀まず佛說には全く無關心な人であつても其の言ふところの極樂なり地獄の相が佛典に書いてあることと符節を合するやうなことがありますが如何でせう。』

『さういふことに就ては先年も古道紙上で申上げたつもりですが、多くの場合大概は釋魔が感見せしめるところのもので一時の幻想であります。尙ほ折があつたら首楞嚴經の五十魔境の說も一讀しておかれるがよろしいです。このことも先年大概は古道紙上で略說したことがあります。楞嚴經は僞經だといふ說もありますけれども何にしてもエライ人が書いたものです。』

『唯心の淨土己身の彌陀といふやうな見方はどうでせう。』

『それは惡いこともありませんが、眞に其れだけな大修行底の道力があるならばよいが、只だ空腹高心でそんなことを云つてる人は魔道に墮します。明治以來印刷術が發達してクダラヌ禪話ま

がひの冊子が幾千となく流布され其の爲めにそんな惡書を讀まれて誤つた橫着な減らず口を叩く人が多くなつたのは氣の毒なことです。』

『相當の見識のある佛法者は木佛金佛などの佛像をどう見てるでせう。』

『それは其人の立場々々で他人が彼れ此れ言ふべきものではありません。蓮月尼の如きは學問もあり熱心な佛敎信者でありましたが佛壇には京人形を置いて其の前で念佛を唱へて居りました。近所の子供が遊びに來て欲しがると呉れてやり又た別の人形を買て來て拜んで居りました。或人が金ピカの阿彌陀佛像を持て行つてやりましたら謝絶して、そんなものを拜んで居たら執着心が起ると惡いと申しました。なるほど佛敎では要するに執着心がいけないのですから。』

『丹霞和尙が木佛を燒いて尻をあぶつたといふやうな話はどうです。』

『それは丹霞にして初めて面白いので、普通の僧侶がそんな眞似をするのは感心しません。「一休の眞似して寺を追ひ出され」といふ川柳もあります。一休は「極樂へ左ほど行きたくなけれども彌陀を救ひに行かざなるまい」と歌ひましたが、それもいらぬ御世話です。』

『天台宗はどうでせう。』

『あれは法華經を中心に圓密禪戒融合の宗旨で面倒なものです。傳敎大師は禪も南北兩傳を紹い

でるので益々厄介です。結論から云へば止觀の極致も禪の極致も同一です。とにかく天台や眞言は特殊の專門學僧が研究すべきもので、それを世間大衆に結びつけようとするのが無理なんです。』

『眞言宗も祈禱佛教として餘り將來がありさうにもありませんね。』

『まあ將來は地藏信仰でも宣傳して俗世間の慾の深い連中を取り込み地藏流しの行事の如きものを流行させるより外に方法はありますまい。序でだから申しますが弘法大師が立教開宗にあたつて俄用した釋摩訶衍論の如きも龍樹の作でなく朝鮮あたりの學僧が龍樹の名を借りて僞作したものです。これは馬鳴菩薩の大乘起信論を解釋したものでありますが、この大乘起信論も馬鳴の作でなく後世の僞作だといふ研究が近來は勢力を得て居ります。いや實を云へば佛教の經論も嚴密に云へば大部分僞作なんです。斯ういふことは或る意味に於てキリスト教の聖書も同樣でありまして專門學者の確實な研究が段々と進んで次第に正體を現はしつつあります。』

『天行居の同志中にも禪に興味をもつてる人が相當にあるやうですが禪といふものをどう見て居られますか。』

『道元禪師は禪は佛法の總府なりと申しましたがそんなものだらうと思ひます。しかし本來から

云へば禪も貴族的なもので、深山幽谷に霜辛雪苦して一箇半箇を打出するのが本領であります。それを大衆的なものにしたのが無理であります。』

『今日の日本國にも禪寺が二萬近くありませうが禪宗を奉じて居る大衆が兎に角安心立命することが出來ればそれでよいではありませんか。』

『無理のあるところには必ず誤魔化しがあります。明治二十三年に西有穆山師が七十歳の高齡で洞上信徒安心訣といふものを書きましたが其の中にも

吾宗教導に從事する者、信徒安心の教導に苦しむもの多しと、(中略) その半信半疑の緣影裏に彷徨して信心堅固ならず三業不淨にして慚愧なきもの漫りに名利を貪り强て戒師となり或は布教師となるならば何によりて他の疑團を破り安心決定せしむることを得んや、余深くこれを憂ふること久し云々

と述べて居られるのは尤ものことです。然るに實を云へば其の穆山老師が窮餘に書かれた信徒安心訣の內容も甚だ不徹底なもので、三歸戒を唱へよといふ位ゐなことであります。そして「他土の往生他力成佛を勸むるは吾高祖の本意にあらざるが如し」とも書いて居られます。今日に於ても此の穆山老師の半呑半吐的安心訣に少し理論づけて說教して居るだけですが洞上の眞の安心

訣は打坐して打成一片となるの外はありません。けれどもそれでは大衆に受けないから方便として誤魔化しをやつてるだけです。授戒の如きも本分上から云へば兒戯に類する誤魔化しです。臨濟の如きも同様であります。ナマやさしいことで眞の安心が得られるものなら何を苦しんで慧可は雪中に腕を斬り、古來眞劍の求道者が何のために二十年三十年の苦勞をしますか。少くとも石頭、馬祖以前の眞の禪は決して大衆向きの營業的なものではありません。如淨禪師が道元禪師に示して

身心脱落とは坐禪なり、只管打坐の時、五慾はなれ五蓋除くものなり

参禪は身心脱落なり、燒香禮拜念佛修懺看經を用ゐず、只管打坐すべし

とありますけれど禪宗信徒は念佛看經だけやつてるのが大部分です。元來が大衆的でないものを大衆的なものにして本山及び末寺の營業を維持しようとするから必然的に起つてくる無理なのです。

『禪宗は佛法の嫡々相傳で此れが實に有難いと申します。釋迦から順次印可證明されて今日に及んで居るところが他宗の及ばないところで證明のない佛法は危險だといひますが如何です。』

『禪宗の傳燈の證ぐらひクダラヌものはありません。西天二十七祖までの付法偈は同一の支那人

の手によつて製作されたものです。また靈山會上に於ける拈華微笑の一件は誰も讀んだことのない梵天王問佛決疑經と云ふものの中にあるとか云つて王荊公が宮中の祕書藏内で見たといふ夢物語に基いたもので全くの作話です。釋迦が正法を迦葉に付屬したといふことは涅槃經に書いてありますけれど拈華微笑なんて面白いことは例によつて支那の藝術家の仕事です。』

『西天二十七傳は兎も角として達磨以來嫡々相傳は結構ではありませんか。釋迦の佛法でないと假定しても達磨の禪としても結構ですけれど、印可證明なるものは正師から承

『それは達磨の禪でもよし道元や榮西の禪でも結構ですけれど、印可證明なるものは正師から承けなければ無意味です。正師にあらざるものは邪師です。邪師の法を嗣いで何の有難いことがありますか。禪の正師といふものは行解相應だけではいけません。大機大用越格の腕力があつて始めて正師と云ひ得られるのです。馬祖下八十餘人、大機大用あるものは黄檗と百丈のみで他は唱道の師のみとありますが千年前すでに此の嘆聲があります。少し割引して考へても我國で足利中期から德川中期まで澤庵や一絲和尚なども居れど禪の正師らしいものは種切れでありました。嚴密に云へば達磨の禪は全く斷絶して居るのです。今から約二百年前、洞上に面山などが出で、臨濟に白隱が出て古風を挽回したかにも見えますが隨分眉唾ものです。殊に白隱は甚だ怪しい人物

禪宗の授戒と引導

です。却て妄想の産物とみられる夜船閑話などが世間を利益したから其邊で功罪償ひ得たかとさへ疑はれます。今から百年前、玄樓の嫡子で近古の大宗匠と云はれた風外和尚も其頃すでに正師無きを慨し自分（風外）も其の仲間で正師の資格無しと自白して閑居したほどです。明治になつてからもマア滴水や伽山あたりまではどうにか正師まがひに見えますが大正以來全く駄目です。學問のある坊様や提唱の上手な管長や室内の葛藤に新工夫を創案して學人を烟に巻く師家は二十人も三十人も居りますが、みな相似禪の閑遊戯です。そんなものに印證されたからと云つても謂はゆる冬瓜の印子で馬鹿げ切つたものです。』

『禪宗の授戒といふものは如何です。』

『理窟をつけて勿體なくすれば何でも勿體なくなります。あれもよろしいでせう。』

『禪宗の葬式のときにやる引導はどう思はれますか。』

『どうの斯うのつて禪宗の人たちでも少し眞面目な人は皆な憤慨して居るではありませんか。大修行底の道眼明らかな和尚でなければ道師の資格なきことは申す迄もなく、それでなければ引導は全く無意味の芝居です。これ位ゐ滑稽なものはありません。今日の日本全國二萬の禪宗寺院に於て、眞に導師たる資格ある人が幾人ありますか。よほど調子を低くして評價しても二十人も三

佛教の『空』の意味

十人も居られるわけのものではありません。營業のためとは申せ他人の作つた香語をえんやらやつと改作して拂子を振つて芝居をやつてる和尚さんの無慚無恥、死人の迷惑、その家族親族の無智、參列者一同の人々の阿呆みたいな顔、……まつたく笑へないナンセンスです。』

『禪は教化別傳不立文字といふ宗旨の立て方で何となく奥床しいではありませんか。』

『それは何も禪に限つたことではありますまい。何でも愈々の妙所は教外別傳不立文字です。刀匠が刀を造るにも畫人が畫を作るにも愈々のところは言葉で云へるものではありません。神ながら言擧げせざる道であります。先月私の知人が結婚せられましたが擧式の翌朝他人の居らぬところで新郎君がひそかに低聲で或ることを聞いてみたら新夫人は「言は意を盡さず」と答へられたさうですが、まつたく人間の言葉といふものは不自由なものです。』

『禪は要するに一切空を悟ればよいわけではありませんか。』

『一切空と悟れば空に盗まれます。禪はそんなものではありません。……序でだから申しますが佛教で空といふものは空無といふ意味ではありません。空の原語（梵語）の意味は「空のやうなもの」と云つたやうな意味です。支那に適當な文字が無いから空と譯したのです。物理學で物質の根元を究めて非物質的なものといふのも無存在といふ意味ではありません。物質の根元は「無

物質のやうなもの」と云ふ意味です。このエレクトロン學説から考へると梵語の空といふ意味も髣髴が得られるかと思ひます。天行居では御承知の如く何でも彼でも只ますみのむすびの一語で賄うて居ります。』

師家を戰慄せしめた匿名の居士

『曹洞宗では處世術の説教と大通智勝佛を氣取つてるだけで精彩に乏しいやうですね。』

『しかし實際に腹の出來た人は却て曹洞宗の人に多いやうです。大通智勝佛も結構です。一つは道元禪師の人格の餘德もありませう。』

『けれども臨濟の方が何となく禪宗らしく居士の中にも隨分出來た人があるではありませんか。』

『今日の世の中に禪の正師なるものは無いと申しましても正師まがひのものは一人や二人居られぬこともありますまいから左ういふ先生に就いて功を急がず眞正の菩提心になり切つて一則の公案に十年も二十年も打ち込んで行くのなら少しは相應のことがあるかも知れませんが、此頃のスピード禪は駄目です。やらぬ方が却て平穩無事です。』

『師家の室内ではどんなことをどんな順序にやらせるのですか。』

『今から二十年ほど前、或る久參の居士が京都鎌倉あたりの師家の無道心に憤慨し、破有法王といふ匿名で東京で一書を公刊し、師家の室内のやりかたから公案解答法全部を具體的に詳述發

表して臨濟の各道場の師家に營業上大恐慌を起させたことがあります。無字隻手を始めとして隱山卓州兩家の拶所まで克明に素ッ破抜き、雜則百二三十、本則百四五十の著語世語のつけかたまですッかり暴露して了ひ、五位十重禁の内容も全部さらけ出して了つたことがあります。講談や落語でもお讀みになるつもりで一見しておかれゝばあなたも氣が濟むかも知れません。』

『大正年代以來碧巖や無門關などの新しい研究の書が三四出て居りますが、あれらをどう見られますか。』

『あんなものは駄目です。公案の見方が淺いといふ程度ならまだよいが全然見誤つて居る則が澤山あります。』

『いつたい公案の見方といふものは一定して居るものですか。』

『さうでもありません。翠微禪板や欽山一鏃などでも古來諸方の老々大々の先生方の見方が區々であります。百丈野狐や趙州草鞋でも古來くだらぬ理窟をくッつけてる先生が相當の大家の中にもあります。』

『晉山式などの場合の法戰のやうなことも今日でも眞劍にやつてるのですか。』

『これは臨濟ではありませんが……此の無方齋の近所に江禪寺といふ曹洞の名刹がありますが、

結局禪の要旨如何

先達て某和尚の晉山式があり本山永平寺から高橋竹迷老師がやつて來ましたが又た馬の熊膽のやうな問答があつたんだらうと思ひます。』

『馬の熊膽とはどういふものですか。』

『江戸の輕口に「この野郎たゝき殺して熊膽を取つてやれ」「馬ぢやアあるめえし」といふのがあります。』

『とにもかくにも久參の上士といふやうな連中には何處か洒落なところがあるやうですが修行の功ではありませんか。』

『どずるくなつて面の皮が厚くなつてるだけです。二十年も三十年もやつてると多少とも野狐の臭氣を帶びてくるもので、それを世間で買ひかぶつてるのです。公案を幾百透つても見性がウソだから駄目です。』

『禪の要旨は結局どこにあるのですか。』

『心源を見破して生死を透脫するだけです。』

『一機一境の悟りなど眼中におかず、實頭に工夫に工夫して只管打坐で一貫して行き獨脫無依といふ境地に達すればよいのではありませんか。』

古神道と禪との神祇觀

『獨脫無依にも腰を据れば賴耶の暗窟といふやつです。地獄の釜こさぎになるだけなものです。』

『それでは手がつけられんではありませんか。』

『手のつけられるものでないのです。黃梅七百の高德悉く是れ佛法を會する底の人、唯だ盧行者有りて佛法を會せずと南泉も云つて居りますが此の無理會の處を究め來り究め去らなければならぬのです。この盧行者といふのは「菩提本と樹に非ず、明鏡亦た臺に非ず、本來無一物、何れの處にか塵埃を惹かん」のアルバイトで有名な六祖のことです。宇宙の眞理はナニモカモカムナガラ、マスミノムスビ、ドウスルコトモイラヌのです。』

『我が古神道と禪とは神祇觀が異るといふことを先年申されましたが理論的なことでなく卑近に手輕な實例を伺ひたいのですが。』

『これは色々の方面から申上げることが出來ます。その一例を申しますと、どこの床の間にでも頑張つてる愛嬌者に寒山拾得といふ先生が居りませう。あの拾得は天台山國清寺の寺男で、國清寺の境内にある鎭守社へ毎日獻饌するのが役目で其の撤饌は拾得が頂戴して居たのです。然るに或る日其の御供物を烏が喰べて了つたので拾得は社殿の扉を開き神像を引きずり出してどやしつけました。眼の前にある御供物を烏に取られるとはケシからぬといふのです。寒山も拾得も實

は禪の方では殆ど生得の大器で大自在を得て居た偉人だと云はれて居ます。』

『拾得も案外亂暴ですなあ。』

『明治時代京都の東福寺の江湖會か何かの時に幾百名の大衆が參集して居ましたが米も味噌も不足して困窮したので役僧たちが此れは炊事場に祀つてある守護神韋駄天が働かぬからだといふので韋駄天像を引つ張り出し荒縄で縛つてせつかんしたこともありますが、禪の立場から見ると其れでよいのです。もつとも何の修行にも賓主といふことがありまして其れを云へば長くなりますから今日は申上げませんが兎に角正しい神道ではそんなことは無論できません。また韋駄天像などに事實憑依し又は感應する靈は無論神道でいふところの神祇とは同日の談でなく大なる差等のあるものです。』

『神祇よりも名僧などが上等のやうに佛教では見てるから口頭では何と云つても眞の國體主義と合致せぬのではありませんか。』

『日本の神様たちが佛僧に歸依して受戒されたことが萬仞道垣禪師の禪戒本義などに書いてあります。春日明神が栂尾の明慧上人に歸依せられ、大神宮が淺香淨源寺玄虎禪師に受戒されたことなど傳へられてありますが、高貴の大神の御名を名乗る或る靈物のするところで審神の知識なき

僧侶が誤つたのを世間で其のまゝ傳へて居るのです。』

『佛菩薩などは日本の神祇よりも數等上位のものといふ觀念が佛教者にあるのが根本の間違ひなのでせうか。』

『佛教には三界（慾界、色界、無色界）の說があり又た六凡四聖の說がありますが何れも古代印度の思想家の仲間で假定された假說であります。日本の神祇も三界內の居住者であつて三界を出離した佛菩薩の眼下に存在するものと云ひ、神祇は六凡の中の天上に相當するものとし、六凡の境界を超出したものが四聖すなはち聲聞、緣覺、菩薩、佛陀だとして居るのですが、此れは何れも一心上の緣起の說明に過ぎないのです。六凡中の天部に相當する神祇もあるが其のまゝにして四聖の境界に出入自在の高級の神たちもあるのです。要するに三界、六凡、四聖等のことは古代印度の觀念整理上の假說に過ぎないことをハッキリ腹に入れて神界の實相、活消息を見なければ我が神道の面目はわからず又た國體觀念も不徹底なものとなりますから此のことは充分に究明して信念を確立しておかれなければいけません。神界の實相については天行居の諸出版物をよく精讀せられ、且つ幾回でも重ねて石城山に結緣せられる必要があります。神界は大體に於て八大神界に區分せられ、又た七十二神界に分れたものが更らに幾百界にもわかれて居ります。しかも其

の高下等種々相があり或ひは遠きが如くにして近く、或ひは近きが如くにして遠く、普通の理窟で坦々と語り得ることではありません。從來の天行居の出版物を繰返して御精讀を希望します。』

『水位先生の異境備忘錄を拜讀いたしますと明治八年六月十六日の夜川丹先生に伴はれて信州の空を通行せられる際、淺間山の方より黑き氣に乘りて釋日朝、無住法師、西行法師、沙門景戒、空海上人、一休和尚、親鸞上人、沙門師高、實海法師、虎關禪師、釋安然、釋了意、彥龍藏などいふ名僧たちが淺間山で除罪の式を執行しての歸りに出會し、其の名僧たちは川丹先生に一拜して過ぎ去られたと書いてありますが、あんな名僧たちが地獄に墮ちてるのですか。』

『地獄に居られるのではありません。相當の佛仙界に居住して居られるのですけれど現世時代に神界の實相がわからなかつた爲めに種々のヒガコトをのこされましたので、時折に日を定めて其の除罪式を執行して居られるだけのものです。この異境備忘錄の記事などは所謂神憑りの產物でなく、怪しげな靈媒の報告といふやうな性質のものでなく、水位先生が肉身を以て靈界に來往されたときの見聞手記であり人間世界に稀有の極めて尊い記錄であります。一休禪師も臨終の時の偈に「朦々然として四十年、淡々然として四十年、朦々淡々八十年、末後屎を脫して梵天に捧ぐ」とやつて居られますけれど、今はそんな無茶なことも云へますまい。』

『佛說に虛妄無しと申しますが如何です。』

『佛說にも眞實もあれば虛妄もあります。』

『どんなことが虛妄ですか。』

『それは澤山ありませう。たとへば心地觀經に國王もし正を以て化せば八大恐怖その國に入らず、八大恐怖とは一には他國の侵逼なり、二には自界の叛逆なり三には惡鬼疾病なり、四には國土の飢饉なり、五には非時の風雨なり、六には過時の風雨なり、七には日月の薄蝕なり、八には星宿の變怪なり云々

とありますけれど、これも虛妄であります。日蝕月蝕の起るわけなど古代印度の佛菩薩たちよりも此頃の小學生の方がよく知つて居ります。鰕跳べども斗を出でずと申しまして十方世界三世古今洞見の眼を有するとか何とかいつたところで其の時代の人間の知識思想を超越することは出來ません。萬事は此れを以て推して知るべしであります。』

『佛說中で眞實中の眞實ともいふべき說は何でせう。』

『それは正像末の說の如きです。河口慧海師は、

實に現代は正法五百年、像法五百年も過ぎ去つて眞の出家僧は居ない時代である、釋尊が賢劫

經や佛臨涅槃記時經や大涅槃經等に於て教示せられたそのまゝが實現して居るのである、眞の出家僧はない時代である、隨つて出家が護持する佛法もない時代である云々

と斷言して居られます。いかにも其の通り釋迦の豫言通り今日は末法の末法時代でありますが、この正像末の佛說こそ眞實中の眞實であります。經文によれば末法の世には魔波旬の徒、佛袈裟を披し相似の法を說いて佛法を破滅すとありますが、今日が其の通りです。卑近なことで云つても肉食妻帶の如きも其の一例であります。いかに理論づけて辯護しても肉食妻帶は釋迦の佛法を奉ずる僧侶である限り絕對に犯すことの出來ぬ佛制であります。昔は「上人はかくし、ほとけはせず」と申して居りましたが今は大びらです。「木のはしのやうに思はるゝ」法師によりてのみ佛法は護持せらるべきものであります。』

『末法時代となつては佛道では駄目ですかねえ。』

『昔の高僧でも眞面目に神國の正因正果を信じ稍や神界の實相について知識のある人は安心の要所が別であります。「のちの世もこの世も神にまかするや愚かなる身のたのみなるらむ」(法印源深、新拾遺集)といふやうな歌でも靜かに數十回念誦してごらんなさい。語句は平凡でも靈驗のある歌です。』

『キリスト教をどう思はれます。』

『キリスト教と云つても種類が澤山ありまして一概には申されますまい。大體は東方教會と西方教會とに別れ西方教會が舊教と新教とに別れ其の新教だけでも二百八十餘派があると思ひます。日本に傳へられたものだけでも二十七八派あります。』

『日本に渡來したのは矢張り、三百何十年前といふ御考へですか。』

『さうです。尤もキリスト教の一派たる景教の思想が支那から日本に影響したのは六七百年前、或ひはもつと古いでせうが其れらを以てキリスト教の渡來と見るのは妥當でありますまい。又た今から約八百年前にシンガポールで傳道して居た獨逸人が漂着の日本人漁夫から日本語を學びヨハネ傳などを和譯出版したことがあり或ひは其れも若干日本人に讀まれたかも知れませんが其れらのことを以てキリスト教の渡來として取扱ふことはどうかと思ひます。』

『常陸の磯原に武內宿彌の子孫といふ人が殘つて居て其家に代々祕藏され來つた多數の神寶と古文書があり種々の神代文字などで書いてあり其の一部が譯出されまして、神代九代の後に皇統が始まり天照大御神は皇統第二十二代の主であり神武天皇は皇統第九十八代といふことになつて居り、太古に於て全世界が統治されて居つたもので世界各國の國主は皆な我國の高天原政廳から任

命されて居つたとのことで各國の國主も朝宗來往して居り我が神皇も全世界を巡幸された證跡もあり、イエスキリストも磔刑より遁れて日本へ來て青森邊で死んで居り、更らに古いところではモーゼも日本へ來て居り、それらの記錄を證明する物品もありますさうで……もつとも此の件に就ては先年も古道紙上で一寸御意見も拜承したことがあるやうでありますが、これらの古文書や古器物を僞物としても何故に昔の人が斯かる僞造をしたか、又た僞作するにしても普通の歴史眼からしては古代日本人が考へ浮ぶことの出來ぬ資料を取扱つてると思ひますが……。』

『もとより斯ういふことは充分研究してみた上でなければ輕々しく全部を否定することは出來ません。しかし上古にモーゼやキリストが日本に來たといふやうなお伽噺のやうなことが史實であることが證明出來る時代が來たといたしましても、今日に於てはキリスト教の日本渡來は今から三百何十年前としておくことが常識的で穩當であると存じます。』

『聖書の内容をどう考へられますか。』

『聖書は長い期間にわたり多數の人の手によつて書かれたものであり、又た後人によつて取捨訂正されて都合よく編輯されて來たもので其のことは少し學問的に研究した人は誰でも承知して居られることであります。そんなことは門外漢たる私どもが彼れ此れ云ふべきことではありません。』

『氷炭相容れぬやうな思想も混雜して居りますか。』

『聖書は元來雜誌みたいなもので色々のものが混雜して居ります。キリストの愛の宗教と正反對の思想も舊約には澤山あります。又た傳道之書の中では靈魂の不滅を否定して居ります。』

『しかし舊約も所謂つゞれの錦であつて中には正しい古傳の神祕も片鱗をあらはして居る箇所もありませう。』

『それはあります。たとへばイザヤ書の中にも靈感者イザヤは自己を汚れた身と考へて居るのに神姿を拜したので驚き且つ怖れて居るとき一人の使神が鉗をもつて天の祭壇から燒炭を取り來つてイザヤの唇に觸れてイザヤが淨められるといふやうなことなども傳へてありますが、斯ういふやうなことは今日の世界では石城山へ來られなければ何も本當のことはわかりますまい。……もつともイザヤ書の後半は約二百年後に別人の手によつて書かれたものですが……聖書はエジプトの或る王がユダヤ本國へ人を送りユダヤ十二族から六人宛都合七十二人連れ來らしめ七十二日間にギリシヤ譯が完成したといふやうな傳說もあります。事實は左うでなくても左ういふ傳說がキリスト教内で行はれて居る事實にも實は面白いことがあるのですが……。』

『キリスト教神學の重點たる三位一體說などを何う考へられますか。』

『あれはエジプト方面からの輸入です。マリヤ崇拜說なども左うです。西曆三百二十五年にキリスト教の教理へもぐり込んだのです。このドグマを決めたのは其時のニケヤ宗教會議です。』

『ヨハネ默示錄をどう思はれます。』

『あれはヨハネ福音書の記者と同一人の筆になつたものではありません。西紀第一世の終末ドミチアン皇帝の頃に書かれたものです。默示錄第十三章の野獸の數なども古來いろ〳〵の奇怪な解釋が行はれますけれど實はネロ皇帝の名を綴つたものです。ヘブライのアルファベットは數の價値を示す記號にも用ひられるのださうであります。ドミチアン皇帝時代の歷史的背景を考へれば何故に斯んな難解な謎みたいなことを或る慷慨家が書いたかといふことは大概わかります。濱松の大福餅ほど不可解なものではありません。』

『キリスト教の歷史を研究しますと創始以來周圍の情勢に應じて變化をつゞけて來て居り教義でも何でも改訂改作を連續して社會の行進に迎合して來て居ります。これはキリスト教に一貫不動の眞理が無いためではありませうが、併し見方によつては進步的な宗教とも云へるのではありますまいか。』

『それはさうかも知れません。』

『聖餐のパンと葡萄酒がキリストの肉と血に變化するといふ化體說でも教會によつて議論が多種多樣で歸一するところがないではありませんか。』

『さうらしいです。』

『キリスト教創始以來今日まで一貫してる信仰は死者の靈魂は墓で半永久的に絕對休息するものであり何千年後か不確定な復活の日を待つのみでありましてキリスト教の葬式には牧師は必ず此の意味の埋葬辭を讀みますが、これは明白なキリスト教の大誤謬の一つであることは歐米に於ける有らゆる方面の知識階級の人々の科學的研究によつて縱橫に證明された人間死後の實生活に就ての幾百千の貴重なる純然たる學術的報告によつても知ることが出來るではありませんか。この點によつてキリスト教は全く致命的打擊を受けてるではありませんか。』

『それは全く貴說の通りです。キリスト教は今日の心靈科學による人間死後の消息を全面的に否定し得ざる限り人生最大の問題について明らかなる虛僞を說いて居るといふ斷定から逃げ出すことは出來ません。そこになると佛教の四有說の如きは眞理に近いものです。古代印度の靈感者たちは流石によく研究して居ります。』

『つまりキリスト教も佛教も靜かに眺めてみると駄目といふことになりますか。』

『キリスト教も佛教も其の所説に誤謬があるに致しましても過去二千年間に於て重大な役割を演じ人間社會を利益しました。むろん種々の方面から弊害も數へ立てることが出來ますが其れはキリスト教佛教の罪でなく其れを誤解誤信誤用した人たちの罪です。地上の人類は過去に於けるキリスト教や佛教の功績を感謝すべきであります。』

『しかしモウ駄目でせう。』

『楞伽經には宗通と説通といふことが説いてあります。宗通とは神祕的經驗で説通とは論理的説明であります。宗教には此の二つのものが備はらなければならぬと云うてありますが左ういふ見地から云へば今日ではキリスト教も佛教も宗通は消滅し説通にも窮して居ります。或ひは説通だけは盛んになつたとも見る人もありませうが其れにしても宗通無き宗教は生命のないものです。とにかく佛教もキリスト教も今日に於ては石炭の燃えかす同様のものであります。併し神道人は物をみるのに和やかな眼で見なければなりません。佛耶道儒其他あらゆる宗教や哲學や最新諸科學は和やかな眼で眺め、そのよいところを出來るだけ攝取消化して榮養を補助するやうにしなければなりません。そのことは天行居の信條の中にも明記してあります。わが古神道は萬古不滅

の灯し火であり、佛耶道儒諸科學の如きは反射鏡のやうなものでありますから其の反射鏡の裝置をよくすれば灯し火の光輝は一層鮮明となり光度を增すのであります。元來古代の印度からバビロン、地中海一帶から埃及の方面に於ては須佐之男神や思兼神の系統の神々の啓示にもとづく思想が多いのでありまして、根元は正神界の分派でありますから敵視するのは間違つたことであります。』

『神道における修養の理想とか目標とかいふものは結局どこにあるのでせう。』

『ロボットになることです。』

『Robot にですか。』

『さうです。善き意味におけるロボットになることが修養の至極です。換言すれば己れを虛しうして人に對し物に對するのです。私なども無論まだ駄目ですが何年でも何十年でも何百年でも顯幽不二ですから修省をつゞけて行きたいと思ひます。此の大願心さへあれば誰でも惡道に墮せず正神の守護啓導によつて少しづつでも修養は進みます。えらい人は早く進みます。私どもは進むのか退くのかわからん位ですけれど志だけは兎に角持ち合せて居るつもりです。』

『ロボットでは無責任にはなりませんか。熱烈な責任感を以て萬事自主的にやつて行かなければ

ならんのでせう、神道人は。』

『己れを虚しうするといふことは無責任とは異ります。一層正しい責任感をもつて己れの私心を捨てゝ熱心に努力するのは善き意味におけるロボットまがひのものにして始めてやれることです。換言すれば道心を以て私心を制して行くことです。』

『なんだかどうもむつかしいですね。』

『むつかしいことはありません。難儀悶箇謨可謀乃我羅、麻素微能夢周寐、度有須留據等望怡樂農のです。』

『ます〳〵六かしいですね。』

『むつかしく思はれるから六かしくなるのです。本來むつかしいことは何も無いのです。道心といふものが別にあるのではありません。私心が勝手な振舞ひをしないときは誰でも道心がひとりでに輝いて居るのです。』

『私心といふものも眞澄乃結靈ではありませんか。』

『さうです。』

『そんなら道心を以て私心を制する必要はないではありませんか。』

天行居の出現存在の意義の中樞

『私心もマスミノムスビなることを本當に徹見することが卽ち道心を以て私心を制することなのです。さうなると私心が自由自在に働いても其のまゝにして私心でなくなるのです。だからドウスルコトモイラヌのです。』

『つまり誰れでも彼れでも自他ともに憎しみも怨みも怒りも悉くマスミノムスビなのですか。』

『もちろんです。ムスビは相續して行きますが其のムスビなるものが本來マスミノムスビなのです。』

『石城山に於ける天行居出現存在の意義の中樞ともいふべきものは何です。』

『それは今更ら改めて申すまでもなく神界實相を人類に光宣してこれに結緣せしめることで、これは人間の歴史あつて以來無前の大事件でありまして、その問題が餘りに大きく且つ普通の常識で一寸理解し難いやうな點がありますので案外に世間の注意を惹かず又た天行居同志の中にも此の問題に就て切實に明白に認識して居られない人があらうと思ひますが、とれとそ眞の福音で地上に始めて光明がさしそめたものと私共は確信して居ります。宇内の神界の中府は神集岳であり其の大神界には紀記等の古傳に明記された大神たちや歴史上著名の人物等も現に居住せられ其の御受持々々々の御任務に從事して居られ神集岳の形狀や山河の位置名稱から重要な宮殿等の

所在名稱等も明らかに知らされて居り、この神界中府を中心としての諸神界諸靈界及び吾々の居る現界との關係交渉等も或る程度まで明らかとなつて居りますし、石城山が神集岳の現界に於ける齋庭として神定められてあること、明治元年（戊辰年）の還暦昭和三年に石城山が開闢されるについては其の前後に於て俄然として太古神法や又は神集岳に因緣ある神物の出現等がありましたこと等、それらのことは從來の天行居の出版物をよく御覽になれば誰でも御承認になる筈だと思ひます。神集岳といふやうな名儀が吾々には少し異樣に聞え、何とか純日本風な神さびた稱號であるならば世人の耳にも入りやすいだらうになど彼れ此れ俗念で思ふこともありますけれど、吾々が勝手に彼れ此れ訂正したりするわけには參りません。』

『さうした天行居の出現理由に關する重大な事項などを天行居の出版物から盜み取つて無斷で輕輕しく世間に吹聽してる人たちも二三方面にあるやうですが、さういふことをどう考へられますか。』

『さういふやうなことは私共の關するところではありません。しかし今後あまりに眼にあまるやうなことがあれば係りの諸君が何とか考慮せられるかもわかりません。』

『今日お伺ひしたいと存じました最初の主要問題について簡單にお話を承はりたいと存じますが

……つまり吾々が臨終の際の氣の持ち方といふやうな問題です。天行居では死は神變なりと云つてまるで隣室へ行くやうに說いてあり、又た實際先年來古道紙上で報道されたところによつても天行居同志中には臨終の病床に於ても頗る樂天的にやつてのける人たちがあるやうですが、神變とか無生死とかの本分上の話から調子を下げて、實際の臨終の場合の實地問題について理窟ぬきにわかりやすく承はりたいのですが。』

『それは少しも氣にせられることはありません。いかなる場合にも只だ其の時の成行きにまかせて安心して居られゝばよろしいのです。善人が臨終の時に苦しまず惡人が苦しむとも限つたわけのものではありません。其人の病氣の種類や種々の事情で苦樂はあります。善良の婦人でも難產することがあり不良の婦人でも安產することがあるのと同じことです。病苦死苦があれば病苦死苦にまかせておけばよいので、ナニモカモカムナガラ、ドウスルコトモイラヌのです。七轉八倒するのもよし唸るのもよし、ていさいよく死なうとあせる必要はありません。併し天行居の同志は固より其の近親者や有緣者が病氣で重態に陷つたやうな場合には必ず石城山の本部へ祈願を申込まれるがよいのです。その結果快方に向はれるもよし、又た天之正命で歸天せられるとしても、特に其の祈願の產靈紋理によつて正神界の啓導守護を受ける因緣となるのですから此れはよ

く心得て居て頂きたいと思ひます。』

『相當の日時を病床に過ごしてから行脚するのならよろしいが、私のやうな酒飲みはポックリ行かんとも限りませんが。』

『だから平素に於て正神界の守護を祈願せられ、言行に注意しておかれるのが安全です。』

『昨春發表せられました石城島靈界の消息については其後何か訂正せらるべきことを發見せられませんか。』

『發見いたしませんのみならず益々その信念を強めることがありますが、いづれ又た纒めてお話しする機會を得たいと思ひます。』

『佛仙界や佛仙界所屬の靈界に居住する吾々の緣故者を神仙界の系統の靈界に轉住させることは出來ませんか。』

『それは神界の攝理幽政の取計らひによることで吾々が勝手に彼れ此れ申すことは出來ませんけれど、產靈紋理による氣線の變化はあります。佛法でも一人出家すれば九族天に生ずるといふやうなことを昔から申しますが、これは理由あることです。だから吾々よりも先きに歸幽せる緣故者に對しても正しい祭祀の手續きをするとか、吾々の信念言行を正しくするといふことは有緣者

靈界居住者の轉住問題

に對する義務とも云へます。これは極めて重大な問題ですから夜靜かなるところ獨坐して深く考へて頂きたいと思ひます。勝緣ありて天行居の出現を知られた以上其の產靈紋理について正しい理解が必要です。或る程度まで詳しく天行居のことを承知する機會を惠まれながら自分勝手な私心から天意に遠ざかつて永久に正神界の氣線を斷たれるやうなことのないやうにお互ひに氣をつけて行きたいと思ひます。』

『石城山上も少し御模樣替になるやうな噂さがありますが……。』

『少し御模樣替になります。一部の社殿等が一層古式に改められます。』

『富士山麓及び琵琶湖で又た近く神事が執行されるさうですが……。』

『執行されます。淡海神事の方も先年の神事についての年次的のものといふやうなことでなく、根本的な重大神事であります。中川先生や長臨先生が太古神法の方面からも又た科學的施設の上からも研究に研究を重ねられたもので、今度こそ私共も安心が得られるわけであります。富士山麓の神事についても適當な地所の物色入手といふ大問題と神儀の御柱たる齋岩（六百貫餘）の發見とが中川宗主の命を受けられた靜岡支部長新井氏が只の一日の間に運ばせられたといふ嘘のやうな奇蹟があります。以て天意のあるところを知るべしであります。又た此の富士山麓及び淡海

富士山及び淡海の神事

神事參加者の心得

の神事については今春來中川先生と長鹽先生とが殆ど毎月の如く石城山に於て徹夜して神儀の虔修に奉仕されました。今春の寒さは三十何年ぶりとやらで、春とは名のみで寒氣骨を刺す夜を徹して白衣で默々として森嚴な神事をつゞけられた御苦勞は並大抵なことではありません。私など暖かく睡つて居て誠に申譯ない次第であります。又た此の淡海神事富士大宮神事については各最寄支部の方々が先月來非常に種々のことで御苦勞になられました。

『今秋の山上修法は矢張り御執行になりますか。』

『今年は十月頃になるやうに先達て幹部の御方から承はりました。』

『十一月の大祭と別々になりますと參山者の人員が十月も十一月も減じて淋しくなりませんか。』

『それは差支ありません。天行居では萬事ことさらに景氣をつけてヤマを張るやうな必要は少しもありません。極端に申せば大祭の如きも參拜者がなくて祭員だけで執行してもよろしいのです。全國同志中の篤信者が少なくとも幾百名至心に遙拜祈念して居られるので其所に天行居の特異性ともいふべきものがあります。又た參拜者が少なければ尙更らのこと大前に直接奉拜の光榮を有する參拜者は其の意義の重大を自覺して、自分の背後に幾百の遙拜同志の靈が參列して居られ自分たちが大前直接奉拜の代表たることを深く考へられなければなりません。又た申すも畏き

天行居の修齋會

ことでありますが多數の神祇が光臨し給ふのでありますから祭員は只だ神祇に對し奉つて一心不亂に敬虔に祭典を執行して居られるだけであります。山上修法も參加人員は少なくとも嚴肅に執行される方が結構であります。只だ一祭典一神事に參列のために遠方から御苦勞になりまする同志諸君の念願も專純であつて始めて有難いのであります。』

『毎月の修齋會はどういふ意味のものでありますか。』

『毎月石城山道場で開いて居りまする修齋會は必ずしも參加人員の多きを望みません。眞實な心を以て參加せられるならば一人でも二人でも結構でありまして修道部の御方も參加人員の多少は眼中になく熱心に補導して居られます。又た修齋者は直接に神祇に對し靈山に親むのが眼目でありますので修道部の御方も其れをお世話するといふだけな態度でありますので先年來指導といふ文字を避けて補導といつてをるのであります。要するに參加せられる來山者と神界との直接の問題でありましてつまり修齋者其人の信念の深淺と實不實とによつて修齋會の意義も差等を生じてくるのであります。神法道術を買ひに行くといふやうな態度では勿論駄目であります。神法道術の相傳を受ける受けぬはむしろ第二の問題であります。俗靈術の講習會の如きものとは全く精神を異にするのであります。眞實な心を以て修齋會に參加せらるれば夜間宿舍で睡眠中に靈化され

て行くのでありまして表面からはわからないことで又た其人の信不信によつて何も彼も差等を生じてくるのであります。ですから修齋會には何回でも都合のつく御方は重ねて參加せられるところに神妙の意義があるのでありまして神法道術の相傳は受けるだけ受けたからモハヤ自分は修齋會には參加する必要がないと思はれるのは大きな御考へちがひであります。かつて參加した修齋會に於て自分の信念なり態度なりに不滿足な點があつたと純潔に自覺せられるやうな御方は尙更らのこと己れを虛しうして機會を都合して何回でも參加せられるといふところに尊い其人の神道的人格もあり永遠の精神上の收穫もあるのであります。又た靈感靈能の如きもわづかに芽が出ようとして神慮によつて押へられて居たのが突如として開發の機緣にタッチすることもあるのであります。又た毎月の修齋會で中川齋主または長鹽副齋主が執行される結緣修法なるものは實は極めて重大な意義があるのでありまして結緣修法と假りに稱して居りますけれど只だ正神界結緣といふ意味ばかりではないのでありまして、これは幾回でも重ねて受けられるところに尊い靈的精力が加重されるといふ意味もありますので容易なことではないのであります。永遠惡道に墮ざる正因緣のムスビの意味からいつても大切なことであります。太古神法の至極ともいふべき大事でありまして實は中川先生も長鹽先生も其の御執行の際の靈感について驚いてひそかに私にも

所謂靈感靈能に就て

體驗をお洩らしになつてることが色々あるのであります。』

『神道の名を冠する種々雜多な教會めいたものの謂はみる靈感者なるものが全國に幾百となく隨所にザラにありまして多少成績の差こそあれ相當の所謂靈能靈感が彼等にあることは事實ですが、本田親德先生とか宮地水位先生とか堀天龍齋先生とかいふやうな正しい大靈感者には日常生活の上に殆ど其のやうなことがなく今日誰が來訪するか明日誰が何處へ行くかといふやうなことは全く御存じなく尋常人と少しも異つたところがなかつたやうに聞きますが如何です。』

『そのわけは天行居の出版物を精讀せらるれば分明であります。かんざしが紛失したが誰が盜んだか、下駄が無くなつたが何處にあるか、そんな世話を燒く靈がどういふものであるか常識で考へてもわかることであります。正神界の高級の神靈に感合する人は日常生活に於ては普通人と何等異つたものではありません。尤も高級の神祇に感應しながらも臨機に實用向きの靈に感格し得る人もないことはありません。』

山上の天啓について

『昭和二年十一月の山上の天啓についてお話を伺へませんか。』

『それは容易なことではありません。』

『概括的に簡單にでも伺へませんか。』

『大雑把に申しますならば

一、人の道をつくして神にたのめ。

これは從來折りにふれて少し解說したこともあると思ひます。

二、フルヒにかけて世を淨める。

これは解義の方針によりいろ〳〵になりますが大體誰にでもわかりませう。

三、道を忘れて道をふめ。

これは內外一誠幽顯無畏の生活すなはちまことの生活を言葉を換へて示されたものと思ひます。農工商官吏軍人其他誰れも彼れも其の立場々々の任務に忠實であつて何の理窟もない神ながら言擧げせざる道の履踐を示されたものでありませう。むつかしいやうですが實は誰れも彼れも大概知らず識らずに平常その通りにやつてるのです。尙ほ此のことは他日少し詳しく申上げたいと思ひます。

四、世の變りめの爲め。

五、磐境を護り來た。

この四五の二句は第二の句と續いてをるものであること申す迄もありません。

六、むかしの大神たち。

七、なりませし神の山。

八、やまとをひらきていはとをひらけ。

この六七八の三句は難解です。私も既に九年間研究して來ましたがどうもわかりません。天の時が來なければわからないでせう。

九、この山神界の中府。

十、トコタチの神の齋座。

この二句の意は明白と思ひます。カクリヨノミヤコとは正神界の中府すなはち神集岳のことであります。トコタチのトコは大地とか場所とかの意もありますが基底、根本といふ意が本義です。タチはツチの轉でツチは靈神といふことです。つまり此の最後の二句は此の石城山は神界の中府たる神集岳の大神たちを齋ひまつる齋座であるぞとの意味であります。トコタチといふ言葉については德川時代の國學者の意見もいろ〳〵あり又た明治大正以來の學者の說もありますが其れらのものに對する私の愚見は又た纏めて申上げる機會を得たいと考へてをります。トコタチのトコといふ言葉は永遠常居の意もありますので神集岳の中央の方四十里の大神殿たる大永宮の意味も

繫けてあるかとも思ひますが其れは少し牽強附會になるかもわかりません。」

（昭和十一年七月一日）

神道一家言（九）

『ちかごろ眞正の宗教と邪宗といふやうな問題が各方面で時折話題となりつゝあるやうに思ひますが元來この問題は今日に始まつたことでなく昔から繰返された問題であり、比較的新しい歴史だけに就てみても明治以來各方面の宗教家、宗教學者、關係官廳筋の人々などによつても色々の見方によつて研究され論議されて來たもので其れらに關する記錄文獻だけでも相當にありますが斯ういふことに就てどうお考へになりますか。』

『それは嚴密な學術的態度からいへば隨分むつかしい問題となり八釜しいことにもなりますが、詮じつめれば用語や觀念の整理方が分科的に複雜に並べ立てられたといふ迄のもので、要點を綜合してみると大概のことは誰にでも判別の可能な問題になつてくるのであります。各宗各派で自分たちの宗派に都合のよいやうに考へ合せた謂はゆる「眞正の宗教」の定義なるものは一種の利己心を滿足せしめんとする知識的遊戯でありますが、すべての宗派に囚はれず新舊既成未成に拘泥せずに公平無私の立場から申しますならば、

(1)倫理道德に合致し倫理道德を强化實踐的ならしむる原動力となり
(2)社會の公安を害せず
(3)國家の動向に協調性を有し
(4)現世及び死後の生活に光明を與へ人生を淨化する力のあるもの

ならば正しい宗教と認めねばなりますまいが更らに私共の信念から云へば、

(5)神界實相についての認識の正確

といふことが眞の宗教の價値を定むる重大なる條件であり、又、

(6)其の教團に交渉する主力靈の素性の正しきこと

が要件となつてくるのであります。(1)から(4)までは如何なる宗派の人々も異存はありますまいが(5)となつてくると議論が起りませう。天行居は此點に於て信仰上の地上唯一の鍵を握つて居るのでありまして、實を云へば右の(1)から(4)までも此の(5)が明らかでなければ沙上の樓閣であります。同志諸君は此の一點を深く究明して天行居の使命の重大性を正確に認知せられなければなりません。また(6)となれば相當專門的研究の經驗知識のない人々には難問題かとは思ひますが此れも其の教團の正邪を辨別する必要の條件でありまして、此れは今日堂々たる形態の大教團を

しても隨分氣の毒な結論となつてくる場合があります。表面(1)から(4)までにどうにか合格するが如くに見ゆれば世間も政府も此れを正しい宗教と認めますが此の(6)の不正な宗團に結びつけば其の惡因緣は死後に至つて次第にわかつてくるもので、相當のインテリでも斯ういふ問題となつてくると不思議なほど無識なのに驚かされます。經濟學で惡貨は良貨を驅逐するといふ一つの法則もありますが宗教まがひのものにも左うした場合がありまして、眞實なものが容易に發展せずにクダラナイものが大流行大繁昌をすることがあります。しかし眞實なものは早晩かならず世界を照らす時期が到來するものです。』

『いかゞはしいものの大流行大繁昌は宗教まがひなものに限つたことでなく音樂でも文藝でも何でもさうだらうと思ひますが、しかし相當に長い歷史のある謂はゆる既成宗教の現狀も困つたものではありませんか。昭和十一年七月十一日の大阪朝日の社說には、

最近、年收六萬圓といはれる日蓮宗一名刹の住職後任問題をめぐつて、その推擧運動のために管長へ贈つた一萬餘圓が、遂に契約不履行の醜爭となり、監督官廳たる文部省の既成宗團革新の一契機となるべき形勢を示す一方において、日蓮の教義を信奉する有志の間には、椙を全國の信徒に飛ばして、宗門の廓淸を計るに至つたと傳へられることは、その事實が、帝都

のうちに起つたものであり、單に一宗寺院の實情を暴露したに過ぎないものとはいひ得ないのである。由來、日蓮宗内には、多年同種の醜狀が潛在し、或はしば〳〵表面化するのであるが、しかも同宗以外、その性質におの〳〵多少の相違はあつても、一般に、かゝる情勢が各宗各派に及んでゐることも、既に周知の通りである。東本願寺の係爭問題は、あまりに舊いが、曩には曹洞宗管長選擧にあたつても、異常の對立抗爭が續けられたことは、世人の記憶に新たなるところであり、天理教本部における脫稅事件、基督教牧師の放火罪など、その大小輕重に拘らず、すべて宗教界の現實を反映したものに他ならないではないか。

とありますが斯ういふことは誰でもが考へて居ることであり誰でもが遺憾に思つて居ることであり誰でもが愛想をつかして居ることだらうと思ひます。このごろ大流行の新宗教まがひのものに對する職業的意識の反感から既成宗教に衣食せる連中が正法擁護だの何だのといつて騷いでるのは一應尤もらしいけれども一種の氣の毒さを感じませんか。』

『既成宗教といふものが殆ど皆なタガがゆるんでるのは事實です。大部分は腐つてをります。しかし其れが此頃大流行の新宗教まがひのものを辯護する理由にも材料にもなるものではありますまい。』

『現世利益で大流行してる此頃の二三の類似宗教のことは姑らく問ひませんが、各地に起滅する或種の靈能者を中心とする教團まがひのものが內地だけでも幾百となくありますが、其の中には一概に邪靈の感合作用だと排斥するわけに行かないのも多少あるのではありますまいか。』

『それも絕無とは申せませぬ。しかし實は大概駄目なんです。世間の人は審神といふことについて驚くほど無識であります。靈媒がトランスに入つてる狀態は當人の意識が混雜せぬこと、金錢に淡白であること、言動が道德的であること位ゐで直ぐに正神にきめて了ふのですから私共からみれば馬鹿々々しくて問題になりません。第一歸神狀態の深淺といふことは憑靈の正邪とは別問題であります。當人が意識して居ても正神に感合の場合もあり完全な無意識狀態であつても邪靈に占領されて居ることもあります。金錢に淡白といふことも交涉靈の正邪に關係ありません。否な海千山千の邪靈が正神を假裝するためには特に金錢に淡白なゼスチュアを示すものです。正しい宗教團體が正當なる支出を安全ならしむる爲めに正當なる收入工作をすることは當然のことであります。道德的言動を假裝することも彼等の手でありましてなか〳〵洒落たことをいふものであります。こんなことを申上げるのは如何かと存じますが先年來種々の婦人雜誌などに紹介されたやうなものについての批評は眞ッ平御免を蒙りたいです。まあ雜誌社としては雜誌が賣れさ

鎭魂と歸神と憑靈作用

天行居同志の法悅

へすればよいわけでせう。』

『あなたは靈感とか靈能とかいふ現象を殆ど憑靈の作用のやうに片づけて了はれますが用語は兎も角も何等かの方法によつて精神が統一すれば我が精神力の發動によつて靈感も靈感も行はれるのではありませんか。』

『鎭魂と神憑りとの區別については二十年前來しば〳〵申上げてをる通りです。むろん我が精神力の統制によつて如何なることでも作用し得られるわけであります。しかし實際問題として靈異作用は殆ど神憑り（廣き意味に於ける）の場合が多いのです。眞言天台日蓮禪の行者などが定力によつて何かを感知したとかいふやうなことも實は大部分憑靈現象であります。水行をやつたり斷食をしたり座禪觀法をやつたり讀經をつゞけたりしてると精神統一の狀態に近づきカンガカリツクな性格な人には直きに色々な靈が憑依しやすくなつて困るのです。昔から堂々たる僧正樣などで一生涯憑靈作用と氣づかず修行の功による定力の應驗と誤信して居た人たちが多いのです。』

『天行居の同志の信仰上の悅び、つまり法悅とでもいつたやうなところは何處にあるのですか。幕末明治初年ごろから簇生した種々の信仰團體のやうに現世利益といふことを重視して居らぬ傾

向が著しく異つて居るやうに見受けられますが。』

『天行居では現世利益といふことを重視して居らぬといつても格別に輕んじて居るわけでもありません。幽顯不二の古道を奉ずるものが現世だの未來世だのをことさら引き離して考へて居ないのです。本田親德先生が道之大原に於て名位壽富は人の正慾だと說かれたことにも勿論同意して居ります。神の道には現世を輕視して未來世のみを重視するといふ厭世的な逃避的な思想はありません。しかしながら天行居同志の法悅ともいふべきものは何處にあるかと云へば、第一に神たる我れの自覺であります。萬古不滅の我れの實證的自覺であります。悠久の生命の體驗的自覺であります。天行居では格神講といふものに入つて天行居同志の資格を得ることになつて居り格神講はすでに十七年間の歷史を有して居りますが、格神といふことは神に格るといふことですが實は神たる我れを自覺することであります。天行居同志の法悅ともいふべきものの第二は、倫理道德が我々日常の生活の興味となることです。むつかしい規則かなんぞのやうに考へて居た倫理道德が神ながらに我々の日夜の實生活の興味に溶け込んで段々と無理のないものになつて行く悅びです。第三は忠君愛國の信念が理窟拔きに腹の底から湧いてくる悅びです。第四は神集岳を中心とする正神界の實相を知る悅びです。第五は此の第四の悅びと伴うてくるところの自己他己の正

しい救濟の道の悅びでありまして隣人に對する正しい愛もこれから生じてくるのでなければ本ものでないと信じて居ります。それらの悅びにつれて必然的に責任も感じ使命も感じて來ますので其の責任使命の若干の遂行にも悅びを感じます。運勢が立直るとか直らぬとか病氣が治るとか治らぬとかのことも人間の大問題でありまして輕視して居るわけではありませんが其れらのことは天行居では第二義的のものとなつて來て居るのであります。』

靈界の內閣製造業者

『日本だけでみても幕末頃から今日にかけて種々の宗教團體まがひのものが發生し其の中には今日では幾百萬の信者を抱擁せるものさへありますが此等の教團の發生の動機をどう考へられますか。』

製造宗教は死物なり

『幕末頃からの日本の靈界にも或種の內閣製造業者ともいふべき凄い腕の靈物が二三活動して色色のものを拵らへ上げましたが今日大規模の基礎が築かれて種々の社會事業などに努力して居るものも其の背景の靈物の劫が盡きるときには早晩必ず衰亡して了ひます。此の問題は此れ以上申上げたくありません。』

『古來地上各方面の聖賢の教へや諸宗教の長所ともいふべきところを取りまぜて一つの教團のやうなものを製造しようとする人々を明治大正以來ちよい〳〵見受けますがそんなものをどう思はれますか。』

實相觀はまことのすみ觀なり

『それは駄目です。他の學問のやうなものならば其れも結構でせうが、宗教としては其れは全く生命のない死物です。宗教といふものは酒や醬油のやうに製造すべきものでなく深山の清泉の如く神ながらに湧き出るものでなければなりません。換言すれば人間界で製造したものはどんなに立派に見ゆるものでも宗教としては永遠の生命はありません。必ず神界から發動して人間界に出現したものでなければ駄目であります。神界から發動して人間界に出現したものは其の取次の局に當つた人物の手腕拙劣などのために當分は少し變に見えましても必ず時節が到來して大光明を放つて參ります。』

『しかし此の大宇宙間に於て眞理に二つはない筈でありませう。佛教にもせよキリスト教にもせよ神道にもせよ儒教道教マホメット教印度教其他何にもせよ必ず歸一するところがある筈でありませう。つまり宇宙の實相（すなはち無相）を觀じて其れに徹するところに歸一すれば同じものではありませんか。』

『それは一應御尤もに聞かれますが其處に微細なる取りちがひが生じやすく、其の微細なる竹膜ほどのちがひが直ちに天地の相違となるもので此處が實に大事なところであります。實相觀（す

なはち無相觀）は私共から云へばますみ觀であります。私共の信ずるところの神の道は「ますみのむすび」であり神の道の表現は「むすび」の道であることを多年くどいほど申上げてをります。神の道は「ますみ」の道ではないのであります。』

『その話は今日まで何度も承はりましたが實は解つたやうでどうも解りません。あなたの心うちの意味の髣髴だけでも何か方面を換へて説明されるに都合の好い話題はありませんか。けんたうちがひの話でも却て會得の手びきとなり緣となるやうな話でも。』

『それも色々あります。野狐禪の畑から借用してくるならば南泉指花の話なども面白いかも知れませんな。』

『それを一つ手みじかに話しませんか。』

『これは鳥尾得庵も滴水から油をしぼられた則ですが本則の文面は、

陸亙大夫、南泉と語話するとき、陸曰く、「肇法師は、天地と我とは同根にして萬物と我とは一體なりと道へり、また甚だ奇怪なり」、南泉、庭前の花を指して大夫を召して云く「時人この一株の花を見ること夢の如く相似たり」

とれだけであります。この陸亙といふ男は官吏でありますが有名な居士の一人です。しかし此の

問答の時は本當の知見がまだ開けて居なかつた頃です。この南泉といふ坊さんは例の猫斬りの南泉です。猫で有名になつた人に日本では夏目金之助先生が居られますが支那では此の坊様でせう。馬祖下でありますが趙州のやうに煮ても燒いても喰へぬ奴を門下から出した豪傑です。肇法師といふのは東晉の高僧で羅什門下四哲の一人です。或る事件で死刑に處せられましたが判決を受けて七日間の猶豫を乞ひ其間に寶藏論といふ一書を著述して從容として刑につきました。まだ三十そこ〳〵だつたらしいですが支那にも昔はエライやつが居りました。その寶藏論のことを肇論と言ひ傳へて來て居ります。此處に陸亙が引き出した語は肇論の中の涅槃無名論の第七妙存篇に出て居る有名な句であります。陸亙は肇論を讀んで感心してしまひ、天地と我とは同根だ、萬物と我とは一體だ、斯ういふ實相觀（すなはち無相觀）に徹すれば卽ち佛性現前だ、我身といふものも無く病氣といふものも無いのだ、ありがたい、三界は唯心の所現だとばかり大歡喜の體で、一日その師の南泉を訪問して其の所見を呈したものと見えます。南泉は默つて聽いて居て其の時は何も云はず、茶でも飲み合つたあとで陸亙を案内して寺の庭を散歩し、折から咲いて居た牡丹の花を指して「この頃の學人はこんな花をみても夢に夢みるありさまぢやて」とやさしく痛棒を見舞つたのであります。』

『陸亙の所見でよろしいではありませんか。佛法の眞理も莫するに其の肇論の句に道破されて居り、陸亙が其れに感心したのは陸亙の道眼が開けたのではありませんか。』

『一應それでよいわけではありますが、それでは空に盗まれます。空觀に囚はれたものになつて魔道に墮します。遠い昔の支那の話ばかりではありません。氣をつけられんと危險です。殊にまことの神の道にはこんな思想は大禁物であります。そんなことで悟りが得られるものなら南泉も猫を斬るやうな殺生は致しません。』

『そんなら其の牡丹の花を南泉はどう見て居るのですか、又た陸亙にはどう見えますか。』

『陸亙は天地同根萬物一體の哲理で眺めるから牡丹の花も巖の流れもベンチも一しよのものと見て居るのです。悟つたやうで實は不自由千萬な哲理に縛られて身動きが出來ないのです。南泉は只だ「あゝきれいに咲いた」と眺めてるだけで何の理窟もないのです。大自在です。ドウスルコトモイラヌのです。此處が神ながらの道です。』

『なるほど……イヤしかしどうもわかりませんな。』

『わからんといふものに囚はれて居るのですよ、あなたは。』

『ます〳〵わかりません。佛性現前、すなはち神性現前、これほど結構なことはないではありませんか。』

佛も亦た是れ塵なり

『名はどうでもつけられますが無相觀といふやうなものによつて塵念を拂ひのけて佛性が現前する。そこに執着して殊勝の思ひをするのが大概の先生たちの修養の目的です。しかし其れは賊を育てるやうなものです。或る僧が夾山に問ひました「塵を撥つて佛を見るとき如何」夾山は「佛が面を出したら劍を拔いて斬つて捨てい」と答へました。この僧は承知が出來ず更らに石霜を訪うて同じ質問をしました。石霜「なんだ、佛を見たらどうするかと云ふのか、佛なんて奴には國土が無いんだから佛に逢ふなんてことはないさ、馬鹿々々しい」と答へました。神鼎諲禪師も曾て僧から「塵を撥つて佛を見るとき如何」と質問されて言下に「佛も亦た是れ塵なり」と喝破しました。まあ今夜とつくりと考へてごらんなさい。』

『禪の公案のやうなものは考へてわかるものではないといふではありませんか。』

『もちろんです。私は禪の講釋をしてるのではありません。假りに話の材料を野狐禪の畑から一寸失敬しただけです。まことの神の道といふものについて考へてごらんなさいと云ふのです。神ながら言擧げせざる道とは何であるか、ますみのむすびとはどういふことであるか、花の咲くのをどう見るか、花の散るのをどうみるか、喜怒哀樂の起滅をどうみるか、生死をどうみるか、私せんか。』

心の外に道心があるか、無いならば何故に邪悪の心が起滅するか、とゞのつまり塵々みな大光明、ドウスルコトモイラヌ大安樂大歡喜が得られるかどうか、他より強ひられぬ道義的勇氣をもつて世の中に處して愉快に順逆の境に活動することが出來るかどうか、病境逆境にも悅びがあるか、ないか、考へてごらんなさい。』

『牡丹の花をみて「あゝきれいに咲いた」と見るのは先づ其れでよいとして南泉が病氣に罹つたらどうでせう。』

『病氣になつたら南泉も醫者にかゝつてにがい藥を飲むでせう。痛い時には「痛い〳〵」と言ふでせう。只それだけなものです。さら〳〵としたものです。何のねばりこばりもありません。軍人になつたら戰場では萬死に一生を期せず奮鬪するでせう。商人になつたら愛想よく活動して大いに儲けるでせう。死ぬるときは間違ひなく死ぬるでせう。只それだけのことです。』

『どうも何だかよく解りかねます。テキストを換へてわかり易い話にしませんか。猫の話なんざ何うも六かしいです。神道人としての心のもちかた、態度、言動等について二三の卑近な實例について話しませんか。』

『内外古今の美談のやうなものは大概みな道心の表現でありまして、どれでも神の道の經文とみ

内外古今の美談は道心の表現なり

枇杷仲平の無私誠忠心

ることが出來ます。謂はゆる神道を奉じた人の言行に限つたことはありませんから改めて申上げるとなると經文が多過ぎて却て一寸戸惑ひをいたします。』

『まあ取敢ず思ひつかれる二三の事例について伺ひませう。』

『少々婆々談義になりますが……朱雀院の御時にあやしい星が現はれました。天文博士がそれを卜ひまして大將たる家に災禍のある兆だと判定いたしました。その當時の左大將は枇杷仲平でありまして右大將は小野宮實賴でありました。そこで實賴の家では諸寺諸社の祈禱を間斷なく行ひましたが仲平の家では何等の靈的對策も致さず從容として主人は勤務して居られました。平素事毎に仲平の祈禱を依賴されて居た或る僧が仲平を訪問して「とんどの妖星出現について實賴の家では祈禱修法怠りなきに何故に閣下は今度は祈禱を命ぜられませんか」とたづねますと仲平は「とんどの星は必ず大將に祟るといふことだから我れと實賴と二人のうちで一人がやられるのであらう。然るに我れは年老い且つ病弱にして餘り役にも立たぬ將來だ、實賴は健康力もあり才幹もある人間だ、我が祈禱が奏效して我れ其の天定の災難を免かれ得たならば必ず實賴がやられるであらう、それは朝家の御爲めに余のしのび得ざるところだ」と語つたので法師も感涙にむせんで引き退いたとのことです。しかるに仲平の無私忠誠の心は天神地祇に感應したものと見えて

仲平も實賴も無事であつたとのことで此れは宇治拾遺物語にも出て居ります。』

『えらいですな仲平の精神は。そんな人ばかりですと〇〇の不祥事件なども起りませんね。』

『我が古道精神の模範的のものでせう。天之押日命の辭立以來の純然たる天上精神、日本精神の輝きですね。斯うした古道精神が眞に全日本人に復活してくれば勞働爭議も家庭爭議も顏を赤くして引ッ込んで了ひますね。』

『まつたく宗教を超越した宗教ですね。』

『古田大膳大夫は古田兵部少輔の舍弟で小身のものでありましたが慶長何年かに兵部が逝去したが子息が僅かに三歳だつたので此の大膳に兵部の家職を相續すべき旨の沙汰があり大膳は俄かに富貴の身となつて年月を過しました。しかるに兵部の實子が成長しましたので元和六年大膳は家督を姪の兵部に返し申したきよしを願ひ出でました。けれども大膳は年も若し急ぐにも及ぶまじと再三の上意がありましたが大膳は强ひて請うて六萬石の所領ならびに財寶器物たゞ一品も我がものとせず悉く兵部へ返し與へて自分は俄かに元の小身ものとなつて小家に移つて住みました。これをみた世間の人は「大膳は年久しく富貴に居て榮華は極めたのだからモハヤ故山に歸つて風月を友として安樂に餘生を樂む算段であらう」と評しましたが案に相違して大膳は其後は極めて

輕き身分でありながら關東に在つて熱心に奉公につとめられたので心ある人は感嘆したといふことであります。』

『どうも悠々たる天心ですね。君子といふのがこんな人でせうね。』

『順逆に心無く悠々として忠實に努力をつゞけ其場々々で最善を盡して惑はないところは全く神道人の見本としてよいと思ひます。人間は兎角今日に於て昨日のことに囚はれ、今日は今日の世界なることを知らず、そのために生活に無理を起したり煩悶したりするのでせうが、事にもよりけりですが糞切れのわるいのは面白くありませんね。少し極端な例ですが紀文大盡は千兩箱を積み重ねて豪遊し金が無くなつたら兩國橋で乞食して却て其の簡易生活を喜んだとも傳へられて居ますが、俄かに靑くなつて首をくゝッたりする連中とは人物が段ちがひですね。』

『少し話の方向が變更するかも知れませんが修善積德といふことも現世の名利のためにするのは勿論あまり感心したことでありますまいが來世の冥福のためにする、つまり寶を天に積むといふことも達觀すれば要するに矢張り私慾ではありますまいか。』

『そのことは隨分古來かれこれ論議されて居りますが寶を天に積むことは結構です。それを外にして人間の命脈はありません。更らに强くいふと現世に於て何等かの報を得るためにする善行も

結構だと私は確信します。いかなる動機にせよ善行は善行です。幽玄な理論で光陰を徒費するよりも卽今寸善を實行する人が尊いです。心理學では悲しきが故に泣くけれど泣くが故に悲しくなることも說明します。いかなる動機にもせよ善を思ひ善を行へば其れだけ善人になります。善人に天が福ひするのは當然であります。また善を行ふといふことは實は神たるわれの心の底の要求であります。くらますことの出來ぬ人間本然の念願で何が愉快といつても何が安心といつても善を行ふことの上に出づるものはありません。リンカーンは青年時代に田舍を旅行して一頭の豚が泥濘に陷ち込んで動きが取れず苦しんで居るのを見ながら過ぎ去つたが、どうも氣になるので二哩も行過ぎてから又た馬車を引返して豚を救つたことがあり、そのときには只だ慈悲心から豚を救つてやつたと考へて居たが、あとで靜かによく考へて見ると、それは自分の良心の苦しみを救はん爲めの行爲であつたといふやうなことを述べて居りますが、斯かる心もちの經驗は大小となく如何なる人々にもある筈であります。それは宗教を超越した宗教であり、神ながらの道であります。この古道を宣揚して多忙なる現代地上の人間を假睡狀態から覺醒せしめんとするのは實は新宗教といふやうなものではないのであります。古道の宣揚に過ぎぬのであります。』

『猫の話よりも豚の話の方がわかりやすいやうです。』

動機と實行とに價値の區別なし

『心傳の第六十四に於て、

天行神軍が使命の中心とする靈的國防の意義は極めて廣し。一面より觀れば我が神軍は「惡に對する靈的戰鬪團體」なり。「善の天軍」なり。同志は此の高遠の理想を覺悟し、此の卑近の實行に努力すべし。

とありますのも此處にいふところの意味に外なりません。序でだから申上げますが長年月の努力で三千善の行願を昨年滿了せられた〇〇〇〇氏は更らにつゞけてやつて居られます。こんどは三千といふ數を限らず幽顯一貫永久にやつて行く御覺悟ださうであります。此の〇〇氏は先月の富士大宮神事にも遙々參加せられました。』

『佛敎の或る經典によりますと、動機には善惡があるが實行には善惡はないとありますが如何です。』

『神の道はむすびの道であります。むすびは卽ちますみのむすびであります。動機と實行とに價値の區別はなく前後の區別もありませんのです。動機の如何に拘らず惡を思ひ惡を行へば惡人になります。善を思ひ善を行へば善人になります。神仙を思ひ神仙の道を行はんとすれば神仙になります。』

修善積德の眞の快感

不破民部の話

『善を思ひ善を行ふことほど愉快なことはないといふこと、これは承認いたしますが併し修善積德といふやうなことには苦痛、不快、損害が事實上伴ふ場合も多いではありませんか。卑近なところで申しますと電車の中で老人に席を譲つても其のために自分は若干の疲勞を感ずることも不便を感ずることもあります。貧困な人を少し助けても其れだけ自分は損害を受けます。』

『そこに修善積德の尊とさもあり、ウマミもあり、眞の快感も培はれるわけでせう。苦痛が大きければ大きなだけ、やがてそれに打ち勝つて行く快感も亦た大きいでせう。そこには活きた修養もあり活きた宗教もありませう。そこに本當に生き甲斐のあつた自分といふものを發見することが出來るのでありませう。濃州南宮（現今の國幣中社南宮神社、祭神金山彦命、岐阜縣不破郡宮代村）の神職に不破民部といふ人がありました。學識もあり幽齋祈禱にも達して居たので世人の尊敬を受けて居たが殊に江戸の旗本の某氏といふ大身の仁より格別の敬意を拂はれ或る年招かれて江戸に遊び同家の離亭に數ヶ月滯在して居ました。ところが或る日一人の若い女が平身低頭してやつて來て「私は當家に仕ふる女でありますが不圖したることとより面目なきことながら姙娠いたしました。これがわかると私も男も手打ちに致されます。われら兩人と腹の中の子供と三人の命を助けてください。」と申すので民部は「助けたくも助ける方法がないではないか。」と申しま

畫僧、月僊の話

しますと女は「あなたの子供と申して下されば御主人は必ず許して下されます」と云ふのです。これには民部も大いに困りました。が、遂に決心して其の女の願ひの通りにしてやることに致しました。その爲めに女ども三人の命は助かりましたが民部は全く社會的信用を奪はれ、江戸中の知人から冷やかな眼で送られながら靜かな平和な心をもつて美濃の山中に歸栖しました。これに似た話は鎌倉の無南和尚にも原の白隱禪師にもあります。』

『くるしいことはくるしいですな、さういふ場合は。』

『伊勢に月僊といふ畫僧がありました。繪は上手でしたけれど世人から品性を非難されて居ました。それは慾張りで金錢をめあてに繪をかく、金にさへなればどんな人のためにも又どんな註文にも應じて努力しました。それで當時の君子連からは甚だしく誹謗せられたものです。或るとき伊勢の古市の何某といふ賣笑婦から繪をたのまれてかいて持つて行つたとき其の女はひどく和尚を嘲罵して「あなたはお金にさへなれば何でもかゝれるさうですから此の繪は私の腰卷にしますよ。」といふと和尚平氣で「結構ですとも、お金にさへなれば何でもかきますから今後ともよろしくおたのみします。」と云つて畫料を受取つて歸りました。ところが月僊が死んでから段々わかつたのですが彼れは多年匿名で慈善事業に努力し、貧民救恤や病者救濟のためには固よりのこと道

路橋梁の修繕費等にも絶對に自分の名を出さずに寄附して自分は極めて質素な生活に安んじて居つたのでありました。だから彼れの生前に於て彼れを誹謗して居た君子達中は俄かに赤面して和尚の墓に參拜するやら其の畫幅をさがし求めて床にかけて燒香するやらといふやうな狀態でありました。不都合な坊主ではありませんか。』

『自分といふものをまるで殺して生涯を斷送する先生はえらいことをやりますね。現世のことだけ眺めて居てはそんな藝は出來ませんね。』

『むかし或るところに山樵が住んで居りましたが或日家族一同なにか用事があつて近所の町へ行き日が暮れかゝつても歸らず家には若い嫁さんが一人留守番をして居りました。ところが一人の鼠賊が忍び込んで居て物かげから容子を窺つてみて居りました。それとは知らず嫁さんは姑や良人の歸りを待ちながら粥を煮たり掃除をしたりして居ましたが、その行動が如何にもきちんとして居て、身には粗末な衣服をつけて居りますけれど何となく氣品があり、粥のあんばいをみるにも玉杓子から小皿に取つて又た小皿は洗ひ清めて元のところに置き、土間から座敷へ上るにも取りみだしたところは少しもなく其の擧措がまるで茶の湯の稽古でもしてるかと思はれるやうなので、これを窺つて居た賊は深く恥ぢて退却し、それから改心して小商人となりて忠實に勉勵して

十年ばかりの後には相當の身分となり、いろ〳〵の土産物を持つて此の山樵の家を訪問し、實は斯く〳〵の次第だつたと物語りをしたといふ話があります。』

『人の見ぬところでも天地に恥ぢぬやうに生活して行くのは美はしいですね。このごろの一部の有閑マダムなどの我儘な生活とは光りが違ひますね。』

『この山樵の嫁さんのやうな人は教養は無くても死後かならず神仙界か何か立派な靈界に往生して美しい生活を致します。人間界に又た生れ出るとしても人の羨むやうな幸福な家庭に美貌と健康とをもつて生れて來ます。今日の上流社會の婦人で相當に教養のある人でも心がけが駄目ならば死後ろくなところへ行かず人間界へ舞ひ戻るとしても貧困な家に醜婦として生れ出ると斷然まちがひはありません。』

『そんなわかりきつた重大な法則をなぜ多くの人達は注意しないのでせう。現世で二十年や三十年經つのは直ぐですのに。』

『二十年三十年どころか、月末の支拂ひの苦しいのがわかつて居ても無駄なことをしたがるお互ひ樣ですから。』

『どうも人間といふものは餘り聰明ではないやうですね。』

偉大なる無言の感化

『この山樵の嫁さんなんぞは默つて居ても大きな感化を人間界に與へるのですね。世の中は總べてさうしたものです。默つて居て及ぼす感化は恐ろしいです。第一流の人物は著述まがひのことなんか爲ない人が多いです。むろん說教も講演も書きものも必要で、そんなことをする人々も無くてはなりますまいが第一等の人物は餘りそんなことはやらないものです。日本でも等身の著述ある坊樣も隨分居られますが妙心寺の關山のやうに一枚の著述を殘さない人が却て六百年後の今日にも大感化を與へ多數の雲水氏を策勵して居るから不思議です。關山は只だ默々として門前の草取りなんかやつてた坊さんです。』

『人に對して感化力を及ぼさうとか何とか微塵も考へず、自分は自分だけの信念を守つて行くから却て案外なところで光りが出てくるのでせうね。』

『數年前から石城山麓に滯在して居られる中牟田濱子刀自といふ元治元年生れの老婦人が居られます。令嚴中牟田子爵は明治初年の海軍中將で横鎭司令官、海軍大學校長等歷補、樞密顧問官でありました。刀自の令弟の奥樣は山口縣長府の毛利家から行つて居られ刀自の令妹は入澤達吉博士の室であります。そんな家庭の深窓に育たれたのでありますが石城山下の假寓では炊事まで自分でやつて居られ（時折は東京から手傳ひの婦人が參られますが）熱心に信仰の道にいそしんで

調子に乘り過ぎる勿れ

居られます。昨年六月の大祓式の時だつたかと思ひますが風雨を冒して登山せられ祭員諸君や參列者を驚かしたことがあります。ところが信念が緩みかけて居た遠方の或る同志の一人が其れを傳へ聞いて信念を復活せられた事實があります。因緣といふものは實に奇妙なものであります。一人の信念が意外なる方面で思ひがけなく他の人の信仰を策勵することになつたといふのは面白いではありませんか。……天行居では老齡の御方や病弱な御方は成るべく登山せられず山麓で遙拜せられるやうに毎々申上げて居りますけれども。』

『こんきよく自分の信念を守つてやつて行くといふことは尊いことで、いつしか其れが他の人を感化する大功德ともなるものらしいですね。つまり調子に乘らず默々として初一念を堅持して行くところに何時しか道德が積まれて行くのでせうね。……國家でも團體でも個人でも失脚した原因をよくしらべてみると大概みな調子に乘り過ぎる爲めらしいですね。古來興亡消長の歷史を通觀すると確かに此の調子に乘り過ぎるといふやつが大難のやうに思ひますね。當初の發心とか決心とかを何時しか忘れて神祇を易どり天地を易どり師友を易どり部下を易どるといふことが間違ひの起る原因となる場合が多いやうですね。』

『吾れ〳〵人間はどうも何時しか調子に乘り過ぎて失敗します。しかし國家としても團體として

地獄を見て來た細君の話

も氣勢に乘するといふことも勿論必要で、そこが錬達の士でないと手綱の取りぐあひが六かしいのでせう。兎に角個人としては調子に乘り過ぎて失敗する場合は多いです。つまり神祇に見放されるのですね。それについて面白い話があります。これは明治維新後に北海道の巡教をやつて居た或る坊様の談話の受賣ですが……北海道の或るところに夫婦者がありましたが細君が病死したので通夜をしてると棺の中が音がして蓋が動き出したので皆な驚いて逃げ出しました。けれども亭主ばかりは若しやと思つて逃げせもず蓋をあけてみると細君が慄へて坐つて居るから棺から出してやり、急に火にあてゝはいけないから抱いて寢て暖めてやつたので細君は蘇生して數日後には元氣になりました。そして細君は「わたしは地獄をみて來た。實に恐ろしいから今後は信心します。」と其れは〳〵非常の決心でなか〳〵感心な善女になつて居ましたが、その地獄の光景の實見談が聽きたいとあちらからもこちらからも招かれて人氣者となり段々調子づいて來て、遂に若い男と懇意になり命の親の亭主を置きざりにしてドロンをきめてしまつたといふ實話があります。自分が地獄を見て來てさへ此の通りですから氣をつけんといけませんよ。』

神事、祭典參列者の心得

『時間といふものは善くも惡しくも奇妙の作用をするもので、物に慣れて事を輕んずるといふことが危險なのですね。天行居の祭典や神事に參列する人の中にも、場慣れて惡ずれがして其の爲

めに他の人にも迷惑を及ぼし僅かに一人か二人かの左うした人の爲めに全體の空氣に不純の波動を與へるといふやうなことはありませんか。』

『從前に於てはそんなことはないやうですが、今後さういふやうなことのないやうに氣をつけたいと思ひます。いつたい祭典にもせよ其他の神事にもせよ咫尺の前に神祇の降臨を確信して奉仕する人、またはその大前奉拜の人々の間には場慣れたからといつて輕々しい考へが起るやうな筈はないやうに私共は思ひます。獻饌や撤饌や又は齋主が祝詞を奏上せられるといふやうな大切な場合に大前參列者が不必要な雜談をするとか、其他の神事のときでもみだりに談笑するとかいふやうなことがあらうとは私共には考へられないことです。祭典が濟んで直會とか祝宴とかの折には晴れ〳〵と快笑するも勿論結構ですが——嚴肅にいふと直會も祭典の後儀のつゞきともみるべきもので實は直會式といふのが正當で昔はヒボロギとも申し解齋の式を行つて撤下の神饌を戴きましたので嚴肅なる儀式なのですが天行居に於ては普通の祭典や神事の後に於てする直會は其の意味に於て行はず祝宴といふやうな意味で催して居りますので四角ばらずえら〳〵にえらぎ賑ひ隱し藝の一つも出して貰ふやうに希望して居るのであります——其れについて思ひ出しますが先年國幣中社安仁神社の太美宮司が此の無方齋をお訪ねくださいました折に種々と快談いたしま

太美宮司の述懐

盥而不薦
有孚顒若

したが、其の時に太美大人が語られた一節に、

私は毎年幾十回かの祭典に奉仕し、年々それを繰返して居りますが未だかつて只の一度も充分に満足したことがないので甚だ恐懼して居ります。こんどこそは完全に平らけく安らけく清々しく美はしく奉仕いたしたいと何時も念願して居りますが、なか〳〵思ふやうに参らず、潔清に於てか獻饌御調度等に於てか祭式行事次第等に於てか何處かに相済まぬといふ點が後に氣づかれて殘念です。

といふやうな意味のことがあつたやうに記憶いたしますが、祭祀奉仕の責任の地位に立たれた御方は大概みな同様な感じをもつて居られるだらうと思ひます。實は私も同様の經驗をもつて居るのであります。しかし其れにしてもどうにか大過なく祭典を終つて齋服を脱ぐ時の心もちは、これは到底その任に當つた人でないとわかるまいと思はれるほど何とも云へぬ安心を感じます。易の觀卦に盥而不薦。有孚顒若。といふ語がありますが、これは宗廟の祭禮に身を清めて獻饌直前の心境を云つたもので、その誠敬肅恭な嚴然たる心もちは全く天地間に一塵をも認め得ない澄み切つたものでありまして、祭祀奉仕の任に當つた人ならば必ず其の體驗がある筈であります。しかし其れは祭員だけではあるまいと思ひます。大前參列の奉拜者一同も同様であらうと存じま

囚はれたる心外無別法

す。私を以て云はしむれば祭典の責任は祭員だけが負ふべきものでなく奉拜者一同も其の責任を負ふべきものと思ひます。天行居の同志ともあらうものが祭典なり神事なりに參列して不謹慎なことをせられるやうなことはない筈と思ひます。』

『しかし數ある同志の中には色々な人も交つて居られませう。』

『そんな人が若しありとしても追々に氣づいて改めて行かれゝばそれで結構であります。わかつて居りながらことさらに不謹慎なことをせらるるのは神祇の冥鑒は兎も角も既に自分で自分を罰して居られるのであります。むかし或る禪の道場で一人の雲水が心外無別法といふやうな閑葛藤に囚はれて大悟徹底したつもりになり境内の鎭守の神社の大前に踞して糞便を垂れながら「さあ皆な呑よ、神罰も何も當るものではないぞ、三界に微塵の咎めもないぞ。」と努鳴つて居るところへ書院から出て來た和尚が「神罰てきめん、もう犬になつてるぞ。」と大喝し道場から其の雲水を放逐したことがありますが神社の大前でことさら不敬行爲をするやうなものは其の時すでに其の心が畜生になつてるのであります。』

『かならずしも野狐禪の人たちに限らず、いろ〳〵の哲學めいたものをやつた人でも兎角その心外無別法とか一切空とかの道理に縛られて自分は悟つたつもりで間違つたことをやつて却て墮獄

南隱和尙の誡

數靈の神應について

の業を造りつゝある人が多いのではありますまいか。』

『さうだらうと思ひます。それについて面白い話があります。明治時代に渡邊南隱和尙といふ學德ともに高い坊さんがありました。美濃の人ですが青年時代は廣瀨淡窓や佐藤延陵について漢學や易をやり後に佛門に投じ久留米の梅林寺で多年修行して羅山の印可を受けた人で山岡鐵舟等と親交があり鐵舟の招請により東京谷中の全生庵に住して居ました。この南隱に久しく參して居た某居士が方角や日時の吉凶を言ふものを笑つて、「迷ふが故に三界城、悟るが故に十方空といふ古人の語もあるのに日時の吉凶なんぞいふやつは迷信だ。」と申しますと南隱は「それは釋迦にして始めて言ひ得ることぢや。境界の未だ其處に至らぬ者が言ひ得ることでないのぢや。」と訓戒したことがあります。達人になれば見地は格別であります。』

『數靈の神應といふやうなことには實際上いろ〳〵頭のさがる體驗があります。それについて伺ひ致したいのですが、天行居では先年來の豫定の計畫通り鎭護國家の目的で富士大宮の神事を執行され、その前月印刷物で公表された日程通り七月五日幽齋鎭祀神事が行はれ七月七日に御鎭座祭が行はれましたが世人の誰もが豫知し得ざる二・二六事件の判決が七月五日で七月七日に陸軍省から發表されました。どうも斯ういふことが天行居創立以來のべつにありますので頗る感激

神佑也者誠心之反應

して居ります。そこで其邊のことについて靈的事情ともいふべきものの實際過程とでも申すべきところを少し話して頂けませんか。』

『それはどうも困ります。正直に言へば私共にもわからんのです。』

『併しあまりに事毎に奇異で不思議ではありませんか。』

『實は萬事成るべく奇異でないやうに不思議でないやうにやつてるつもりですけれど。』

『個人的な祈願の如きでも眞に誠敬をつくしてやつて居れば必ず神應があるものでせうか。』

『ときおそきたがひはあれどつらぬかぬことなきものはまことなりけりといふ明治天皇の御製を謹みて拜誦してごらんなさい。誠敬をつくしてやつてをれば其れが正しいことである限り必ず早晩成就いたします。正しいことでなければ本當の誠敬といふことにはなりませぬ。このまことといふことが我が神道の教へでありまして外に六かしい理窟は何もないのであります。神法道術の至極も此の誠にありますので此の誠が本物でなければ如何なる神法道術も動力のない機械のやうなものになつて了ひ、うつかりすると正系の神法道術も邪靈に乘ぜられるやうなことさへもあるのであります。副島蒼海先生が神佑也者誠心之反應（神佑ナルモノハ誠心ノ反應ナリ）と云つて居られるのも尤もの儀であります。水位先生が神通在信與不信と申されたのも結局同じことであ

り、素書にも神ナルコトハ至誠ナルヨリ神ナルハ莫シとあります。神法道術を輕易する言動のある人は其れは自分自身で正しい神法道術に相應する資格のないことを自白するものであります。また誠敬をつくしても即座に應驗のない場合も無論あります。それは其の事態と神界の攝理とのコンビ等によるものであります。邪靈系統のものに結緣して病氣が治つたり運氣が立直つたりすることは一時は俗人を驚嘆せしむるやうなこともあり大いに流行することもありますが、喉乾き て毒酒を飲んで一時の渴を醫し快哉を叫ぶやうなもので幽顯一貫の生活の上から眺めると實に危險な且つ十露盤に合はぬ仕事でありますが世人多く此の道理に暗きは氣の毒の至りであります。このことは水位先生も堀先生も切々として徹悃遺訓して居られるところであります。正神界のことは或ひは一時はのろいやうに思はれることもありますが安全であり且つ結果の成行き如何に拘らず正しい神仙界の靈紋理を強化するわけですから勝緣ありて正しい神道を奉ずるものは其邊のところをよく考へておかなければなりません。また物には時節といふこともありまして極端な一例を申しますと昔或る人の如きは三十年も同じ念願をつゞけて遂に神仙の道を成就したとも傳へられて居ります。その人も二十九年でしびれを切らしたら何等の得力はなかつたかも知れません。壺坂のお里でさへも山路いとはず三年越しの拂曉參拜祈願で良人の盲目を開かしめたと申します。それは史實でなく作話でありませうが其れに類する史實は古來各地到るところにざらにあることで世人も承知して居られる筈であります。いかにスピード時代でも一寸した浮氣な信心で正神界の神祇を試みんとするは滑稽なる企圖であります。』

白馬岳社御鎭座滿九年

『そんなことを申されますと私共は固くなつて了ひます。』

『いや餘り容易の觀を爲す人がありますので申しましたが實はそんなにきびしく考へ込まなくてもよいのです。宵越しの牡丹餅のやうに固くなつては却て面白く行かないのです。』

『何事にも不思議な數靈の神應に斷然靈界をリードしつゝある天行居でも例外といふやうな場合もありませう。今年は白馬岳社鎭座の滿九年ですが格別の消息も耳にしませんね。』

今年の山上修法

『去る六月二十七日本部祭典の日には松本第五十聯隊では聯隊旗を擁して白馬岳登山、大日岳白馬大池湖を中心に壯烈なる演習を執行、當日旅團長は恭しく白馬岳社へ參拜されました。また當日淺間山は大爆發をいたしました。』

『今年の山上修法が又た近づきましたね。』

『鎭護國家、國難打開、國威發揚のために嚴肅に執行される豫定であります。齋火庭奉匝の神物も來歷に多少とも議論のあるものは供奉を遠慮し、來歷正確なる重祕の神物御動座を願ふことに

オリンピック大會に關聯して

なりました。何も彼も神ながらの時節であります。皇紀二千六百年を咫尺の眼前に迎へる今日として、もう愚圖々々しては居れません。軍旗の槍の如きも怪しげなものは（本阿彌光遜翁の鑑定にて最後の決定を爲し）撤去し清淨なる石城山鍛刀場にて竹島久勝君が昨年來工夫努力して遂に新たに完成せるものを中川齋主が太古神法にて修法されたものが今年の山上修法から出座の事となり萬事清々しくなりました。』

『去る八月一日朝の日本全土は歡呼の聲に鳴動しましたね。四年後のオリンピック東京招致決定の快報が電破に乘つて走り、全國民は醉へるが如くなりましたね。』

『私共も愉快なニュースとして滿足を感ずることが出來ました。しかし八月四日の閣議で寺内陸相が、

次期國際オリンピック大會が東京において開催されることになつたのであるからこの大會を機會に日本精神を發揚し大國民たるに恥ぢざる威嚴を保持し徒らにお祭騒ぎをなし外國人より輕蔑の眼をもつて見られるが如きことなきやう團體その他に精神訓練をなし、殊に女子の如きは嚴にこの訓練をなし國際オリンピック大會をして光輝あらしめると同時に日本國民の眞精神を發揚しその威信を保持する樣努めなければならない。

と關係閣僚の注意を喚起したと新聞に傳へられて居りますが至極同感であります。なんだが近頃は非常時は解消しかけたかの如く宣傳する自由主義者があるやうですが國難の本當の正念場は今日以後に待機して居ることを夢にも忘れてはなりません。』

『とんどのベルリンのオリンピックではスタートが甚だ振はず曉の超特急吉岡君を始め悉く失脚し悲痛な電波に日本全土が蔽はれて居た折柄忽ち「石城山附近から出た田島君が孤軍奮闘走巾跳に入賞して始めて日章旗を揭げ、更らに三段跳で十六米の怪異的大記錄を以て光輝ある大日章旗を立て全世界を唸らせました。又た白頭山天地大神事の滿三年に當る折柄、半島から出た孫君がマラソンで垢拔けのした成績で優勝して溜飲を下げて呉れました。田島君も三段跳の日には不思議にからだの調子がよかつたと云ひ孫君もラストに入つてから奇妙に全身に精力が滿ちて來たと語りました。石城山で何かとそ〳〵やつてたのではありませんか。』

『天行居には重大な要務が多く、スポーツのお世話までは致しません。しかし天地神祇のイブリはありませう。又た斯ういふ問題にも特別な關心をもつ同志諸君もあつて毎日盛んに神咒を熱唱せられるものですから。』

『四年後の東京オリンピック大會に例のアテネの所謂聖火が來ることになれば少し考へさせられ

ますね。フジヤマの神國にアテオの聖火がやつてくるとすれば。』

『實は○○○○○氏が令夫人帶同で石城山齋火庭の灰を歐米全土の要所へお先きに撒き散らすために今春四月十七日神戸港出帆の照國丸で御苦勞になりました。とんどのベルリンのスタディアムでも齋火灰を持つて令夫人が頑張つて居られた筈です。現幹部は花々しい御披露は致しませんが爲すべきことは歩調堅實正確にやつて居ります。』

（昭和十一年九月五日）

國際問題に對する天行居同志の常識

神道一家言（十）

『天行居は神道團體であり信仰團體であり其の標榜する靈的國防といふことも飽くまで形而上的の使命努力の範圍を一歩も出でないことは能くわかつて居りますが、しかし其れにしても所謂大畜の決算期第一年の春を迎へて國際問題に關する同志の常識とでもいふやうなところを大雑把に話しておいて頂くことは無意義であるまいと思ひますが。』

『さういふことは同志諸君個々に相當に考へて居られることだらうし私が彼れ此れ門外漢の素人考へを話したところで格別御參考にもなりますまい。』

『極めて少數の人たちはどうか知りませんが同志の大部分の間に纏つた定見を持つてる人は少ないだらうと思ひます。甲の新聞を讀んでは成る程と思ひ、乙の新聞をみては其れもさうと引き込まれる位ゐの考へしかあるまいと存じます。』

『私どもに致しましても格別珍らしい考へをもつてるわけはありません。』

『それにしても大雑把な話でも伺つておけば一般同志の氣構への上に參考になる點があらうと信

じます。』

『困りますな、さういふ問題は。天行居の代表的意見といふやうなものは申上げられませんが、私一個の當面の無駄話といふ程度のものならば愚見の一部を申上げても叱られはすまいかと思ひます。しかし國際間の情勢の如き刻々に變化しつゝありますので今日お話しすることを何時までも其の通りだと思ひ込まれては厄介ですぞ。』

『昨年末起つた西安事件をどう見て居られますか。』

『どうも見て居りません。新聞紙上などで色々の六かしい意見があるやうでありますが、あれは學良氏の年末の荒稼ぎといふだけの問題です。』

『あなたは支那をみるに舊式の觀察をして居られるやうですが、支那は滿洲事變の頃から全く大變化をして居ります。支那民衆は國家的信念に目醒め、それから眞劍に奮ひ起つてをります。そのことは支那側の放送ばかりでなく支那の近狀を知つてる諸外國の識者も認めて居り、我國の支那通といふ人々も認めて居り、又た近ごろ南京や上海あたりから歸つた人たちに聞いて見ても同樣であります。』

『私の見方は左うでありません。成るほど五六年來の支那の氣分は變つては居ります。政治家や

一部の學者や軍部、ジャーナリスト、學生の間に國家的の氣概を生じ、實業界でも打倒日本の傳單をバラ撒いて商賣する現狀であり、勞働大衆の間にも子供の遊戯のスローガンにも打倒日本帝國主義が流行して居るではありませうが、私の信ずるところでは國民性といふものは五年や十年で容易に根こそぎ變化するものではありません。たとへば勞働大衆の排日抗日思想にしたところで其れはそれをリードする人たちが排日抗日をやらねば汝等の生活は次第に困難になるぞといふ宣傳が利いて居るので、つまり國家的信念から出發したものでなく自己の生活利害から打算せられた考へです。中層部上層部でも大概さうであります。無論少數の例外は何處にでも又た何時の時代にでもあります。又た支那の軍隊にしたところで近年は相當のスピードで近代的兵器が整備されつゝあること改めて申す迄もありませんが、其れは世界大小幾十の如何なる國でもさうであつて、支那だけが格別の比率で飛躍して居るといふほどではありません。兎に角國民性といふものは五年や十年で根本的な變化をするものでないといふことだけは世間内外の識者や支那通の諸君の前で甚だ失禮ですが私が斷言しておきます。』

『あなたは草深い田舍に蟄居して居られるので新しい世の中の行進が分らんのではありませんか。今後支那に對外葛藤が起る場合は屹度婦女子まで第一線に突進して勇敢に命を捨てますぞ。

それは決して一身一家の利害關係から打算されたものではなく純粹な國家的信念からと見なければなりますまい。』

『感激性な青年男女の中には左ういふこともあり得るでせう。近代人が或種のスリルを求めて居る變態的時代心理もあつてさういふことはあり得ると思ひます。しかしそれは何も滿洲事變以來の劃期的のことに結びつけて考ふるには當りますまい。ずつと昔の大隈内閣の頃の對支二十一箇條にも支那國民が甚だしく憤慨して國恥紀念日まで拵らへたことがあります。さういふことは何時の時代にも折にふれてあるもので支那國民も面子の觀念は他國民に劣るわけでもありますまい。』

『あなたは支那を見くびつて居られるのですか。』

『支那に對して憂慮はして居りますが決して見くびつて居るどころではありません。私は元來支那といふものが好きで支那及び支那人に敬愛を感じて居ります。併し支那民族は一面に於て偉大な性格をもつて居りますけれど政治的にはさうでありません。權謀術數の外交的手腕にかけては恐らく世界一だらうと思はれますが左ういふことは其の民族の政治的能力の優秀を意味するものではありません。』

支那人の政治的能力

『日支親善とか日支經濟提携とか日支協力とかいふことは隨分棚ざらしになつたお題目ですが、しかしどうしても一層の熱意を以て效果的に此れをやつて行かなければ日本も支那も正則的に立ち行くものでないと信じますが、今日の支那の情勢からみて其の實現が甚だ困難であり將來或ひは殆ど絶望的に困難の度を高めるかも知れんといふ不安がありさうにも見えますが、さういふ場合日本は結局どうすればいゝと思はれますか。』

『どうしてもうまく行かないときには、どうしてもうまく行くやうにするより外に方法はありますまい。』

『そんな禪坊主のやうなことを云つては分りません。……それでは話頭を轉じますが先達ての西安事件が起りました頃、北平の大學生が分明に二つに割れて容共主義を是とするものと非とするものとに區劃せられましたが、これは全支那のインテリ層の精神的動向を打診するに足る一つの標準だらうと思ひますが如何でせう。』

『何事でも支那のことは左う簡單に判斷は出來ません。一事件を以て直ちに總てを判斷しようとする日本人の正直な性格は支那を認識するに誂へ向きに不便に出來て居ります。しかし支那の近代的青年の何パーセントかがコンミュニズム又は準コンミュニズムの信者であらうことは想像せ

支那人と共産主義

日獨防共協定の世界的影響如何

られます。その勢力は將來次第に擴大するだらうと思ひます。そんな問題よりも日獨防共協定が成立發表せられたときの日本の輿論ともいふべきものが截然二つに割れたことに關心をもつべきでありませう。』

『昨年十一月下旬にこれが發表せられましたときに露國の憤怒は兎も角として、英米佛の言論界が甚だ不評であり、我が國内に於ても社大黨代表が不要論を唱へたのみならず、日本の大新聞の中に懷疑的態度で取扱つたものが案外に多かつたのは遺憾なことでありました。理窟は兎も角として此の協定が及ぼす明日の世界的影響についてどう考へて居られますか。』

『極めて消極的防禦協定であり淡々たる思想取締の申合せに過ぎざるものを日獨といふ東西の凄いのが共謀して日本は沿海州、シベリアに手をかけドイツは豐饒なウクライナを掻ツさらへる魂膽だとソ聯側では馬鹿げ切つた放送をやつてるやうですが、それはそれとしておいて、フランスの立場は相當に複雜なものと思はれます。露佛同盟と英米佛提携といふ陣形とを結びつけることが第一目標ではありませうが英米には又た露國と或る程度以上接近することの困難な事情があり、フランスとしては其處をどうしても何とかして場合によつては露國との關係を冷却しても英國と堅く結ばねばならぬといふ意氣込みも見えるやうで、要するにロンドンの外交界が何と云つ

英露對獨伊の關係

ても興味の中心と見るべきでせう。』

『英國は歐洲大陸に於てドイツの勢力が强化したり地中海に於ける伊太利の鼻息が荒くなつたりしては忍耐が出來ないから結局は露佛に引き込まれるのではありますまいか。』

『さう簡單には考へられません。だいち世界共產革命の宗旨で押し進む赤露と典型的資本國家たる英國とが本當に吻合するといふことは餘程の場合でなければ實現性が乏しいのです。それに英國にも相當に親獨的な空氣もあるのでしてロンドンタイムスの如きも本來は決して反獨的ではありません。又たロシアン卿にしても前航空相ロンドンダリー卿にしても親獨家として知られて居ります。さつくばらんに云へば英國としてはドイツを叩きつけてフランスの立場をよくすることも又た一種の不安を胚胎せしむることになるのです。ロンドンの外交官は餘程の惡人でないと勤まりますまい。』

日、英、米の關係

『米國はどうでせう。』

『アメリカも英國と協調するだらうと思ひます。現在のところ格別な刺戟がなければ外交問題でアメリカが積極的に動くことは豫想されません。要するに英國をして甚だしくつむじを曲げさせることになれば世界の大勢に非常に動搖を及ぼす結果となるでせう。英國は東洋方面にも重大な

利害關係を有すること今更ら申す迄もなく對支投資の如きも米國の五六倍だらうと思ひますが、日本としては其の點には充分敬意を拂つて通商問題や支那問題では何とかして英國との折合ひをつけて行つて日獨または日獨伊の提携に快き諒解をもつてくるやうに工作することが出來ないまでも露佛側へ深入りさせぬだけの用意は絶對必要だらうと思ひます。英米追隨外交は駄目ですが英米との協調主義は今後の情勢に甚だしき變化なき限り持續して行けさうなものと思ひます。もつとも此の協調なるものは飽くまで自主的でなければ駄目であります。自主的といふことは萬策盡きた場合には他力を待たずとも天の使命を負擔し東洋平和の維持に任じ、人類共同の敵たるコンミュニズムを消毒し得る決意を背景としたる協調といふ意味であります。これが天意の奉行であります。』

コンミュニズムとファッシズム

『舊臘來朝せるベルリン大學のシュプランガー博士を捉へて、コンミュニズムとファッシズム、ナチズムとは哲學的にはどちらが正しいかといふやうな質問をした男がありますが、これに答へて博士が、ファッシズムの哲學とかコンミュニズムの哲學とかいふものはない、あるものはファッシズムやコンミュニズムのイデオロギーだけだと云つたのは面白いと思ひますが。』

『もしも博士が哲學的にはどちらが正しいと答へたとしたらどうでせう。さう云つたところで只

ジイドのソヴエート觀

それだけの話ではありませんか。所詮哲學といふものは天體の運行のやうなもので寸時たりとも停止しては居ないのです。哲學には假定的の點があるだけで面積もなければ線もないものです。嚴密にいふと眞理といふものを持ち合せないのが哲學です。人間界の現實は神界の實相から考へて判斷し得たことでなければ恆久的權威はあるものではないのです。』

『一部の人たちから所謂現代最高の知識人といはれて居るフランスのアンドレ、ジイドのソヴエート旅行記を某雜誌が大々的に譯載しましたが、赤露の人たちの生活の幸福なこと、氣分が平和的で朗かなこと、人道的な愛を彼等に感ずること、文化的設備も大いに進みつゝあること、まるで天國の未成品のやうに讃嘆して居ります。斯ういふものを讀んで思慮未熟な我國の青年男女がどんな考へを培はれるでありませう。』

『そんなのはジイドの旅行記だけでなく、他にもいろ〳〵あります。ボカされたる赤色思想は今日の大新聞や大雜誌を段々と侵しつゝあります。ジイドも虛僞の記述をやつてるわけではないが彼れの感じを書いてるのです。あんな病的な頭腦の男が觀たソヴエート讃美論はフランスでも全體的に支持されてるのではありません。フランスでも健全な思想の政治家も思想家も新聞雜誌もあります。赤露では男女が職業的にも殆ど均等の機會を得て居るため、婦人の線路工夫なども居

り、次第に中性的になつて腕に毛が生えかけて居ります。それが婦人の幸福であるか、又た其れが女性を對象とする男性を幸福にするか、神の道はむすびの道であり惡平等主義ではありませんのです。』

『ボカされたる赤色思想に感染してる新聞雜誌が一番厄介ですね。反軍思想ではないと辯解しつつ巧みな論理や記事の取扱方で盛んに反軍的な氣勢をアジつてるのですから、まるで社大黨あたりの機關紙かと思はれるのがありますね。』

『政黨政治の本場たる英國でさへも英國としては甚だ變態的な所謂擧國一致的な內閣で國策の遂行に努力してる有史以來無前の超非常時です。英國の勞働黨でさへも三對一の多數で軍備擴張費を贊成してる時代です。今後の十年間は平生の理論で鬪爭してる時代ではありません。何も彼も實情に卽して和衷協力して命がけの努力を要する時です。吾々無產者も三度の食事は二度にしても今後の十年間は頑張り通さねばならない時です。』

『あなたは現內閣の謳歌者だといふ噂がありますがさうですか。』

『さうでもありません。どうも東亞の安定勢力たる堂々たる氣魄が乏しいやうに見受けます。日獨防共協定發表のときでも何とか彼とか釋明がましいことをやつたのは何の爲めか不可解千萬で

モスクワのテロ陰謀事件

各國のスパイ戰

す。あまり外交技術に囚はれ過ぎてるのではないかと思ひます。』

『昨年のモスクワのテロ陰謀事件といふのをどう思はれますか。ろくな證據もないのに例のロシア一流の羅織政策で一網打盡にやつつけたのではありますまいか、ろくな裁判もやらずに死刑に。』

『あれは證據も證據なま〳〵しい證據があつたのです。あれは例のトロツキーがナチスの機關ゲスタポの手を以てスターリン政權顚覆に利用せんとしたもので、此の計畫は頗る要領を得たものでゲスタポの巧妙なる掩護のもとにトロツキ！の放つた刺客はコミンテルンの大會に出席しスターリンを自動拳銃でやツつける間一髮のところまで漕ぎつけたのですが大事な瀨戸際で刺客の勇氣が破綻してゲー、ペー、ウーの神速なる活動となり巨魁ジノヴイエフ、カーメネフ、スミルノフ等、皆やられたのです。スターリンを守護してる大きな魔物の威力に刺客が壓せられたのです。赤露のゲー、ペー、ウーとナチスのゲスタポとは雙方ともに凄い存在です。』

『近頃の新聞電報をみますと米國では露國系米人キユーズ氏が米國國務省をして巨額に上る飛行機及び附屬品のスペイン輸出を許可せしめた裏面に露國側の財政的援助あることが暴露して大問題となつてるやうで、このキユーズ氏は十年前來或る商事會社に關係して露國の偵察網を指揮し

明石將軍とレーニン

て居たさうですが、各國ともにスパイ戰は隨分ひどいやうですね。最近に於てもスペイン駐在ベルギー大使館一等書記官が革命軍間諜の嫌疑を受けて政府軍に捕へられ軍法會議の結果銃殺されたさうですが。』

『明治三十七八年日露役のときには明石元二郎中佐がポーランドへ潛入してレーニンに多額の革命資金を攝ませて後方攪亂を策し露國政府へ致命的な打擊を與へました。斯ういふことは昔からやつてることで場合によつては數箇師團や一艦隊の威力にも匹敵するやうな鮮かな藝を一人の女がやつてのけるやうなこともあります。油斷もスキもなつたものではありません。スパイにも上品中品下品の別あり公私大小種々のものがあり單に情報泥坊ばかりではないのです。東洋にも現に東京、新京、南京、上海等は各國のスパイの巢で國際スパイの幹線ともいふべきもので此の外に幾つものローカル線があること勿論です。關門海峽通過の外人の數は昨年度は昭和七年に比較して五倍の多きに達して居り、これは躍進日本の行進譜の一つで歡迎すべきことですが併し警察部や憲兵隊は隨分骨の折れることだらうと思ひます。もつとも物騷なのは外人に限つたことでもありますまいが。』

『歐米諸國では混血關係や其他種々の事情が複雜に錯綜して居りますから東洋よりもスパイの暗

蘇聯の思想侵略政策

躍も一層ひどいだらうと思はれますね。』

『さうださうです。それに又た味噌の味噌臭きは上味噌に非ずで、いよ〳〵スパイの逸品といふ奴になるとスパイ臭いところが少しもなく、又た實質的にスパイでないと云へばスパイでないとも云へるといふ迷彩に包まれた大スパイの存在が最も厄介でせう。警視廳や憲兵隊で確かに目星をつけて居りながら手をつけることが出來ぬといつたやうなものもあるらしいのです。』

『しかし何と云つても大規模なスパイ網は矢張りユダヤ人系のものではありますまいか。赤露のやりくちも萬事スパイ式といふべきではありませんか。赤化思想侵略といふものも要するにスパイ戰略でやつてるのでせう。』

『砲火を交へずして既に先年來こんきよく戰鬪をつゞけて居りますね。地圖を披いて御覽になればわかるでせう、既に赤化した外蒙新疆は滿洲よりも遙かに大きな地域です。それを砲火を交へずして既に侵略して了つたのです。更らに支那內部の諸處に有力なる細胞を作り、內蒙から滿洲北支をも脅やかし、最後の目標が日本なることはコミンテルン大會の決議で明示する通りです。一面に於ては既に印度の北境にも迫つてるやうですが、英國の寶庫印度が段々赤化するやうになれば英國は破產の外はありません。』

蘇聯の極東兵力

『思想侵略でも何でも結局は矢張り背後に武力が必要で露國の極東軍備は隨分大束にやつてるやうですね。』

『極東蘇領人口僅かに二百萬内外で蘇聯人口一億六千萬に對しては極めて僅かですが其の地方に對して昨年の投資額が三十餘億留で總投資額の一割に相當するのですから極東に對する鼻息の荒いことは申す迄もありません。極東兵力は既に歩兵十五箇師團、騎兵四箇師團、飛行機戰車各千臺、しかも其の飛行機の約半數は最新制式の重爆擊機です。日本海沿岸各所に軍要港を築造し、沿海州地方には重爆機の基地を多數準備して居りますから其の態度は相當なものです。』

『外敵の空襲を受けやすい地方にある軍需工場を國内に移轉することになつたとも傳へられますが向うでは日本の空襲を恐れてるのでせう。』

『それはまあお互ひ樣でせう。とにかく今明年の間に大急ぎで更らに兵力を倍加することを露國國防委員會で決定したやうです。』

『浦鹽の潛水艦は四十隻位ゐとも傳へられて居ますが。』

『五〇〇トン型一隻、八〇〇トン乃至九〇〇トン型十二隻、七〇〇トン乃至八〇〇トン型四隻、六〇〇トン乃至七〇〇トン型十一隻、五〇〇トン乃至六〇〇トン型十四隻、三〇〇トン型六隻計

米國海軍の充實と日本

四十八隻は竣工してるやうです。この外に八〇〇トン乃至九〇〇トン型六隻が目下建造中らしいです。』

『方面を變へて南方をみますと、幸ひに近來太平洋の浪も麗らかのやうであり、此上ながら英米當局の聰明なる自重を祈る次第でありますが、先達てのニューヨークタイムス紙には例のバイウオーター君の特別寄稿を掲げ、最近アメリカ海軍の急速かつ組織的なる充實は日本の太平洋上における戰略的地位を著るしく弱め、種々の事情によりアメリカ海軍の主力は何時でも日本近海に出動し得ることになつたことを論じて居ります。又た日獨防共發表當時ハウス大佐は某新聞特派員のインターヴューに對して、米國民の平和愛好といふことも事によりけりで元來好戰的な民族だと云つて居ります。あまり愉快な話とも聞かれませんが。』

『そんなに神經に病まなくてもいゝでせう。海軍方面のことは海軍に信頼してよろしいと思ひます。陸軍方面のことも陸軍に信頼すべしでせう。いづれも專門家が相當の機關で研究もし對策も考へて居るのですから素人が杜撰な資料によつて軍事國防を論ずるのは一種の滑稽です。それよりも恐るべきは國論の不統一といふことです。赤露や支那や某々國のスパイ網は巧妙極まる方法を以て日本の國論を分裂に導くやうに工作して居ります。これが國民一般の最も關心すべき點で

す。この頃のボカされた赤色思想に感染してる新聞雜誌に讀まれてはいけません。』

『古道新年號の「大畜の決算期」の中に、

外交關係が次第に息苦しくなつて折衝に折衝を重ね、誰にも開戰が豫想されるやうになつてから遂に國交が斷絶し宣戰の布告となり、それからそろ〳〵動員令が下るといふやうな紋切型の氣樂なことを考へてる者が大多數なのではあるまいか。假りに露國が日本に對して開戰するとして「今が時期」と認むるや否や、拔打的に制先戰術で襲ひかゝるのは火をみるよりも瞭らかだ。宣戰の布告なんてものは後廻しだ。「今が時期」とみれば戰爭理由の有無等は問題でない。國際法だの人道だのといふものは屁の喝破だ。新聞號外が出る前に敵の軍用機は日本全土を荒らし得るのだ。云々

とありましたが、それを讀んだ時は眞逆そんなことがと思ひました。ところが其れから數月後某新聞に米國の評論家ヴイラード氏の寄稿があつて其の中に、

多分讀者は御存じないかと思ふが大戰勃發の數年以前、時の英國海軍の指導的闘將で多年海相をつとめたサー、ジョン、フイッシヤー提督は、何等の危險感を持たずキール軍港で平和に眠つてゐるドイツ艦隊を宣戰布告無しに擊沈してしまふ許可を與へてくれと英國政府へ正式に要

求してゐる、大戰後になつて發行されたフイッシヤー提督の回顧錄の中でも提督は彼の見解を堅持して、もしこの海賊的行爲を敢行することが許されて居たならばドイツは斷じて大戰を起さず、キールに於て計畫された屠殺によつて數百萬の生命が救はれたであらうと殘念がつてゐるのである。

とあるのをみて驚きました。神經が一インチも奥にある筈の英國神士、しかも海軍長官の重責を負ひ愼重な思慮ある人にして尙ほ且つこんな途方途徹もないことを考へて居たとすれば、まつたくもつて油斷は出來ないことがわかりました。殊に二十餘年前の世界と今日とでは世界の空氣は比較にならぬほど重苦しくなつて居り兵器も大規模に發達し制先戰術の危險は一層深刻ですから、どうしてもいづれ戰はねばならぬ宿命にある先方の戰力に突如として重大な打擊を與へ得る見込みがついたときは何處でどんなことをやらかさんとも限りませんね。』

『なんといつても今日の所謂平和は實力の對抗によつて維持されてるのです。外に理窟は何もないのです。一昨年の秋エチオピア問題で地中海の空模樣が怪しく、英伊の艦隊は今にも火蓋を切るかと危ぶまれましたが英艦隊の後退によつて無事に濟みました。あれを英國艦隊の自重の功德だと思つたりイーデン外相の愼重な思慮の結果だと考へたりするのは私共のやうな善人が左う思

ふだけのことでありまして、實は地中海沿岸に二十四の基地を有する伊太利空軍の睨みが利いただけのものです。外交官が如何に腕を揮つて平和的な條約や協定を山ほど取り結んでも今後の世界に於て物を言ふのは實力だけです。近代兵備に於て立ちおくれてる日本が今日姑息な考へを起して一時の外交的折衝によつて小康を得ることのみを念願したならば、それこそ東亞安定勢力たる日本の實質的立場を弱め、やがて世界平和を破綻に導くやうな結果ともなるのであります。外交上の努力は固より必要であり、今日の情勢では日本は特に英米の神經を不必要に摩擦しないやうに何とか話し合ひも出來さうなものと我々も祈つて居りますけれども、日本の必要なる實質的用意に缺陷を感じないだけなことは根本先決問題であつて此れが甚だしく不安になれば如何なる平和外交の成果も畫餅であります。』

白人の正義感の實體

『國際信義とか白人の正義感とかいふものがどんなものであるかといふことはエチオピア問題の成行きに就て聯盟の態度を中心として大概わかつた筈で　白人といふものは野蠻の魂を文明の皮で包んだものであるといふ言葉は遺憾ながら承認せざるを得ません。道義外交を以て堂々と東亞の安定勢力を以て任ずる我が帝國は飽くまで俯仰天地に愧ぢざる正大の氣を以て押して行かねばならず、極力各方面との衝突を避くる爲めに聰明でなければなりませんが、しかし無道の壓迫に

日露開戰前後の回顧

對しては斷乎たる男性的態度を表示しなければならんことになりさうですが、さういふ場合敵が一國に限定される限り大丈夫とは思ひますが此の複雜な國際情勢では敵を一國に限定する方策が可能かどうか甚だしく疑問とすべき理由が濃厚だらうと思ひます。それを思ふと實に全く大困難に直面して居るものと言はなければなりますまい。明治三十七八年役の頃とは遙かに問題が大きいでせう。』

『もちろんであります。併し明治三十七八年役も實は大冒險でありました。激越なる主戰論に對して強硬な非戰論も行はれて國論は二つに分れましたが愈々開戰となると實に國論がよく統一し、國民の意氣が一つの火の玉のやうになつて神祇を感應せしめ豫想以上の好成績を擧げました。實は其の當時の政府當路者は非常な悲壯の決意で此の正義の軍に著手したのです。決して歷歷たる勝算があつたわけではなかつたのです。剛腹な伊藤公の如きも格別なる重責を負ふ立場上苦悶したといつてもよいと思ひます。明治三十七年二月四日午後、宮中表御座所に於ける御前會議は世界の歷史に大きなエポックを與へたもので、明治天皇が日露開戰を御聖斷あらせられた重大極まるものでありました。會議が終り宮中を退下した伊藤公は直ちに靈南坂の官舍（樞府議長官舍）に歸り金子堅太郎伯（當時男爵）を電話で招きました。金子伯が急いで駈けつけて二階の

書齋に飛び込みましたときは既に日が暮れて居りましたが伊藤公は安樂椅子に凭つて、いつも重大問題を考へるときの癖で下脣をくはへて沈思默考にふけつて居られ、金子伯が室へ入つて來られたことも氣がつかず、伯は公の考へを妨げてはならぬと暫らく佇立して居られたさうであります。やがて氣がついて公は伯に椅子をすゝめ、伊藤公は女中を呼んで食膳を運ばせたが吸物にも刺身にも箸をつけず白粥に自分で食鹽をふりかけて一碗平らげただけで、ポートワインをコップに一杯ひッかけ、それから金子伯を米國に急派する相談をしたさうで、伊藤公ほどの英傑も其の時は食慾が無かつたのであります。……少し餘談になりますが明治神宮の繪畫館にある此日の御前會議の光景は吉田苞畫伯が描かれたものでありますが、吉田氏は其の大任を引受けられたとき、昭和四年の春三月下旬だつたと思ひますが長鹽先生と共に此の無方齋を來訪され、或る件に就て相談して歸られ、それから昭和九年の初夏やうやく完成せられて神宮に納められて又た御來訪になりました。驚いたのは僅か五年の間に吉田畫伯の眞ッ黑であつた頭髮が七割も白くなつて居たことでした。藝術家が名利を離れて大作に精進するときの眞劍な努力といふものは全く頭がさがります。……こんな事情などもありますし此日の御前會議の光景といふものは私には格別な深い感銘となつて居るのであります。明治三十七八年の日露戰爭といふものは實は神界經綸の偉

日露戰爭は神界經綸の發動なり

靈的國防の任愈々重大

大なる發動でありまして、その結果ロシアは一時極東から手を引きバルカン方面へ手を出すことになり種々の葛藤の結論が歐洲大戰となつたので、この日露役は決して日本と露國との問題ではないのであります。若しも日本が勃興せずに日清日露の役も無くて經過したならば今日の世界は完全に白人の支配するところとなり、支那も實質的に滅亡して居るのです。やれ排日だ抗日だと騒いで居りますけれど支那の今日在ることを得るのは日本が勃興して東亞の番人として擡頭したおかげであります。このことは嚴正なる史家が學者としての冷靜な科學的態度から承認しなければならない問題であります。』

『何しろ今度こそ日本も全くの大國難に直面したもので、當分或ひは一時的には局面が展開せられて小康を得るかも知れますまいが大勢として到底のッぴきならぬ大畜決算期の整理委員長として立たねばなりますまい。それにしても靈的國防の任に當る吾等の使命は愈々重大を痛感しますが、年に一度の山上修法や毎日正午の結靈の時の神咒奉唱くらゐのことで濟むわけでもありますまい。地方同志の中には本部から指令があり次第職務を拋つても努力するといふ覺悟をきめてる人も相當にあるやうに思ひますが。』

『まあ、落ちついて沈著に時を待つて居られゝばよろしいでせう。さういふことは本部を信賴し

て居られてよいのです。職務を抛たれるにも及びますまい。』

『どうも世界中各方面で大機の帳尻を論證して來たやうですね。例のピラミットの尺寸計算による研究も最近は從前の誤謬を是正して愈々今後の約十年間に世界の非常展開が實現せられることになつたことを近刊のロンドンのライト誌に發表して居ることも中川先生が話して居られましたが漸く各方面でそろ〳〵正確な結論に近づいて來たらしいですね。安江不空大人も近ごろ何か畏こき奉仕に努力して居られるとか仄聞しましたが。』

『さういふこともありませう。何も彼も時節到來ですから。』

『時節と云へば、支那の赤化問題は全くどうも厄介千萬ですね。近頃西安で赤化宣傳に大活動をやつてるアグネス、スメツドレーといふ女は米國の共産黨員で、この女と上海で會つた事のある人の話によると隨分心臓の強い女だといふことです。』

『支那ばかりではありません。日本國も用心しなければいけません。現に何處の國で印刷されたか分らない日本文の赤化パンフレットが巧みに税關の眼を眩まして入り込みつゝあるのですから。』

ボカされたる赤化思想

『この頃の思想家、評論家、文藝家、政黨者流の或る者、及び新聞雜誌の有力記者の中にボカされたる赤化思想があるといふのはハツキリ云ふとどういふことを指されるのですか。』

『七八割までは反コンミユニズムの論調で行き、或ひは穏健中正の國家主義を裝ひながら二三割のところで巧みに婉曲に反軍思想や赤色思想に導引するやうに仕向けて極めて徐々と知らず識らずの間に國民のタガをゆるめて行きつゝあるものを指すのです。その中には自分でそんな傾向になつてることを自覺せず健全圓滿な常識の愛國者のつもりで居る者もありますから厄介です。小學校や中等學校の先生、專門學校や大學の教授の中にも澤山に居ります。キリスト教牧師などは殆ど半數以上その仲間です。』

神軍の改編問題

『天行神軍本營では表面頗る平靜のやうに見受けますが、例の石城山古來の因緣たるマダデゴヅルの靈氣の發動で突如として神軍が改編せられ活潑な動作に入る準備が進められつゝあるのではありませんか。』

『およそ、そんなことは私は一切存じません。御承知の通り私は隱居の身であり、閑があれば西鶴艶物の研究をやつて居りますので七むつかしいことは一切わかりません。そんなことは宗主か總務か參謀長に訊いてごらんなさい。』

『西鶴だか何だか知れたものではありませんが、それはそれとしておいて、此頃問題となつて居

神ながらなる調和的統制の大精神

る自由と統制との問題、また所謂政黨更生といふ事と軍部を主流とする國策との微妙な對立みたいなものに就てどう考へられますか。』

『天行居はこんな問題で同志の考へを統一する必要はあるまいと思ひます。同志諸君の中には色色の考への御方がありましても、神道團體としての行進に何等不便はあるまいと思ひます。しかし私一個人の考へを云へば萬事調和の二字にあるのではないかと存じます。我國の神代から上代史を讀んで誰でも感ずるであらうことは其のコンポジションが調和的統制の大精神で一貫して居ることであらうと思ひます。それも無理想な雜然たる混同といふやうなことでない天意の顯現が微妙な組織によつて發展しつゝ統制の中に種々のものがそぐひよく調和されて來て居ると思ひます。要するに今日の時代が世界無前の大機に乘りかゝつて居ることを認識したならば種々の概念上の理論に拘泥せず實情に卽して穩健中正にして效果的な進路が其處に見出されるだらうと思ひます。』

『さういふ風に申されますと、つまり哲學的な議論になりはしませんか。』

『哲學ではありません。正しき神界の實相から考へた意味に於ける神ながらの道から申すのです。』

哲學的眞理と神界の實相

『なぜ哲學には眞理が無いだの、正しき神界のトルーステートから考へたことでないと權威がないといふやうな一般世間に通用せぬことを云はれますか。』

『さういふことは毎度申して居りますやうに例の振動學說から考へられても髣髴は思考し得られる筈と存じます。試みに一尺の物差を手にして靜かに考へてごらんなさい。その一尺の物差の四寸目から五寸目までの間の僅か一寸ばかりの間が吾々人間世界の五官を以て認識し得られる範圍です。一尺の全體世界からみると實に僅かな局限せられた間のことしか考へられないのです。振動の數が四寸目から低くても、又た五寸目から高くても吾々には感知出來ないのです。あなたは或ひは斯ういふ經驗がありませう、夜明けなどに夢をみて、夢が醒めるときに夢の世界と醒めてからの世界とのつながりのやうなところで物事の認識の法則が異なつて何だかわけのわからん感覺だけが朧ろげに殘つたことがありませう。それが卑近な一つの考へ方の資料になる筈と思ひます。いかに幽玄な哲學といつたところで四寸目から五寸目までの局限せられた世界の思考方法によつて假設せられたものに過ぎません。二百問に二千答したといふ普賢菩薩の境界だつて此の四寸目から五寸目までの間をウロついた仕事です。』

『話を元へ戻しまして……要するに今日の國防とか外交とかに就てのあなたの根本の考へはどう

今日の國防、外交等について

今後十年間は世界大機の正念場也

なのですか。あなたは外務省や軍部の機關に何の關係もある人でなく、田舍の無名の老書生ですから何を云はれたところで國際關係に悪い影響を及ぼすとか何とかいふおそれは微塵もないのですからあけすけに脱白に一言して頂きたいです。腹の底を一つ。』

『腹の底も何もありません、頭のテッペンから脚のさきまで積極強硬そのものであります。本年新年號古道「大畜の決算期」の中に謹んで抄出しました明治天皇の御宸翰の奉戴實行が卽ち天意の實行であります。國防々々といつても今日あまり無理をしては國民が疲れて結局國力が弱くなるといふやうな俗論が今日全日本の知識階級指導階級に勢力がありますが、これこそ國家を誤るイデオロギーであります。天行居でも常に無理をするなと云ふ、道俗公私とも無理はいけないと云ふ、それは平生普通の場合に於ての心がけを云ふのです。今後の十年間は世界大機の正念場であります。國民は非常な決意を以て無理に無理をして押し一方で行く積極強硬の大覺悟を要するのであります。赤露は石炭でも石油でも鐵でも何でも資源豐富、そんな國と軍備の競爭は出來ないといふやうな弱音は此際大禁物です。成るほど今後の戰爭は科學戰であり兵器の戰爭でありますけれど如何なる場合にも中心勢力となるべきものは必ず人間です。その人間の數も赤露は日本の倍もあり愈々の場合には極東に八十箇師團位ゐは動員し得るかも知れませんが怖れること

日本の天定國運

はありません。海軍方面でも大體同樣であります。財政だの資源だの云ふ問題も必ず何とかなります。西洋の諺に決心せよ然らば汝自由ならんといふ言葉がありますが、この決心を國民がして居らんから彼れ此れ煩悶が起るのです。肚をきめさへすれば支那問題を始め外交問題も正當にやつて行けるやうになるものです。政府の役人が嫁入前の娘のやうにそは〳〵して毅然たる態度がないから外交は日に〳〵難澁を加へるばかりです。固より此際日本國民は大難大艱を忍耐し押し通す大覺悟を要します。萬民みな犧牲を拂ふべき天定の大時期が到來したのです。それを何とかして免れようとする泥坊根性は許されないのです。おそれながら明治四十五年、明治天皇御上天の折に諸外國の新聞は何と論じたか、日本の國運も今日まで奇蹟的に進展したがモウ頂點に達したと申しました。しかし日本の天定國運は其後益々發展し、殊に昭和三年石城山に天行居が出現して以來政治的にも産業方面にも其他各方面にすさまじい勢ひで躍進し始めました。近ごろ又た外國の所謂識者の中には、日本近來の躍進もヤマは見えた、あと一二年で停止するだらうと論じて居る人もありますが、斷じて然らずであります。今後いよ〳〵ます〳〵スピードを出さねばなりません。要するに皇威發揚、國威發揚が日本國の天定大方針であり、すべての考へは此れを本としてやらなければならぬのであります。それが卽ち天意の奉行であります。天意に隨ふものは千

神武不殺の國風

辛萬苦を經て後に必ず榮え、天意にもとるものは一時小康をみるとも必ず衰へます。要するに今日及び明日の日本は無理をすることを避ければ次第に難澁に陷り取返しのつかぬことになります。いかに苦しくとも無理に無理をしてねばり强く押して行かねばいけません。』

『つまりあなたは實力主義者ですか。』

『言葉といふものは甚だ危險なもので、そんな風に言はれることは本意でありません。濱武といふことは最もいましむべきことで、殊に我國は神武不殺の德を以て立つて居る國です。皇軍は輕輕しく動かすべきでないことは改めて申すまでもありません。しかし常に確乎たる自信ある用意が絶對必要だと申すのであります。又た大事の前の小事には最大の忍耐が必要です。昨年十一月の末頃だつたかと思ひますが寢ながらラヂオで奈良丸の神崎東下りの一節を聽きました。甘酒茶屋で詫證文を書くところなども一寸面白いと思ひました。對支外交なども時には多少の抑揚も必要でせう。支那のやうな特殊な國に對して何とかの原則といふやうな動きのとれぬものを押しつけるのはどうかと思ひます。賣笑婦へ貞操を强ひるやうな野暮なことをすれば恥をかくにきまつてるでせう。色男は二人も三人も凄いのが居るんですから。』

『要するに今年から大畜の決算期に入つたといふので、あなたは當面三十億圓の尨大豫算も結構

日本のファッショ化問題と古神道

だと考へて居られるのですか。』

『さういふことは私共にはわかりません。綿密に研究してからでないと何とも云へるものではありません。非常時豫算の假面を被つて不急の事業が計上されて居るやうなことがあるならば充分討議の上で削減さるべきものは削減されるでせう。不必要な苦痛を歡迎するやうな醉狂な人はありますまい。』

『言葉は兎も角として實際上日本も段々とファッショ化して行くのではありますまいか。大畜の決算期に入つて勢ひ左うなつて行くのではありますまいか。』

『斷じて然らずです。苟くも天行居同志として否な日本國民として斯ういふことは深く注意を要する重大事であります。ファッショといふ言葉は伊太利獨特のもので伊太利獨特の精神を盛つたものです、羅馬時代以來の伊太利精神で、語源は戰斧から出て居るさうで、斧を中心にして樺の小枝を集めて束にしたもので結束といふやうなことを意味したもので、或る時代には裁判官の威嚴を加へる爲めに從者が護衞用の意味もあつてファッショ斧を持つて侍立したとかいふやうな故實もあるらしいですが、要するに伊太利魂です。ドイツのナチスは又た純然たるドイツ魂の發揮でファッショの輸入ではありますまい。そんなことはどうでも可いが日本國には神代以來の神な

不戰の爲めの積極强硬

がらの道があり、何も彼も神ながらの道によつて萬邦に對抗し宇内に光被することが出來るのであります。神ながらの道、すなはち皇道、すなはち古神道であります。近頃耳にする國民戰線といふやうな言葉も定義さへ未だ不明瞭であり、そんな歐洲で新流行の言葉に我が皇國の標榜も針路も何等關係はありませぬ。』

『何も彼も天の時であり神ながらの成行きにまかせるの外に方法はありますまいが、併し何と考へ直して見ても今後の大戰といふものに就ては非常に深く考へさせられます。外交の努力によつて戰爭から遠ざかることが出來るならば相當の犧牲は拂つても結局戰爭しない方が勝ちと信じます。』

『私どもの積極强硬といふ意味も成るべく戰爭から遠ざかる爲めに積極强硬の用意が必要であるといふのが第一義たること勿論であります。』

『世間の人も耳にたこが出來るほど聽かされて居ることですけれど、歐洲大戰の帳尻の數字といふものは人類に大きな教訓を與へて居ります。今後の大戰がもたらす慘禍は其れに數等大きなものであらうことも想像に難くないところでせう。戰爭に負ければ申す迄もありませんが勝つたところで國力は甚だしく痛められ國民は非常な打擊を受けることは必定でせう。歐洲方面に戰爭が

戰爭直接の慘禍

我國の經濟實力

あつて東洋方面に戰爭が無しに濟めば此れほど色々の意味で好都合はありますまいが、日本を中心として東洋に大戰があり歐洲が無事であれば其の反對ですから歐米の外交は其れに向つて針路を向けてくるでせう。それに乘せられて日本が戰へば一番馬鹿をみるのは日本でせう。又た戰爭直接の慘禍に就ても近ごろ某國の發明せる液體毒物は僅か三滴で人間を殺す力があり、そんなものを何トンも飛行機へ積んで大都市の空襲をやれば忽ちどういふ結果が現はれるかは考へてみる迄もありますまい。いかに防禦しても四分の一位ゐは空襲の目的を達するといふのが通說らしく、五十臺の敵機が飛んで來ても其の中で射落されたり擊退されたりするのが四十臺としても殘りの十臺は荒びるでせう。死物狂ひで勇敢なのは日本人だけではありません。それが百臺も二百臺も應接に遑なく飛んでくるものと覺悟しなければなりません。其他にも新兵器で驚くべき性能のあるのは澤山にあります。それから又た一轉して戰費といふ方面からみましても机上の大言壯語で今後の戰爭は出來ません。今後いよ〳〵戰爭らしい戰爭となれば戰費は或ひは一年間に二百億圓に達するかもわかりますまい。然るに我國現在の經濟實力はどうでせう。詳密正確なことは知る由もありませんが百五十億以上の戰時公債を發行することは不可能でありませう。つまり日本人の財布が空になつては如何に沖天の意氣があつても出征軍を給養し得ないでは戰爭どころの

日本政府及び軍部の苦心

騒ぎでなく、又た斯かる場合最も注意を要するは赤色思想、準赤色思想の神速なる暗躍の懸念であります。』

『およそ斯かる問題に就て最も研究し苦心してるのは政府であり軍部であります。軍部は何か功名心のやうなものも若干あつて無理な國防充實に努力するかのやうな言ひ廻し方をする人もあるやうですが、戰爭の慘禍といふもの苦痛といふもの戰爭といふものが如何に損なものであるかといふことを最も詳しく研究し最も能く知り、如何にしたならば戰爭せずに國防の安全が保たれ家國民人を危殆に陷れずに濟むであらうかと日夜心肝を碎いて居るものは何處でもない實は軍部當局であります。一部少壯士官などの中には個人的に或ひはどんな考へを持つてる人があるかも知れませんが軍全體として又た軍の幹部としては戰爭を避ける爲めに有らゆる思索を凝らし且つ實地に計畫しつゝあるのです。むろん戰爭を避ける爲めには戰爭の場合を想定して效力ある用意することが第一義であります。實力無くして東亞の安定勢力も何もあつたものではありません。しかし絶對に戰爭せぬといふ陸海軍なるものが世界の何處にも存在しないことも勿論であります。一旦緩急あれば義勇奉公、以て天壤無窮の皇運を扶翼し奉り、更らに天意の達成に努力するのが皇軍の使命であります。天は不可能なことを命ずるものではありません。愈々の場合には必

國民は當局を信頼して國論を統一すべし

ず何とかやつて行けます。やつて行けなくてもやつて行かなければならんのです。天行神軍の靈的國防といふことも、災害防止の靈的努力を使命とするものでありますが、千載一遇の秋が來た時には斷然起つて積極的靈的修法に移り、その任務に全力を盡さんとするものであります。要するに國民は軍部及び政府の苦衷を諒として國論を分裂させないやうにすることが大切です。外交攻擊の聲もしきりに耳にしますが實を言へば今日の國際情勢に於ては誰が局に當つても吾々が無責任な下馬評をやるやうなわけには行きません。日露關係を調整して極東赤軍の大部分を西方へ追ひ返せといふやうな議論もありますが、それが出來れば有難いけれども隨分難問題と思ひます。たとひ議會の祕密會であつても國防や外交のことは或る程度以上實際話せるものではありません。或る程度以上は當局を信頼しなければいけません。帝國議會に限らず如何なる團體でも或る程度以上は當局者を信頼して貰はねば何事も出來るものではありません。兎に角國民は各自に今日突然大地震にでも逢つたつもりで犧牲を覺悟し、丸裸で此世に生れた時のことを思ひ出して愈々肚をきめて今後の十年間の世界のどたん場に直面しなければなりません。』

『あなたの積極强硬といふ意味を部分的にでも別の言葉で何とか話せませんか。』

『當面の至艱至難の時局に對して國民に恐怖心、退歩心を起させては相成らんといふことです。

旺盛雄大な興國の氣象が絶對必要であるといふことです。今後の十年間は特に天が日本國に與へた重大時期だといふことであります。これは決して國防とか外交とかに限つたことでなく、産業、化學、精神運動、あらゆる方面に健全旺盛なる國民的氣魄が必要だといふことであります。』

（昭和十二年一月十八日）

天下者天皇之天下而非天下之天下

神道一家言（十）

今年一月の『古道』卷頭へ近衛忠房卿著「神教綱領」の中の一句「天下ナルモノハ天皇ノ天下ニシテ天下ノ天下ニ非ズ」といふ語を和譯して出しておいた。それは極めて當り前のことを當り前に言つてあるまでのもので、夏は暑く冬は寒しといふやうな言葉と同じことで一點の奇とするところもないことである。

然るに近ごろ或人から案外なる手紙を貰つた。その手紙の意味によると、あの「神教綱領」なるものは明治六年の出版で、その當時の激烈なる王政維新イデオロギーを背景として産出した言葉であつて、我國朝野の學識は其後次第に進歩發達して穩健中正な近代的なものとなり明治天皇の大御心により立憲政治を遊ばすために帝國憲法發布となつたものである。みだりに明治初年頃の神道主義者の激烈な言葉を今日の世の中に持ち出されることは差控へられる方がよいと申されるのである。これは私共の考へと異ると思ふから一言したい。

× × ×

帝國憲法の根本精神

憲法第一條の大權

一昨年來國體明徴問題が縱横に論議せられて我國の帝國憲法が外國のものと根本精神が同一でないことは大概の人によくわかつて居る筈と思はれるのに、どうも竹膜ほどの皮のやうなものが愈々のところを不明ならしめて居るやうに思はれてならぬ。今更ら改めて申すまでもなく帝國憲法は我國の國體の基礎として制定せられたものであつて、參考のために外國の憲法も當時いろいろ研究せられたからといつて外國の模倣ではないのである。立法技術といふやうな點で表面同一の構成のやうに見える點があつても根本精神が全く異るのである。具體的にいふならば第一章第一條「大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」とあるのが帝國憲法の大精神であり萬古不磨の大典である。第七十三條に憲法改正の可能のことが將來のために規定してあつても此の第一條の變更は絶對に許されないことに定められてあるのである。第二條第三條第四條等も國體に關するものであつて永劫に改正は許されないのである。

然らば此の第一條の大權は憲法發布と同時に始めて發生したものかといふと斷じて然らずであつて、神ながらに太古以來大日本帝國は萬世一系の天皇が統治し給ふことに神定められてあるのであつて天下なるものは天皇の天下にして天下の天下ではないのである。それは一つの天日が此の大地を照らすが如く理論拔きの天定事實である。我國に於ては國家法人說は假りにも考へ得ら

れないのである。國家の權力は國民から生ずるといふやうな憲法（獨逸の如き）と我國の憲法とは全く大精神が異るのである。米國あたりも法の根本の力は國民から出ることになつて居るけれども我國に於ては法は天皇の御意志が根本となつて權威があるのである。だから憲法の條章中には外國のものと表面殆ど同一に見えるものがあつても其の解釋は外國流の學說に囚はれず我が國體を本として大日本帝國獨特の解釋をせねばならぬものがあるのである。

我國では天皇が統治者であらせられるから本來いかなる御發令も上御一人の御自由であるから天下なるものは天皇の天下にして天下の天下に非ずといふことは昔も今も寸毫變動はないのである。或る事項は例外として議會の協贊を經ることを要するとしてあり、其の效力に於ては法律が命令に優ると定められてあるけれども總てが第一章第一條の大權内のことである。

第十三條に於て宣戰講和及諸般の條約の締結も我國では議會と沒交涉に行はれることになつて居る。これは外國に殆ど例の無いことである。外國ではタトヒ明文はなくとも條約は概議會に附議されることになつて居るのである。

× × ×

機關說の建前にある外國では政府は人民のために仕事をするのであるから人民の代表たる議會

機關說は我が國體に背き反す

に對して責を負ふべきであり、議會が政府不信任を決議すると辭職するのが當然であるが我國では然らずである。けれども此點に從來誤解をもつてる人が朝野の有識者の間にも多いやうに見えるのは私共が平素重大の遺憾として居るところである。我國の國務大臣なるものは上御一人の御親任によつて大命を拜して職務を擔當して居るのであつて議會の反對が明らかな場合は辭職せねばならぬといふことはないのである。このことがどうもわかつて居らぬ人が多いやうに思ふ。もつとも實際問題としては議會の反對が强烈であるために職務の遂行に困難を感じて辭職を餘儀無くせしめられる結果になることもあるが、それは實際問題としての便宜上のことであつて純理論に於ては我國では議會の反對があれば政府は必ず辭職すべしといふことは云へないのである。議會の反對があれば純理論としても政府は必ず辭職するのが正當であるやうに政治家も學者もジヤーナリストも其の大部分の常識であるかに見えるのは重大なる誤りである。日本の憲法を解釋するのに外國流の考へ方を以てするのは將來に非常な危險を胚胎せしめることになるものと思ふ。私共は政治や時事に關することには出來るだけ意見の表示を遠慮すべき立場に居るものであるが、苟くも國體に關することである限り、神道人としての信念上から默つては居れないのである。斯ういふ問題について信念上、學術上の純理論を述べることは氣兼ねするわけには行かない。

我國の立憲政治は天意の降下也

× × ×

外國の憲法と我が帝國憲法とは其の根本精神に文字通り天地の差がある。我國の憲法も立憲政治も所謂民權の發動によつて出來たものでなく天意の降下によるものである。これは決して私共が私意を以て申すのではない。疑ふものは大日本帝國憲法發布の告文（明治二十二年二月十一日官報參照）を拜讀するがよい。「皇祖皇宗ノ遺訓ヲ明徵ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ」中略「此レ皆皇祖皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラズ」と仰せられてある。これは明治天皇が帝國憲法を發布し給ふにあたりて皇祖皇宗の神靈に誥げ白し給へる告文である。すなはち帝國憲法は天上以來の神ながらの道の發動であつて、皇祖皇宗の遺訓を明徵にしたまへるものに外ならず皇祖皇宗の貽したまへる統治の洪範を紹述し給へるに外ならないのである。天下なるものは天皇の天下にして天下の天下ではないと天日の明らかなるが如く明らかである。曖昧な技巧的な解釋は寸毫もゆるさるべきでないのである。又た同じ日の勅語に「朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス」と仰せられてある。外國のやうに憲法の制定によつて其時始めて元首の權力が發生したのではなく、神ながらに皇祖皇宗より承けたまへる大權に依つて憲法を發布せられたのである。又た同じ日の上諭に「將來若此ノ憲法ノ

帝國議會は民權伸張機關に非ず

或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ」と仰せられてある。絶對的に天意の發動であることは改めて申す迄もないことである。

× × ×

所謂民權の發動によつて出現した議會政治國に於ては議會は鬪爭機關とも云へるかも知れないが、天意の降下による立憲政治たる世界無類の我國の憲政に於ては、議會は斷じて鬪爭機關ではない。明治以來議會に下された詔勅を順次拜讀しても和衷協力して審議せよとの意味のみことのりが多い。和衷協力と鬪爭とは反對のことであることを今日の政黨人等は先づ認識することが先決問題である。この頃の新聞をみると各政黨の責任ある代表者の聲明には鬪爭といふ言葉がくり返されて居るが不心得の大なるものである。議院には玉座があり一つの大きな神殿のやうなものであり聖上の臨御ましますと否とに拘らず日本の議會は神聖なる神庭會議の性質を有するものである。

ところが實といふと議會が邪道に墮したのは近ごろに始まつたのではなく、そも〳〵の第一回

輿論は公論に非ず

の議會すなはち明治二十三年末から二十四年新春にかけての議會からして事實上大鬪爭機關となつて、負傷者までも出し、保安條例で壯士が退去を命ぜられるやら種々の騷ぎがあつて天の怒りが現はれたものか一月二十日には議事堂は火災に罹つて燒失したのである。

とにかく政府當路者も政黨人も政治學者もジヤーナリストも根本から日本の立憲政治といふものについての五十年來の誤つた考へを一洗し、帝國獨特の憲法の神髄を發揮し公正强力なる政治を實行する爲めに今や非常の勇斷を要する時機に迫られて居るものと思ふ。大衆を相手とする新聞雜誌は先づ大衆に賣れることが第一要義であり大衆に媚びるに急にして曲學曲筆日もまた足らざる有樣で、事實上ボカされたる人民戰線思想をアヂるものが十中の九である。さういふものによつて築き上げられたものを輿論といつて居るが、それは決して嚴格なる意味における公論ではないのである。明治天皇は萬機公論に決すべしと仰せられたが今日の所謂輿論なるものは公論ではないことを朝野各方面の有識者は先づシッカリと腹に入れてかゝらねばならぬ。

× × ×

このごろの所謂輿論なるものは嚴格なる意味における公論でなく私論であり邪論である。「多數の俗論」といふのが最も適當である。天意降下による立憲政治國たる日本の政治が若しも「多數

伊藤公、桂公を今日在らしめば

の俗論」に支配されるやうなことになれば明らかに天意干犯である。國體明徴といふことが一昨年來朝野に力説せられて居り岡田、廣田、林内閣いづれも此れを第一に聲明して居るが國體明徴の徹底といふことは或種の出版物を取締つたり教授を首にしたりするだけで濟むものでなく、何よりも其の國體明徴の實を擧ぐるに力むべきであり、國體の本義に反する政治的言動を是正するに勇斷を要するのである。この點に關し新内閣の馬場内相に果してどれだけの信念があるであらうか。

× × ×

伊藤公が政黨を組織する時にどういうたとか、桂公が政黨を組織した時の言葉が斯うであつたとかいふことを今日でも引合ひに出して熱心に政黨主義を强調してる人たちがあるけれど、其の時代と今日とでは僅か二三十年經過しただけれど世界は百年分も二百年分も變化して居るのである。シュプランガー博士も云つてるやうにフランス革命以後誕生した個人主義、自由主義は百五十年を經過した今日行きつまりをみるに至つたのである。伊藤公や桂公を今日あらしめたならば果してどうであらうか。桂公は何とも云へないが智慧のある伊藤公を今日あらしめたならば、松岡式の政黨解消論でないまでも何か一世にアッピールする名案を考へ出して强力なる一

近來の政變と西園寺公の奏薦

大指標を樹建するに相違ないと思ふ。伊藤公は何といつても世界的にめづらしい智慧のある政治家だつた。あれで或る一つの道樂さへ無かつたならば申分のない偉人であつたと私は考へる。

さういふことを有り得ることとして考へ得る一つの生きた資料は眼前にあるではないか。坐漁荘の老人を何とみらるゝか。西園寺さんは昭和七年夏以來聖上の御下問に接し内閣組織者を奏薦するに當り、齋藤、岡田、近衞、廣田、宇垣、林と六回つゞけて政黨外の人物を以てしたのである。堂々たる二大政黨は忘れられつゞけて來たのである。今回の近衞公奏薦も湯淺内府の責任を以てしたとは云へ矢張り園公の思慮が有力に表現されて居るであらう。もつともこれは或る特殊事情によるものであるから其の特殊事情が將來緩和するならば園公は又た政黨首腦者を奏薦することに協力する時代がくるかも知れないと多くの人は考へて居り、或ひはさうかも知れんしさうでないかも知れんけれど、特殊事情なるものを深く考へて見てはどうか。これは世人周知の一二の事件そのものだけではないのである。元來園公はフランス流のリベラリストであり其れが老成して穩健になられたのであつて本來政黨主義者である。その園公が過去五年の長期にわたり六回つゞけて政黨外の人物を奏薦しなければならなかつたといふ儼然たる事實そのものを深く考へてみるがよい。一時の特殊事情としてかたづけられるやうな手輕な問題ではないのである。

黒正京大教授は昭和十一年五月五日の大阪毎日に意見を發表して、

私は先生や先輩の關係で田中内閣以來數次の總選擧に干與したことがあるがだん〳〵國民の選擧に對する關心が薄らいで來、また選擧の度ごとに惡質になつて來るのを見て遺憾に思ひ失望を感ずるに至つた折から、いはゆる非常時となつて議會政治がその機能を十分に發揮することができず國民の輿論、希望を政治に反映さすことが出來なくなつたのである、これでは一時でもよいから何か議會以外の機關をもつて國民の希望、輿論を反映して國民の生活安定を計る方法はないかと考へてゐるが、これはわが國ばかりでなくいはゆる議會政治の發達した國でも何れも同じ惱みを感じてゐるのであつて、その結果形は違ふが色々の獨裁政治が現はれ來たのではないかと思はれる、今では議會に對してその存在を否定するやうな機運が國民の間にないでもないが、これは議會に對してあまりに大きな期待をもち過ぎた結果で議會が萬能的な機能をもつてゐるはずはなく、今までのやうな平穩無事の時代には相當な效果はあつたにしても今日のやうな時世では十分の働きは出來まいし、從つてこれに對して大きな希望をもちまたこれに反對するほどのこともあるまい、ないよりましといふ程度のものである、そのうちに人々の欲すると否とにかゝはらず社會や國民の希望を達成するやうな組織が自然に發生するに違ひな

「數」の政治は天意干犯也

い、それまで議會は過渡的なまた摩擦緩和劑としてのみ存在の理由があると考へる、從つて今回の總選擧の結果について特別の關心ももたないし、いふべきこともないといつて居られるが、公平な學者の見地からみれば大概さういふ風に眺められるのが當り前であらう。政黨關係者か又は或る理由により政黨主義を熱心に支持する多くの新聞雜誌はともかくであるが、相當の見識あり思慮ある人が何者の勢力にも囚はれずに公平に國家の狀態を考へるならば大概この黒正教授の考へに類した考へをもつであらうと私共は思ふのである。しかし低識なる國民の大多數は新聞雜誌に支配される程度の思想の持主であるからたゞ「數」の上からは公平の意見は聲が低くて周圍の騒音のために聽きとれにくい狀態にあるのが今日の日本である。だが、只だ「數」といふものを以て天意干犯を敢てするやうなことになると非常に憂慮すべきことになりはせぬかと思ふのである。斯ういふことは眞面目に公平に國家の現狀を眺める人々が誰しも殆ど同樣に考へることであるが、まだ默つて居る人が多いだけのものであらうと觀測せらるゝのである。

しかし右の黒正教授の意見も此の新聞紙上に現はれた短かい言葉だけでは其の學問的基礎が不明であるが、その根柢に國體思想が正確に理論づけられて居なければ私共の考へと同一意見では

ないのである。たゞ國家の現狀に對する便宜上の對症的方法を考へて居られるだけではあるまいかと思ふ。天行居で提唱するところの根本的な國體道理を各方面で徹底的に研究して頂きたいことを私共は切願して居る次第である。

× × ×

各國の獨裁態勢と日本

實際問題としても、獨、伊、露、支、みな獨裁態勢でぐん〳〵結束的に快速力で國策强化をやつて居り、英米の如き議會政治國も能く時局を認識して比較的長期の强力な政權で一貫した大方針に向つて堂々と行進して居るとき、日本だけが內輪喧嘩をつゞけて弱い內閣が頻々と更迭し、國民は種々の意味に於て岐路に迷つて居るといふ此の狀態をみるとたまらない氣になる。しかも今日の時勢はどうかといふと一日が一年にもかけ合ふほどの重大な時期である。林內閣の佐藤外相は今春フランスから歸つて來て身ぶり手ぶり面白く議會で平和演說をやつて居られるけれど、さう愉快な時局と考へることは相當困難である。

× × ×

國家の起源に對する學者の錯覺

日本獨特の憲法政治といふことを突きつめてぎり〳〵のところまで行くと、國家起源論の問題となつてくるのである。地上の人類は動物まがひのものから進化したもので、やがて狩獵時代から農耕時代に入り、隨處で集團生活に統制が行はれるやうになり權力者が發生し、やがて大權力者が出來て悠久の年月を積んで名門となつたものが古代各國の元首であるといふ風に大概の學說がなつて居り、考古學、神話學、古代法制、言語學、その他關係諸科學の推論に小異あれども大同の通念であつて、我國の憲法學者も國學者も神道學者も此の問題に觸れることを巧みに避け、高尙な辭句をもつてよいかげんのことを言ひ、第二義的の道德論を以て辛うじて不明瞭なる立論の根據として居るのである。さうした普通の概念に立つてどうの斯うのといつてみたところで反對的な思想をもつインテリは腹の底では別のことを考へて居るのである。是れ實に人類重大の錯覺である。この重大問題について天行居は地上人類の妄を啓くべく曠古無前の大使命をもつて石城山に出現し、孤軍奮鬪をつゞけつゝあるものである。昨年（昭和十一年）十一月の「古道」紙上に於ても吾人は、

國體明徵問題と我等の啓蒙運動

國體明徵と教學の刷新とを皇國現下の喫緊事とし、此の國體明徵のためには天壤無窮の神勅を攷究するほど必要なること他に無しとして、東京文理科大學教授荻原廣博士は文部省より研究補助費を受け努力三年大約其の業を終られたり。其の勞眞に感謝すべし。然れどもこの天祖の神敕の發せられたる高天原に就ては一言知るところを得ず。此の根本重大問題に就て我等は同

胞の啓蒙運動をつゞけつゝあるもの也。

と述べておいたのである。又た其の前節に於ても、

高天原は神道教義の本づくところ也。高天原は何處に在りや。種々の茫々たる天文學的假設、種々の海外說、國內說、或ひは帝都の代名詞とし、或ひは心中に在りと云ふ哲學的考證等は今姑らく言はず。現實に神々の神づまります高天原の意味における大神境の實在、其の山河宮殿の位置名稱等まで具體的に明白に我等の信仰の目標となるべき驚くべき福音を地上に宣布し得る天行居の存在は、唯物史觀思想に眩惑せる徒輩の最も嫌忌する所たり。

と申しておいたのである。高天原の行政組織の一端までも天行居では分明に承知して居るのである。萬世一系の天皇が天定天子にましますこと及び帝國憲法第一章第一條が眞に不磨の大典たることを理論で無しに事實によつて覺悟せしめる天行居の存在は亂臣賊子の懼るゝところである。尙ほ此の問題について始めて此の一小篇を寓目せらるゝの士は天行居出版「神道古義」等を精讀していたゞきたい。天下なるものは天皇の天下であつて天下の天下ではないのである。

× × ×

教學、思想、信仰的信念、行政、經濟、產業いづれも近代的國防の要求に調和し得るものでな

穩健中正なる古道信念

羽織の袖口の火を揉み消した瞬間眼前に現はれた大山火事の光景

けらねばならぬ。この點に於て天行居の信念は先天的に其の中樞たるべき靈的因緣を有するものであり、天行居から歩み寄るのでなく總てのものが天行居の信念に歩み寄つて來て居るまでのものである。吾等は益々穩健中正の古道信念を堅持して何者の勢力にも動かされずに行進をつゞけなければならぬ。

× × ×

去る四月十三日（古三月三日）午前十時頃、かねての約束があつて某大人と短時間會談した。その時わたくしの一張羅の羽織の袖口が火鉢の火で燒けてくるのに氣がつき指頭で揉み消した。その時に眼前にパノラマの如く大山火事の光景が現はれた。私が指頭で袖の火を揉み消すことによつて其れが消えたやうに感ぜられた。實は其時の會談內容が國防問題に觸れて居たので、將來敵國爆擊機のためにやられる光景の一部が見えたのかと思つたがこんなことは珍らしくもなく時折あることなので氣にもとめず會談をつゞけた。會談後不思議に渴を覺えて水を二升位ゐ飲んで續けざまに小便に行つた。午後になつて風が起り夜に入つて二十五メートルの烈風となり夜十時半頃縣下萩市に近い山林から火が出て大山火事となり翌朝になつても益々猛烈となるばかりなので縣知事が現地に急行して總指揮に當り縣下各地の消防隊を動員して懸命の奮鬪をやり附近小學

校の御眞影を安全なところへ奉遷したのは何よりであつたが火勢はひろがるばかりであつた。午後になつて幸ひに雨となり夕刻やうやく安心し得る狀態になつた。人家數十戸、山林六千町歩を烏有に歸したが人畜に被害無かりしは不幸中の幸ひであつた。

× × ×

なぜこんなつまらぬ一小話を書くかといふと、同志諸君の研究上の參考のために一つの課題になるかも知れんと思ふからである。靈界の氣線に交通するといふこと、さういふことについての太古神法の地位、さういふやうなことについて同志諸君も種々の體驗による考察を有せられることではあるが、近く石城山道場の修齋課目に新たに加ふべき遠感通神法についても相當の注意を喚起しておきたいからである。

× × ×

中川宗主の御希望により、もう相當の時節とも考へられるので靈山の雲龕をひらき、今夏より石城山道場修齋會に遠感通神法の一課目を特設することにした。來る七月から必ず開始するつもりである。これについて修齋會員に感格道交せしめる靈圖は明治二十九年の秋寫されたもので私が書いたものではない。滿四十一年の天の時節により石城山道場に示現せられることになつた次

第である。

この修法時間中は私も太古神法により祈念修法することになつて居るが、十數年前にやつて居た距地送靈修法とは異るのである。私は只だ横から助力するだけなので私の存在はどうでもよいのである。靈圖そのものが神祕なのであつて其れに感格せられることが要義であるから私が健康上の都合や又は他の理由で合同修法が出來ない場合でも一定の日時に修法して貰ふことになつて居る。もつとも其の修法時間は極めて短かい時間に限定してあるので修齋者は其の直前に充分に精神上の用意をとゝのへられ、嚴肅の上にも嚴肅に感合せられることが必要である。

靈感には顯の靈感と幽の靈感とがある。顯の靈感とは何等かのクシビなる現象が露顯に行はれることであり、幽の靈感とは考へ方によつては靈感とは云へないほどの冥々の間に行はるゝ靈感を云ふのである。顯の靈感は自制力あり反省力のある人でないと往々にして慢心を生じたり圖に乘つてつまらんことになつたりすることがないでもないが幽の靈感は其の不安が殆ど無いといつてよい。奇を衒ふやうな人には少し物足らぬ感じがするかも知れんが此の幽の靈感の正しい長養といふことが最も望ましいことである。今夏から石城山道場で始める遠感通神法は此の幽の靈感の封切りをさせる目的のものである。

最惡の場合の靈的用意

×　×　×

日本が將來某國または某々國と不幸にして開戰を餘儀無くせしめられるやうなことがあると、わが陸海軍は敵の爆擊機は一機たりとも寄せつけないことを理想として用意しては居るであらうが併し最惡の場合も次惡の場合も試みに計算して如何なる場合にも驚かぬやうに國民は有らゆる準備に努力しておかねばならぬ。普通の意味に於ける人事を盡すことが固より第一であつて、天行居の山上天啓第一にも「人の道をつくして神にたのめ」とあるやうに人事を先づ盡した上にも盡すことが第一であるが、しかし有緣の天行居道士は更らに其れ以外の靈的方面の用意も出來るだけのことはしておかなければならぬのである。

郵便も電信電話も一時不通になつたといふやうな場合が萬一あるとしても、自然的に自分の爲すべきこと、執るべき方法が腦裏に感じてくること、又た咄嗟の場合に無我夢中でやつたことでも其れがあとで考へると最善の方法であつたことに氣づくといふやうなことは、相當に必要であらうと思ふ。

またそんな非常な場合でなくても平素においても道俗公私とも萬事さういふ風になつて行くことは望ましいことであらうと思ふ。これは決して人間の常識的努力を弛緩せしめるものではない

石城山道場開設滿九年

のである。尙ほ少しつけ加へて言ひたいこともあるが、差控へておく。

遠感通神法の外にも石城山道場の威力を强める方法について中川宗主と相談中のものもある。石城山道場開かれて滿九年、今夏以後は愈々みつしりと實力主義でやつて行くべき時期となつた。今後の修齋會に參加せられる人は、其の修法內容等は退山後いかに親交ある同志間と雖も語らるゝことを許さないのであるから其れが不承知の御方は斷じて參加しないやうにしていたゞきたい。修齋者は數の多きを期待せぬ。一人でも二人でも眞實の道念を以て努力して貰はねばならぬ。昨年十月十七日の本部の日報をみると、

六月初頭以來長期滯山中なりし高橋貞雄氏、午後六時八分發列車にて樺太への歸程に上る、孜孜營々道俗に亙りて一日も懈怠せず、近來稀れに見る道骨也、今村、竹島兩幹事之を田布施驛頭に送る、云々

とあるが、眞面目な實頭の同志に對しては私共もひそかに期するところがあるのである。其人の社會的地位とか親疏の別などは眼中に無い。

×　×　×

幽の靈感のムスビが出來ると神德に感ずることも格別である。今年三月十一日の本部の日報に

よると、

滿洲國チチハル市在住同志鐵道職員松浦永左衞門氏は本年一月末チチハル驛構外にて氏乘務中のモーターカーと列車と正面衝突せしに奇蹟的に乘務員一同無事、くしびの神德を得今日報賽祭典の申出あり、云々

とあるが、斯ういふことも各自の家庭に於ても職務に關しても常にあるのであるけれど多くはお互ひに氣がつかないことが多いのである。そのわけについてはいづれ又た申上げる機會があらうと思ふ。天行居は國家的にも社會的にも家庭的にも個人的にも災害防止の靈的參謀本部であるといふことについてまだ正しい認識のない人があり、天行居のことは何でも知つてるやうな顏をして議論ばかりして居られる空腹高心の人たちもあるのである。山は高きを以てたつとからず木あるを以てたつとしとす、同志は古きを以てたつとからず信の篤きを以てたつとしとす。信念が不純になると神祇から遠ざかり又た心機一轉して信念が純眞になれば神祇は咫尺に近づきたまふ。その速かなること光りよりも速かである。急喰如律令。

× × ×

要するに信といふものが根本問題である。ところが此の信なるものは本來からいふと一あつて

二無きものであるべき筈だが、なか〳〵さう行かないから厄介である。われ〳〵が日常相當の信念をもつて居るつもりでも能く其れを深く掘り下げてみると、すこし怪しくなる場合がないとも云へぬからお互ひに氣をつけ合つて修養にいそしみたいものと思ふ。左傳莊公十年に小信未孚、神弗福也といふことがある。(小信イマダ孚ナラズ、神、福ヒセザルナリ。)吾々に信實があつても其の信なるものが小さくて充分でなく何處かにスキがあり場合によつては動搖しさうな狀態にあつては神祇がまだこれに感應したまはぬといふのである。この孚(マコト)といふ字は爪に从ひ子に从ふ、すなはち鳥が卵を覆ふ圖である。その子を伏育するは敎へを待たずして神ながらに左うであるから易でもそれを中心の孚といふのである。嫗伏して羽に化するに其の期をたがへず實に神ながらの日用の大神祕である。誠の至りである。信の至りである。母雞の溫氣が遂に貫徹して化するのであつて我れに信あつて其の信力の充實不動によつて物がこれに應ずるのが孚である。途中でやめては卵は鷄にはならぬのである。何彼のチヤンスに激發せられて一時的に白熱的の信念を抱くことは誰にでも出來る容易のことであるが、長年月にわたつて節操ある不動の信念を堅持することがむつかしい。しかしむつかしくないとも云へる。なぜならば其れは學問識見にもよらず社會的地位にも老若男女にもよらず本當のマゴコロさへあれば誰にでも出來ること

だからである。種々の烈しい試煉に逢つたり、あまりにも思はしからぬ狀態が長びき我れは神々に見放されたかと思はれることがあつても守るべき信念を守つて疑はず周圍の人々の惡魔的な囁きにも信力を動搖せしめないといふことは苦行とも云へるが、それこそ尊むべき眞に價値ある苦行であらう。黃金は火に入つても色を變ぜず益々鮮やかな光りを放つが眞實の大信なるものは火中の黃金の如きものである。凡俗の我々では計算の出來ない大きな收穫が其の大信の人たちのために神界に準備されてあるのである。

神法道術の修行についてもさうである。また日常生活の公私種々のことについてもさうである。小信未だ孚ならざれば神福ひせざることは當然のことである。天下ナルモノハ天皇ノ天下ニシテ天下ノ天下ニ非ズといふことを信受するにしても、その信力にも程度があるのである。それについても小信でなく大信にするには理窟だけでは駄目である。國體明徵といふことを口頭禪でなく本氣で念願するならば正しい古神道に本づく宗教的な信念の眼を開かせるより外に道はないのである。糞に懲りて膾を吹くばかりが國家に忠なる所以であるとはおよそ考へにくいやうに思ふ。

× × ×

「結靈の時」記念日に近衞公に大命降下

國內の相剋摩擦の緩和

近衞文麿公が重大時局の脚光を浴びて悠々と登場せられたことは今更ら申す迄もなく全國民の歡迎するところであらう。吾々としては「結靈の時」の記念日たる六月一日を以て近衞公に大命が降下したことについても格別嬉しいやうな氣持ちであることをかくすわけには行かない。公の德望や人氣については全國の新聞などが最大級の活字で連日囃し立てたことであらうから吾々は今さらいふことを重ねていふ必要もあるまい。吾々の本當の心もちを云へば、今しばらく手垢のつかぬところへ祕藏して置きたかつたけれども併し今日の場合として他に可然人物がないので重臣等も愼重に考へた上で奏薦し奉つたものと思ふ。

桂內閣の如く四ケ年も頑張つて貰ふことが出來ぬにしても、大體の膳立てが荒まし濟むまでも御苦勞して頂かねばやりきれないと考へられ、どうかしてそれに近い成行きを徹悃切望する次第であるが、しかし不安がないでもなく、その不安といふのも公の健康問題とか對政黨關係とか常識的に豫想し得られる二三の不安ばかりでなく、別の意味におけるものも絕無ではないのである。いづれにしても此の內閣も餘り長命とは考へられない。

所謂國內の相剋抗爭を緩和するといふことが各方面から期待されて居り、吾々もそれを日夜祈禱して居る次第であるが、近衞公の德望と人氣とを以てするだけでは一時押へに過ぎず、どうし

政黨主義の凋落

ても其の相剋の原因を除去する實際的方法が必要である。最小限度の損害を忍耐して相剋抗爭の根本原因を除去するといふことは德望や人氣だけでやれるものでなく斷行力を伴ふ遠猷大略ある の士に非ずんば能はざるところであるかも知れん。吾々が關心の重點は其處に在り、それにつれて種々の不安もあるといふわけである。

× × ×

昨年の秋頃から特に盛んに囃し立てられる政黨更生のお題目と其れにつれての政黨主義者の言動を吾々の如き嚴居の陳人から眺めれば矛盾だらけに思はれて滑稽至極である。近くは林内閣に咆えついたのは民意の代表たる政黨に何等の基礎を有せぬといふのが理由であつたが、六月四日近衞内閣が成立するや「待望の擧國一致内閣誕生」と大活字で報道した。近衞公は六月一日大命降下の夜「政黨から人を入れるのは政黨の代表といふ意味ではない、個人の資格で入つて貰ふのだから政黨總裁には會はない」と語られ、その通りを實行せられた。十三の椅子の中で政黨人は只だ二人だけ個人の資格で入閣した。政友會も民政黨も近衞内閣の責任を負ふものではないのである。近衞内閣は嚴密なる理論上政黨には關係無いのである。さればこそ其の翌日あたりから政友會内にも民政黨内にも有力なる最高機關にある黨員の間に不滿の意志表示が見えたほどである。

日本政治の最高指標

政黨主義者の理論の不透徹に驚くと同時に政黨の影がます〳〵不明瞭となりつゝあることを感ぜしめられる。子供の時に讀んだ何彼の物語りにあつたかと記憶するが、勝つた〳〵と思つて居たら何時の間にか負けて居たのだつたといふやうな話があつたが、政黨及び政黨主義者は林内閣の總辭職をみて勝ち誇つたやうに見得を切つたが、一貫せる底流の動きが皮肉な微笑を含んで日に夜に進むべきところへ進みつゝあるのがわからぬのであらうか。何しろ此頃の日本の政黨ほど愉快な存在はない。堂々たる二大政黨たる政友會と民政黨との區別がつかないところからして甚だ面白い珍無類の政治現象である。

× × ×

近衞内閣胎動第二日、苦味走つた馬場さんが舞臺の小幕からぬッと顏を見せた丈けでヒヤリとした向きが多かつたことも腹の皮がよれるほど可笑しかつた。

× × ×

念のために附言しておくが私共は『多數の俗論』なるものが無價値無意義なものであるといふのではない。それはそれとして愼重に計算し分析し考慮すべきものであること勿論であるけれども『天下は天下の天下に非ず』といふ根本信念を明言する爲めに、言葉を强めて吾々の心もちを

申上げたのである。日本の政治の最高指標を言うたのである。

『天下は天下の天下に非ず』といふことは所謂官僚獨善主義の辯護論ではない。天照大御神は地上人類大衆の生活安定を最も軫念あらせられたことは稻に關する神勅の古傳によつても拜せられるところで、また古來列聖の詔勅御製を拜しても大御心は古今同一であらせ給ふと拜せられるのである。その大御心を翼贊し奉りて強く正しい政治技術を實際に按排して行くのが國務大臣の職責であらう。しかしさうは言ふものの誰がやるにしても明年度以後の豫算編成は非常に困難であらうと思ふ。このことについては今春二月の古道紙上に於ても一寸言つておいたと思ふが兎に角此際國民の意氣を萎縮させてはならぬ。そこが政治である。それが吾々の最大關心事だ。

（昭和十二年七月一日）

明治天皇の御上天と世界の動き

大畜の決算期

明治天皇の御降誕と御上天とは人間世界に於ける一大事件であつた。この意味はまだ地上全人類が感戴する時期に到らざるのみならず日本國民でさへも深く認識して居るとは云へない狀態である。明治時代が非常な大きな國運展開の時節であつたこと位ゐは誰しも承知して居るけれども、たゞさういふ程度のわけのものでなく、これには驚くべき天意が包藏されて居たので、しかも其れは明治時代に決算されたのではなくして、實は明治四十五年の夏、大帝が神界に歸り給ひて愈々世界的に神界の經綸が動き出して來たのである。

慶應四年戊辰の三月十四日、大帝は百官諸侯と共に天地の神祇を御誓祭遊ばされ五箇條の御誓文を書かせられ皇政一新の本基を立てさせられ同時に御宸翰を下し給うた。この御宸翰こそは實に天意の發動であつたのである。その一節には、

朕コヽニ百官諸侯ト廣ク相誓ヒ列祖ノ御偉業ヲ繼述シ一身ノ艱難辛苦ヲ問ハス親カラ四方ヲ經營シ汝億兆ヲ安撫シ遂ニハ萬里ノ波濤ヲ開拓シ國威ヲ四方ニ宣布シ

天下ヲ富嶽ノ安キニ置カンコトヲ欲ス

と明示し給うたのである。日本國の進むべき道も日本國民の使命も明白である。然るに日本の政治家、思想家、評論家、新聞記者、宗教家等の中に、ともすれば天意に叛き奉るやうな言動を爲すものがないでもない。日本國民は此の御宸翰の威靈を仰ぎて文句無しに前進しなければならないのだ。

×　×　×

大畜の大機の三節

明治四十五年夏、天皇御上天と同時に神界の大活動となり、世は大正と改元せられた。これが又た重大なる天意である。大正の二字は易の山天大畜から出て居ることは世人周知のことであるが、易は六六三十六を以て紀とする。すなはち其れから三十六年間が大畜の大機である。大正元年から大正十三年の夏まで十二年間が大畜の前節、大正十三年夏から昭和十一年夏までの十二年間が大畜の中節、昭和十一年夏から昭和二十三年の夏までの十二年間が大畜の後節である。今後の十二年間が大機中の大機、大畜のラストシーンである。昭和十二年元日を迎ふるに當り、我が同志諸君の注意を喚起せんが爲めに簡單に此の大畜大機の意味を申上げたいと思ふ。もつとも此のことは從來斷片的に何度も申上げては居るつもりであるけれども。

易の本質

×　×　×

易は聖人窮厄して拘囚中に演べたものと傳へられて居るけれども、易は鬼神憑りて人をして述べしめたるもの、多くは神界祕數の一部を寫して能く尙ほ今日の世界に照應せしめて居るのである。たゞ古來多くの俗學の講釋は御苦勞千萬といふまでのもので、易をそんなものと思ふのは愉快なことであらう。

×　×　×

大畜の前節十二年間の世界

大畜の前節十二年間に於ては歐洲大戰を中心として世界がどういふ風に變化したか、日本では關東大震災を幕として多少のショックは感じたが比較的好都合の時代であつたけれども世界の變局は全く以て驚くべきものがあつた。大畜の中期十二年間はどうであつたか、歐洲大戰のあとを受けて世界の懊惱時代であつたやうだが、實は今後十二年間の決算期に備へる用意が畜積された時代であつて、恐ろしい結論を明日の世界に豫想せしめつゝあるのである。日本では二、二六事件を幕として民心を極度に緊張せしめたが大體に國運躍進の十二年間で、滿洲國出現は特に其の中樞であつたのであるが、さて今後の十二年間如何。

×　×　×

日獨防共協定の成立

昨年（昭和十一年）十月十一日夜石城山上に於ける第八回天行神軍特別修法は鎭護國家、國難打開を目的として執行され、近年にない澄み切つた氣持ちで非常の好成績を以て終始したことは參加士官一同のひとしく確認したところであつたが、それから一月有半にして日獨防共協定成立、それにつゞいて日伊の特殊な諒解成立といふやうな運びになつて日本は國際狀勢に自主的動向の態勢を示し、六十年來の英米追隨外交の型を完全に破つて男一疋として土俵の上に飛び出して了つた。そのことの利害得失に就ては複雜微妙なる國際關係上いろ／＼の見方があるにはあるであらうが、兎に角日本國としては空前の新しい意氣を以て昭和十二年の元日を迎へることになつたことだけは重大なる當面の事實だ。代價を拂はずして何物かを得んとするは泥坊根性だ。外交政策とても勿論然り。

×　×　×

大畜三十六年間が世界の大機

雜卦に大畜は時なりとある。この雜卦といふものは最も古意を存したものであるが、大畜を時なりと云つてるのは重大な義があるのである。この大畜三十六年間が世界の大機であつて特に今年以後の十二年間が大畜の何者たるやを地上二十億の生類に否でも應でもハツキリと見せつけるのだ。日本國は大川を涉つて天に應ずること大畜彖辭に明記せる通りに行くのである。清儒王引之を難ずる學者はあるけれど私は從來王氏と道交するところがすくなくない。王氏は、時當讀待、古字時與待通、大畜待也、天災將至大畜積以待之也と云つて居る。天災の將に至らんとして大畜積みて以て之れを待つといふのだ。二十年前の歐洲大戰や又た我が關東大震災の如きも其の應ではあるけれど、あれは皆な瀨踏みのやうなものだ。昨年（昭和十一年）十一月十二日國際聯盟事務局は世界各國兵力の現勢を發表したが、それによれば世界の總兵力はドイツの突擊隊やイタリーの黑シヤツ隊など準兵員を除いても八百萬に達し、大戰當時に比して二百萬の增加を示して居る。しかし其れは只だ兵員だけの增加を示したので、兵器の發達と其の生產畜積とは二十年前とは全く比較にならぬもので、今後世界的大戰が突發したならば其の慘狀は今日如何なる想像力の强い小說家でも描き出すことの出來ないものであることだけは各國專門家の確認して居るところである。大畜は畜積であり待機であり天時であり天災將に至らんとするのである。

昭和十二年夏の白馬岳十年祭をキツカケに靈界は愈々重大動向に入るべく、昭和十三年の天行神軍剏設十周年式、昭和十四年の石城山上神殿十年祭とつゞいて『ふるひにかけてよをきよめる』時代の正念場に入るのではあるまいか。

防空訓練の成績と實戰

×　×　×

先年來我國でも各地方で幾回かの防空訓練が行はれ、其の成績は概ね良好とせられ、報告書には敵機は完全に擊退したとか我等の護りは堅しとか敵機は一機も寄りつけないとかしてあるが、實戰の場合そんなものと思はゞ飛んでもない遺算だ。燈火管制と軒先に水と砂とを用意する位ねのことで空襲に對し安心する國民の樂天的態度に驚かざるを得ぬ。どうも國民が眞劍でないやうに思はれてならぬ。『まあ何とかなるだらう』と思つてるのは至大なる迷信だ。

×　×　×

山上神殿十年祭の意義

大畜の初爻變ずれば巽、天行居である。初爻辰は卯酉にある。昭和二年（卯年）秋の山上天啓に發し、明後年卯年山上神殿十年祭の意義は極めて重大であらう。初の應ずるところは四、爻辰は子丑にある。用意は今年からである。初變ずれば蠱、利涉大川、先甲三日、後甲三日と云ふ、大川涉らざる可らざるは天の數である。先甲後甲は鴻雁來賓に云ふ、蟄蟲咸く俯して內に在り皆その戶を墐ぐと云ふ。敵國飛行機の來襲は旣定の天命と覺悟せねばならぬ。蠱を受くるものは臨であるから其後に來るものは日本天皇の世界光臨であり明治天皇御宸翰の實現であらうけれども其の直前が大難だ。

利涉大川

×　×　×

蠱を受くるものは臨であるといふのは易の次序からいふのであるが、大畜の三が上に之けば亦た臨である。三の爻辰は午未にある。上の爻辰は辰戌にある。

×　×　×

今年丑の爻辰は四に在る。變ずれば大有であつて大いに有り得可らざることあらんとするの義なることと先哲いふところの如し。大有上九、天より之を祐くといふ。大畜上九には何天之衢道大行也といふ。その辰に應ずるや戌に應ずるやは神さびたりとも神さびたり。神祇の司るところ我輩等の徒らに口舌を費すべきでない。辰は三年後也、戌は九年後也。天より之を祐くることのみ思はず、人は人事を盡すべきである。

×　×　×

大川を涉るに利しといふ。太平洋、支那海、日本海とのみ思ふ可らず。易に大川をいふは必ず坎に云ふ。坎は思想たり、毒たり、隱伏たり、先哲みな云ふところの如し。其產インターナショナル固より此れに屬す。爲政者は須らく時務を知るに明敏ならんことを要すだ。利涉大川の利といふ字は和に通ずること世人知る。すなはち大川を涉ることを和することに先づ努力を要する。

大畜を先方より觀れば如何

英米に對しては固よりのこと、ソ聯に對しても何處に對しても極力平和的の工夫を要すべきは今更ら改めて申す迄もない。而かも遂に大川渉らざるを得ざる乎。コミンテルン創立滿十八年に當る今年からは內外各方面に愈々寸秒の油斷もならない。石城山の神籠石を算へて神籌鬼謀の資料とするさへ手ぬるいぞ。

× × ×

大畜を先方より觀れば如何。すなはち大畜の反は无妄だ。雜卦に无妄は災也と云ふ。萬物天に望むところなく災異の最大なるものだと古人は云ふ。敵も此れを知つて四億圓のトーチカで尙ほ足らず不安の瞳目をつゞけて居るは左もあるべし。坤靈圖に无妄は天精起帝、必有洪水之災と云ふ、萬古の神霧を含んで待機するもの白馬白頭の靈湖のみならんや。无妄の三、上に之けば革、敵の根本計畫がコミンテルンの世界的徹底に在るは革卦これを示せり。革の五變ずれば豐、雜卦に豐は多故也と、三族夷滅より云ふ。豐は土饅頭にして墓地のことであり全滅である。地上の人類近く大半或ひは其のこと無しと誰ありて保證し得るものぞ。

× × ×

利涉大川、易に大川を云ふは必ず坎に云ふのである。大畜の初爻が四に之けば初から五までに坎の象がある。又た二が變ずれば二三四が坎だ。又た亥子の水爻を坎といふ場合もあるが大畜では四五に在る。いづれにしても大川を涉らなければ上九に達せられないのだ。卽ち上九の道大いに行はるといふ爻辭が活動しないのだ。

大畜の一卦中に包藏せらるゝ明日の世界

二が五に之けば上卦は巽、山上の天行居である。爻辰は五に於て巳亥である。巳年亥月山上神殿鎭座、象に曰く天の山中に在るものは大畜也と、山下と云はずして山中といふ。鬼神の妙筆眞に赤魔をして怖走失糞せしめる。以て天下に號令すべしといふ。五變ずれば小畜、自我西郊と云ふ。石城山は日本國の西郊に在り。

× × ×

今年より以後僅かに屈指すべき短年月間に電波文化は豫想以上の急速發達を遂げて實用時代に入り、人間の生活は怪奇的に大變革を來すべく、而かも此れを平和的方面のみに限らるゝものと思はゞ大なる誤算だ。斯くして世界は電化文化と靈的文化の調和に入り新天新地を打開すべし。是れ亦た大畜の大有に之くところに兆あり、大有の離が電波たるは今更ら說明を要せざるべし。大畜の三から上も離だ。指一本を以て靈波を動かすものと釦一つを以て電波をあやつるものとにより明日の世界は不思議なスタヂオの中に待機中だ。

達人を以て靜觀せしむれば、國際間相互の驚くべき精妙極まるスパイ戰もフリーメーソンの影繪の如き大活動も大畜の一卦中に包藏せられて居るであらう。スパイ戰は神武紀に片鱗を示すのみならす遠く神代以來のものである。金毛の妖狐がアメリカから先年英國へ渡つたことまで大畜は几帳面に登錄して居るであらう。世界各國の役者や道具だての揃ふのを待つて、そろ〳〵何處かで映寫機のクランクを廻し始める奴も大畜の卦裏に潛んで居るやうだ。

×　×　×

大畜は防止、防禦を以て本義として居るのである。この點を我が同志諸君は特に注意せられたい。大畜は上に艮があり下に乾があつて、乾は大謀であり戰鬪であり、それが押し進むところの世界の大勢であるが其れを艮が防止するところに大畜の本義が存するのだ。大畜の畜といふ字にも聚積と防止との二義があり彖と象とでは聚積の義を以て示し爻辭では防止の意を以て記して居る。六四の童牛之牿といふのも童牛が始めて角を生やす頃に牿（つのぎ）を施して牴觸の性を發せしめないやうにすることを本義とするので、四は初に應ずるのだ。六五に豶豕の牙といふのも殆ど同調で牙といふのは杙のことで、野獸を手慣らして家畜とするために繫いでおく杙であつて此れは六四の場合と異つて稍や刑を用ひる模樣もある。六五の應ずるところは二、爻辰は寅に

大畜は防止防禦を本義とす

ある。昨年寅月寅日の二、二六事件の如きもそれであらう。併し此れは爲政者として名譽のことではない。六四の童牛の牿の如く未發に防がなければ駄目ぢや。

大畜時代に出現し、大畜の意義使命を格別の意味に於て認識する天行居は一面からみると『災害防止の靈的參謀本部』と言ひ得るであらう。國家的にも社會的にも家庭的にも個人的にも天行居のメンバーは皆な斯くの如き信念を持して居ることは今日迄の天行居の足跡にみても實證されるところであり、これが爲めには至大の犧牲を拂つて居るのであるが、此の認識を將來一層鮮明ならしめ、これに對する靈的用意を一層效果的に統制しなければならない時期がやつて來たのである。

艮は山岳であり宗廟であり孤立であり防止である。內外一切の災害を靈的に防止防禦せんとするのが我が天行神軍の大理想であり第一目標である。然るに人類史無前の大危期に直面して能く慘害を防止し得て以て天關打開を待つことが無理である場合は、第二段の態勢として最小の犧牲を拂ひて之に應ぜんとしつゝあるのである。

×　×　×

上九の『天の衢を何ひ、道大いに行はる』といふ天關打開のところまで行くにはどうしても大

川を渉らなければならぬ。この大川は容易なことでないので、これをどうして乗り切て行くかといふことが問題である。國防軍事外交は固よりのこと財政産業及び思想方面に萬艱重襲が約束されて居る。吾々としては其の立場上から靈的努力を擔當せしめられて居るのである。すなはち靈的方面から國家の動向に協調して行くのである。そして愈々上九が變ずれば地天泰の卦となるので皇道の本義に基く世界恆久平和なる新天新地が始めて開闢されるわけである。

兎に角今年以後の十二年間は大畜最後の大機として世界神變曠古のクライマックスに入り、一大疑問符を貼られた舞臺の幕は亂調子の奏樂裡に靜かに上らんとして居るのだ。

× × ×

多年法帖類の刊行をやつてる某所から數ヶ月前、中林梧竹翁のものを發行したが其の廣告の披露文の中に、

我々が、ひしと護つてゐるかに見える財産も地位も名譽も權勢も――ひとたびソヴエートロシアの制度が布かれる時はうたかたの如く消え去るほかはありません、おそるべき時の流れよ。この危機をガツシとばかりふせぎとめ私共を永久に安らかに保たせてくださるちからは、曾つて伊勢の神風の奇蹟にて我等の祖先を救ひたまはりたる天照皇大神の神德よりほかありませ

ん。

といふ一節があつた。今や各方面の有らゆる層の中に斯うした考へが深刻となつて來て居る證據である。日本國政府は此際もつと眞劍に切實に斯うしたところを察する必要があらう。

もつとも恐るべきは今や有らゆる方面の有らゆる層にボカされたる赤色思想が浸潤して居ることだ。自分では意識せずに何時とはなしに時代の潮流で其れに犯されて居り、自分では愛國者のつもりで思慮ある常識家の如く考へ自分で自分を見そこなつてる知識人が今や種々の機關に充滿して居るのである。政治家の中にも教育者の中にも新聞雜誌の有力記者の中にも其れがある。同志諸君よ、此頃の新聞雜誌に讀まれてはならぬぞ。

× × ×

中川先生から又聞きの咄であるが、昨年六月東京支部で山口三郎氏といふ仁が講演せられたことの中に斯ういふことがあるさうである。明治四十四年武昌革命の時、四川省の瀘川に石碑が出た。諸葛亮廻文詩と稱して居るさうであるが、

清朝見碑三一年。明月松風閑中間。
日俄相殺皆天數。不料明月在兩邊。

蘭花鮮來菊花鮮。誰知還有那一年。
三年三三兩桃李。血流曳河骨埋山。
偶猪我狗皆天定。大平自然在其間。
有能解得碑中語。眞等崎山第一仙。

といふのださうで、甚だ變てこなもので難讀難解だが、日俄は日露のことだから明治卅七八年役を云ひ、蘭花云々は滿洲國出現、それから今度來るべきものが愈々決定的な次の世界大戰で血流骨山と云つてるのらしいが、狗猪すなはち約十年後の戊亥年頃には世界平和が來るといふのかも知れない。さうだとすれば大體各方面の靈的豫言などと合致して居るやうである。この古碑が明治四十五年すなはち大畜の起る大正元年に出土したところも面白い。

靈的方面のことは假りに一切眼中におかぬとして、冷靜な數學的常識で、各國の軍部も政治家も國際評論家も思想家も、今や世界の行詰りを言はざるものなく、此處數年間または今後十年內外の間に世界は非常打開をみるものとして居ることだけは何人も好むにせよ好まざるにせよ肯定して居る。

× × ×

利涉大川と燃料問題

どうしても今年以後の十二年間に大川を涉らなければならぬが、その大川すなはち坎なるものは實は有らゆる艱難である。これを吾等は國難と目するのだ。その艱難なるものは種々であるが、燃料國策の如きも其の一つである。代用燃料工業の振興といふやうな問題も一般國民は甘く見て居るやうだが容易のことではない。シエール油、石炭乾溜タール、石炭液化油、瓦斯重合油、アルコールにせよ國策としてやるには大きな資本が要る。技術家の養成にも相當大規模な施設が必要であるが、今のところ當局には何等の用意が無いやうである。研究はやつてるやうだが研究といふ程度から一歩も進んで居らぬ。スハ鎌倉といふときに、海軍の如きは最善の策でない迄も次善の策として相當或る冒險的な妙案（？）も計算して居るではあらうけれども微妙なる國際神經の葛藤が……待てよ、滅多なことを申すまいぞ。鶴龜々々。

× × ×

支那問題と險なる英國の策動

支那の近狀も固より大畜決算期の水面に浮んだ泡沫の一つである。次第に局面が厄介にこぢれて行くにもせよ、案外あつけなく取敢ずは一段落となるにもせよ、其の底流の渦は今後次第に速度を加へて擴大するものと見なければならぬ。

しかし吾々は實は眼前の一波一瀾には世人が興味を抱くほど昂奮は感じないのだ。根本的な世

界の靈的行進のコースに就て冷靜な凝視をつゞけて居るので、それは新聞紙上に大きな活字が並んだり與太電報の號外が飛んだりする時期に限つたわけではない。

とんどの事件で世人の眼が赤露に向けられて居るのは固より當然であるけれども、日本の對支政策を困難ならしめて來たものは赤露よりも寧ろ英米だ。殊に老獪なる英國の手口には隨分苦しめられて來た。米國のやりくちは概して言へば傳法肌で却て毒氣のないところもあるが、英國の執拗なる陰險な策動は日毎に日本の立場を困難ならしめて來たのだ。だが藥が利き過ぎた今後の成行き如何によつては英國の對支經濟政策も或ひは案外な不安に脅かさるゝ結果となるかも知れないし、其邊のところで氣がつけば極東に於ては日本と格別な諒解を必要とすることに英國の當路も反省してくるかもわからないが、どうもロンドンの政治家は智慧が多過ぎて深慮遠謀が度を超えて却て自繩自縛になるやうな傾向がある。もつとも實際主義で動く先生たちだから利害の見透しが分明になれば行きがかりなどにこだはる御國柄ではない。兎に角とんどの支那問題を中心とする日本の立場も益々多艱多難となるものと覺悟しなければならない。

滿洲事件や上海事件の頃と今日とでは英米の立場が變つて居ることも覺悟を要する。

× × ×

いつかはやつてくるであらうところの大きな危險、それに就て吾等は寸時も油斷しては居れぬ。今後の戰爭と云へば日本人の大多數者は明治三十七八年の日露戰爭に毛の生えたもの位ゐに考へて居るやうだが、あれは今日からみれば德川家康や豐臣秀吉がやつた戰爭と大差なきもので今日では何の參考にもならぬ。兵器や戰術が大進步したばかりでなく、戰爭に關係する有らゆる條件が大變化して居るのであるのに國民の認識が甚しく不明瞭すぎるのに驚く。陸軍や海軍でもツト突つ込んで一般國民に戰爭常識を普及する必要はないか。數年前の滿洲事件や上海事件も實は戰爭といふほどのものではないことを國民の大多數者は知つて居ないやうだ。今後近代的武備を有する大國を相手に不幸にして火蓋を切つた場合どういふ狀況が目前に現はれるか。

外交關係が次第に息苦しくなつて折衝に折衝を重ね、誰にも開戰が豫想されるやうになつてから遂に國交が斷絶し宣戰の布告となり、それからそろ〳〵動員令が下るといふやうな紋切型の氣樂なことを考へてる者が大多數なのではあるまいか。假りに露國が日本に對して開戰するとして、『今が時機』と認むるや否や、拔打的に制先戰術で襲ひかゝるのは火をみるよりも瞭らかだ。宣戰の布告なんてものは後廻しだ。『今が時機』とみれば戰爭理由の有無等は問題でない。國際法だの、人道だのいふものは屁の喝破だ。新聞號外が出る前に敵の軍用機は日本全土を荒らし得る

戰爭といふものの

のだ。極東露軍一千臺の飛行機は暗號密令一下と共に四時間足らずで日本國の上空に姿を現はし得るであらう。無宗教國の赤露が今後死力を盡して決戰する場合、いかに非人道的なことをやるかは想像に難くない。毒瓦斯の如きもホスゲンだとかイペリットだとかいふものよりも更らに惡性のものが多量に貯藏されて居る筈だ。

× × ×

日本國は固より平和維持が念願であるが今日に於ては特に戰爭を好まない理由が幾つもある。米國や露國も今日は決して內心戰爭を欲しては居らぬ。それで定石的な見方を以てすれば當分此處數年間は極東に於て大戰が開始されるといふ豫想は出來ないとみるのが紳士的であらう。先日のロンドン電報でみれば、露國政府は國境東西二千マイルにわたり佛國のマジノ線を眞似て三百萬の兵を收容し得る堅牢無比の防禦線の構築を計畫し完成まで五ケ年を要する見込とある。しかしながら戰爭といふものは必ずしも爲政者の計畫通りに豫定せられるものでない。微妙な機緣によつて案外なところに乾坤一擲の大事が突發するのが寧ろ普通である。今やヨーロッパと云はず東洋といはず危險極まる發火點は殆ど無數に伏藏されて居るではないか。

× × ×

易を借りて天意を語る

君子に三畏あり

天意は正面から語ることを許されない。易を語るは實は强ひて假りに姑らく易の言葉を借用したまでのことだ。古神道を奉ずる諸君、惑はるゝことと勿れ。

× × ×

日獨防共協定は當然のことで、この協定に關係せる事項は一切周圍に牽制さるゝところなく不撓不屈效果的にやつて行かなければならぬが、しかし此の協定以外廣田內閣の外交上の態度に悉く私は同情して居ると云ふわけではない。しかしさういふことは云はぬことにしておきたい。

× × ×

孔子は曰へり。君子に三畏あり、天命を畏れ大人を畏れ聖人の言を畏ると。このこと輕人と語り難し。

（昭和十二年一月一日）

一筆啓上

◉昨年十一月十日、中川宗主、長驅總務、花岡參謀長御來談下され候節、要談を終りて後、畏れながら明年は宸襟を惱まし奉る如き大事變帝都に起ることなきや一抹の暗雲を東天に觀ることを語り候ところ、三大人太だ憂色あり。何とかならぬものにやと申され候へども、小生も如何なる事態なるや確知し得ず、ひそかに皇室の御安泰を祈念するの外無かるべきかと謹みて對へ候次第に御座候、其のため中川齋主は翌日山上修法の際ひそかに此の意味に於ても祈禱せられたることに御座候。又た今年新年號古道紙上に於ても今年より容易ならざる時期に入ることを微言しおきたる次第に御座候。

◉然るに今春二月二十六日東都に勃發したる大事件には恐懼の外無之候。實に我等皇國民の一員として天地に對して申譯無き儀に有之候。陸軍の責任など申すわけのものに非ず候。種々複雜なる意味に於て全國民の責任に御座候。此時此際、深く猛省するを要し候儀に御座候。咽喉元過

ぐれば熱さを忘るゝやうにては明日が恐ろしく候。然り實に明日が恐ろしく御座候。

◉今回の大變亂が或る一線を越ゆることなく鎭定したるは、全く大御稜威の然らしむるところに御座候。此の一大事を深く考へざるに於ては、口頭に國體明徵を說くともそらごとに御座候。

◉多年天行居に於て力說するところの如く神の道は『むすび』の道に御座候。まことの神の道は卽ち組織的、統制的、差別的、段階的に御座候。理窟は兎も角、正神界の組織が斯くの如くになり居りて、その如くにするが神習ふ道に御座候。反組織的、反統制的の思想行動は、神の道に反するものに御座候。其の志に憐むべき點ありても不都合に御座候。

◉神の愛は平等なるが故に當然の『むすび』に依りて不平等の相を現じ申候。すなはち是れ天之正命に御座候。其處に反省もあり修養もあり努力もあり向上も有之候。是れ現世のみのことに非ず、幽顯不二悠久の生活史上の活事實に御座候。現世のみのことを觀て居る人々はどうしても無理な考へが起り、それが過激な思想となるものに御座候。

◉中正穩健の信仰團體たる我が天行居同志諸君は、今後一層の努力を以て鎭護國家のため御祈念相成度奉願上候。

◉今年は大楠公が忠死を遂げられたる延元元年丙子六百周年に相當するを以て、近く石城山本

部に於ては其の一門將士の慰靈祭を執行せらるゝ筈に御座候。楠公は其の建言の用ひられざるに及びても天を怨みず人を咎めず尙ほ最善の努力を忘らず從容として必死の地に入られ候。是れ大楠公が聖中の聖たる所以に御座候。此の消息を深思すれば、誰しも靈魂は卽時に淸められ、大光明に攝取せられ申候。實に不思議の靈驗に御座候。

◉躊躇いまだ出でず、鶯鶯いまだ鳴かず候へども、天氣の運行は年々歳々かむながらにめぐりつゝありて人間これを畏れざるに於ては更らに大威の到るものあるべく候。敬具。（昭和十一年三月十七日）

寒沙奔火

◉「神道一家言(十)」は一月中旬に書いて編輯部へ送つておいた。然るに其後帝國議會停會、廣田內閣總辭職となつた。とんなことにならねばよいがと心配して居たが、案外に早く不安感が實現して了つた。しかし一家言に書いておいたことは何も訂正する必要は感じない。

◉昨今の世相に就て私としては感想が無いでもないが、それは玆に言ふことを好まない。只だ、此頃の新聞紙上等に見ゆる論調に對して私は愉快を感じないことだけを一言しておけばよい。

◉怒目横行與虎爭。寒沙奔火禍胎成。雖爲天上三辰次。未免人間五鼎烹。これは黃山谷が蟹を詠じた詩だ。所存あつて此處に書いておく。

◉しかし眼前の一波一瀾について餘り心を痛ましむるには及ばぬ。下ッ腹に力を入れて靜かに大局を達觀して居ればよろしい。いづれ神ながらに成るべきやうに成つて行くだけだ。目前尙ほ

多少の不愉快なる曲折があるにもせよ、いづれは天意のまに〳〵日本國は行進する。私は今、口を極めて罵倒したいこともあるが、むく〳〵する腹を撫ぜて默つて居る。

◉吾々には吾々としての守るべき分野があり職責がある。精力を分散せぬやうにして其れを有效正確にやつて行かねばならぬ。全國の同志諸君、今後は一層眞劍に熱烈に毎日正午の「むすびの時」の神呪奉唱に努力して頂きたい。周圍の方々、同志でない人々にも及ぼして成るべく多數協力して頂きたい。どうぞ〳〵御願ひ申上げる。私の考へは「神道一家言」を熟讀して頂けば分明である。

◉神殿の大前で祭典を執行したり神典の講義をしたりすることだけが神道ではないのである。度會延佳の「陽復記」には「それ神道と云ふは人々日用の間にありて、一事として神道にあらずといふ事なし」と云つて居るがこれは古意を得たものだ。この「陽復記」は當時朝廷に獻上して非常に御感あり遂に位一級を進められたと傳へられてある。神道人が神道精神から今日の大國難時代を眺めて無感覺であるか、無感覺でないまでも一身一家の地位の安全を偷まんが爲めに無感覺を裝ふやうならば日本國に神道團體の存在は殆ど無意義である。天行居が鎭護國家、國難打開等の目的を以て神事修法を執行するのをみて、かれこれ云ふ人もあるが、吾々は今後愈々益々努

力をつゞけること勿論なることを玆に言明する。この意味に於て吾々は何者の壓迫をも恐るゝものでない。文字通り萬難を排して所信を堅持して進む。

◉併し如何なる場合にも國家社會の安寧秩序の維持といふことが吾々の第一念願であつて、何事も此の第一念願を本として判斷すること昨日も今日も明日も同樣だ。その時の政令を奉行するといふことが天行居精神だ。これは多年天行居で唱道して居る產靈紋理の神律といふことから當然に結論せらるゝところであつて、本居宣長翁も

かもかくも時の御令にそむかぬぞ
神のまことの道には有りける

と詠んでおかれた。これは天行居同志だけでなく日本全國民の信奉すべき根本觀念でなければならぬ。否、產靈紋理の神律に本づく保安主義は追々に全人類に信奉せしむるやう努力しなければならぬのである。それにつけても其の正面の敵は赤色思想だ。

◉昨日中川宗主と會見した。宗主も愈々今年內に準備を整頓して天行居の推進力を强化する御方針であらうと思ふ。

◉この二十三日にはモスクワで元ソ聯重工業人民委員部次長等十七名に關するスターリン政權

ひつくり返し陰謀事件の裁判が開かれた。昨年のジノヴイエフ事件よりも一層注意すべき事件だ。

◉只今（二十七日朝）までのところ東京の政局も混沌として居る。今度どんな内閣が生れるにもせよ、又た其の内閣がどんなに變化するにもせよ、どんな大藏大臣が就任するにもせよ、明年寅年明後年卯年頃には我國の財政は相當困難に逢着する。しかし我が國民の健全なる常識と奮闘力とにより大概格別のこともなく乘り切るものと確信する。けれども其の乘り切りぐあひが見事であるか餘り見事でないかは大藏大臣の政治的技術の巧拙が大關係する。さういふことを考へることは愉快なことではないが、實は其れよりも外に不安な問題がある。何と云つても世界は大畜の決算期に入つたのだ。超非常時だの準戰時だのと口頭では八釜しく言ひながらも案外に認識の淺かつたことを今や各方面で暴露しつゝあるではないか。しかし問題は今後にあるのだ。

（昭和十二年一月二十七日）

古道神髄 上卷

不許複製

天藏居版

昭和十五年七月十五日印刷
昭和十五年七月二十日發行

定價一圓五十錢
外地一圓六十五錢

著者　友淸歡眞

發行者　川内敬五
東京市牛込區市谷田町三ノ二〇

發行所　山雅房
東京市牛込區市谷田町三ノ二〇
振替東京一二〇〇二五番

印刷所　米岡印刷所
東京市神田區三崎町二ノ一

出版書目

神道古義

友清歡眞著　神霧を闢いて光宣せられたる天啓の大思想

天之卷・地之卷
菊判各四五〇頁
クロース裝釘
定價各壹圓九拾錢（送料共）

口語神判記實

皇太神宮主典山口起業原撰。古道編輯局譯。神異靈驗記

四六判二八五頁
定價壹圓拾錢（送料共）

月刊古道

靈的見地よりせる古神道の研究機關

購讀料
一年壹圓八拾錢（送料共）

右の外既刊書、パンフレット種々あり

神道天行居

山口縣田布施局區內
振替大阪六六六三七番

終